

ミャンマー連邦共和国
通関電子化を通じたナショナル・シングル・
ウィンドウ構築及び税関近代化のための
能力向上プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成28年8月
(2016年)

独立行政法人国際協力機構
産業開発・公共政策部

産公
JR
16-058

ミャンマー連邦共和国
通関電子化を通じたナショナル・シングル・
ウィンドウ構築及び税関近代化のための
能力向上プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成28年8月
(2016年)

独立行政法人国際協力機構
産業開発・公共政策部

目 次

目 次

プロジェクトサイト位置図

略語表

評価調査結果要約表（和文・英文）

第1章 中間レビュー調査の概要	1
1-1 調査団派遣の背景	1
1-2 調査目的	1
1-3 調査団の構成	2
1-4 調査日程	2
1-5 プロジェクト概要	2
第2章 評価の方法	4
2-1 評価の方法	4
2-2 情報収集方法	5
第3章 プロジェクトの実績	7
3-1 投入の実績	7
3-1-1 日本側の投入	7
3-1-2 ミャンマー側の投入	9
3-2 アウトプットの達成度	9
3-3 プロジェクト目標の達成度	17
3-4 上位目標の達成見込み	17
3-5 プロジェクトの実施プロセス	18
第4章 評価結果	20
4-1 妥当性	20
4-2 有効性	21
4-3 効率性	21
4-4 インパクト	23
4-5 持続性	23
4-6 結 論	24
第5章 提 言	25
付属資料	
1. 協議議事録（M/M）、中間レビュー調査報告書（英文）	29

2. 評価グリッド（和文）	77
---------------------	----

プロジェクトサイト位置図



略 語 表

略 語	欧 文	和 文
ADB	Asian Development Bank	アジア開発銀行
ASEAN	Association of Southeast Asian Nations	東南アジア諸国連合
CIS	Customs Intelligence Database System	通関情報統合判定システム
CLMV	Cambodia, Laos, Myanmar, Vietnam	メコン諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）
CY	Container Yard	コンテナヤード
DG	Director General	局長
FAQ	Frequently Asked Questions	よくある質問
GDP	Gross Domestic Product	国内総生産
HS	Harmonized Commodity Description and Coding System	承認の名称及び分類についての統合システム
IT	Information Technology	情報技術
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
LPI	Logistics Performance Index	物流効率性指数
MACCS	Myanmar Automated Cargo Clearance System	ミャンマー版 NACCS
MCD	Customs Department, Ministry of Finance	ミャンマー財務省関税局
MCIS	Myanmar Customs Intelligence System	ミャンマー版 CIS
MM	Man Months	人月
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録
MMK	Myanmar Kyats	ミャンマーチャット（通貨単位）
NACCS	Nippon Automated Cargo and Port Consolidated System	輸出入・港湾関連情報処理システム
NSW	National Single Window	ナショナル・シングル・ウィンドウ
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
OGA	Other Government Agency	税関以外の他省庁
O&M	Operation and Maintenance	運用・維持管理
PCA	Post-Clearance Audit	事後調査
PCM	Project Cycle Management	プロジェクト・サイクル・マネジメント
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス

PO	Plan of Operations	活動計画表
R/D	Record of Discussions	討議議事録
TRS	Time Release Study	通関所要時間調査
USD	US Dollars	米ドル
VCIS	Viet Nam Customs Intelligence System	ベトナム版 CIS
VNACCS	Viet Nam Automated Cargo Clearance System	ベトナム版 NACCS
WAN	Wide Area Network	広域通信網
WB	World Bank	世界銀行
WCO	World Customs Organization	世界税関機構
WG	Working Group	ワーキング・グループ
WTO	World Trade Organization	世界貿易機構

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ミャンマー連邦共和国	案件名：通関電子化を通じたナショナル・シングル・ウィンドウ構築及び税関近代化のための能力向上プロジェクト
分野：財政・金融	
所轄部署：産業開発・公共政策部	協力形態：技術協力プロジェクト
協力期間：2014年2月～2018年2月 (4年間)	協力金額：5億500万円（事前評価表時点の見込額）
日本側協力機関：財務省関税局	先方実施機関：ミャンマー財務省関税局（Myanmar Customs Department, Ministry of Finance : MCD）
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>ミャンマー連邦共和国（以下、「ミャンマー」と記す）は、2011年3月の新政権発足以降、従来の中央集約的経済から市場経済化に向けた諸改革に取り組んでおり、2011年10月の車両輸入規制の緩和や銀行の外貨取引の解禁、2012年4月の為替レートの統一化に向けた管理変動相場制といった政策を次々に導入している。近年の経済成長率をみると、欧米による経済制裁解除やミャンマー国内の経済改革への期待による投資・貿易促進、インフレ率の抑制等により、2011年は5.5%、2012年は6.2%を達成した。</p> <p>ミャンマーでは、労働集約型・輸出志向型産業を中心とした民間セクター開発を進めているものの、投資のボトルネックのひとつに煩雑な行政手続等（通関手続も含む）が挙げられている。通関制度の整備（通関システム含む）は、ASEAN諸国内でも大きく出遅れ（世銀調査「物流効率性指数（Logistics Performance Index : LPI）」では、域内最低の122位/155カ国）、また輸出入量が増加しているにもかかわらず、税収に占める関税収入は3.2%と非常に低い水準にあり、通関手続の効率化・重点化による歳入基盤の強化と貿易円滑化の両立が重要課題となっている。また、2015年のASEAN地域統合等を見据え、通関を含む輸出入手続の簡素化・国際的調和化を目的としたナショナル・シングル・ウィンドウ（National Single Window : NSW）の実現及び将来的なASEANシングル・ウィンドウの構築がミャンマー政府の喫緊の課題となっている。</p> <p>このような背景の下、ミャンマー財務省関税局（MCD）は、わが国財務省関税局をはじめとする関係機関が使用している輸出入・港湾関連情報処理システム（NACCS）及び通関情報総合判定システム（CIS）の技術的優位性にかんがみ、NACCS/CIS技術を活用したミャンマーにおける通関ITシステム（MACCS/MCIS）構築を検討していた。その結果、無償資金協力及び同システムの適切な運用・維持管理に必要な人員・体制面の整備・能力向上のための技術協力を一体のものとしてわが国に要請し、技術協力プロジェクト「通関電子化を通じたナショナル・シングル・ウィンドウ構築及び税関近代化のための能力向上プロジェクト」（以下、「本プロジェクト」）及び無償資金協力「通関電子化を通じたナショナル・シングル・ウィンドウ構築及び税関近代化計画」が採択された。その後、本プロジェクトは2014年2月から4年の予定で開始された。無償資金協力は2014年4月の閣議で実施決定され、同月に39億9,000万円を限度として交換公文が署名された。本無償資金協力では、詳細設計完了後、2015年中のプログラム開発完了、その後の接続試験・総合運転試験を経て、2016年中の完成・導入を予定している。</p>	

1-2 協力内容

(1) 上位目標

適切な関税徴収を確保しつつ、ミャンマーにおける貿易円滑化が促進される。

(2) プロジェクト目標

わが国 NACCS/CIS 技術を活用した税関改革及び近代化のための MACCS/MCIS が円滑に運用・維持管理されるための環境が強化される。

(3) アウトプット

- 1) MACCS/MCIS の適切な導入に必要な準備がなされる。
- 2) 税関職員が MACCS/MCIS を適切に利用するために必要な知識・スキルを獲得する。
- 3) MACCS/MCIS を適切に運用・維持管理するための体制が整備され、必要な人材が育成される。
- 4) 民間利用者が MACCS を適切に利用するために必要な知識・スキルを獲得する。
- 5) MACCS/MCIS の利用に対応した必要な法規程が整備される。
- 6) MACCS/MCIS の適切な運用に必要な情報管理体制が整備される。
- 7) MACCS/MCIS を利用した迅速かつ適切な通関のため、関税分類、関税評価、税関事後調査、税関リスクマネジメント等の税関行政の中核業務遂行のための能力が向上する。関税評価、事後調査、関税分類における事前教示制度の実施に必要な要領、ガイドライン、通達が整備される。

(4) 投入（中間レビュー調査時点）

(日本側)

専門家派遣：	長期専門家 3人 [49.3 人月 (MM)] 短期専門家 延べ37人 (67.1 MM) ¹
海外研修：	訪日研修受け入れ 64人 (13.4 MM) ベトナム視察 20人 (3.0 MM)
供与機材：	なし
現地活動費：	2,782 万円 (23 万 2,446 米ドル) ²

(ミャンマー側)

カウンターパートの配置：	延べ 85 人
現地活動費：	約 3,489 米ドル (367 万 9,222 MMK)
その他：	専門家用執務室、説明会用の場所の提供

(5) プロジェクトの実施体制

本プロジェクトでは、ミャンマー側からプロジェクト・ダイレクター、プロジェクト・マネジャー、副プロジェクト・マネジャーを、JICA 専門家からチーフアドバイザーを配置して、プロジェクトを運営している。また、プロジェクトでは JICA 短期専門家と MCD カウンターパートで構成されるワーキング・グループ (Working Group : WG) を設置し、7つの分野についてそれぞれサブ WG を設置して活動を推進している。7つのサブ WG は、

¹ ここには無償資金協力事業の範囲で 2013 年 11 月から派遣された WG メンバーの派遣も含まれている。

² JICA 換算レート：2015 年 3 月：1 ドル=119.02 円、2016 年 1 月：1 ドル=120.303 円で換算。

①貨物、②通関、③収納、④リスクマネジメント、⑤IT、⑥利用者登録、⑦ヘルプデスクである。

2. 終了時評価調査団の概要

調査者	<日本側>		
	氏名	担当業務	所属
	馬杉 学治	団長／総括	JICA 産業開発・公共政策部 行財政・金融チーム 課長
	栗田 昇	税関行政	財務省関税局第二参事官室 課長補佐
	菊地 健士	協力企画	JICA 産業開発・公共政策部 行財政・金融チーム 課長補佐
	南村 亜矢子	評価分析	合同会社適材適所 コンサルタント
	キン・ケイ・カイモ	通訳（日緬）	一般財団法人日本国際協力センター
	<ミャンマー側>		
	氏名	所属	
	Mr. Win Thant	MCD、MACCS 課 課長	
	Mr. Thein Swe	MCD、総務課 課長	
	Ms. Soe Soe Lwin	MCD、総務課 国際課長	
Ms. Aye Aye Win	MCD、総務課 法務担当課長		
調査期間	2016年2月21～27日	調査種類：中間レビュー調査	

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) アウトプット1：MACCS/MCISの適切な導入に必要な準備がなされる。

WGメンバーでは、MACCS/MCISの詳細設計について集中的に議論を行ってきており、これによってミャンマーの環境下で実効性、効率性、有効性のあるMACCS/MCISが設計されたといえる。税関職員向け及び民間利用者向けの業務処理マニュアルはスケジュールどおりに作成されている。

(2) アウトプット2：税関職員がMACCS/MCISを適切に利用するために必要な知識・スキルを獲得する。

MACCS/MCISの詳細設計に関する議論を通じてWGのメンバーはMACCS/MCISの詳細設計や仕様について理解を深め、ミャンマーの税関手続きとMACCS/MCISの設計が整合するように調整を行った。税関職員と民間利用者向けの説明会資料の作成を通じて、MCDのカウンターパートの多くは、説明会の講師としての知識を蓄積してきた。現時点では、約20人³の職員が説明会の講師を務めることができる。プロジェクトでは2016年7月に

³ JICA 専門家と MCD カウンターパートへ実施したインタビュー調査の結果より、中間レビュー調査団では、各サブ WG のリーダーとサブリーダーを含め、グループ内から 3 人程度の人材が説明会で講師を務められるほどの知識があると判断された。

MACCS/MCIS の総合運転試験説明会を開催する予定であり、この説明会の準備を通じて MCD の職員は更に MACCS/MCIS を適切に利用するために必要な知識やスキルを習得するといえる。

- (3) アウトプット3：MACCS/MCIS を適切に運用・維持管理するための体制が整備され、必要な人材が育成される。

中間レビュー調査時点において、MACCS/MCIS を適切に運用・維持管理するための体制は構築中である。2015 年 8 月に MCD 内に MACCS 課 (MACCS Division) が設置され、MACCS/MCIS の運用・維持管理 (O&M) の責務を負うこととなった。現時点では 49 人の職員が配置されている。この MACCS 課内にヘルプデスクが設置され、ヘルプデスクの役割と責任 (業務所掌) が明確にされるとともに、ヘルプデスクの人員も配置され人材育成が進んでいる。ヘルプデスクのサブ WG がシステム運営や問題処理のよくある質問 (FAQ) の初版を作成し、現在 MCD でミャンマー語に翻訳している。MCD の IT 部門は MACCS 課のなかに移管され、MCD 全体の IT 関連業務と MACCS/MCIS のシステム関係の業務を担うことになった。MACCS/MCIS の O&M ベンダーの入札が 2016 年 4 月に実施される予定であり、ベンダーの調達を終了したのちに MACCS/MCIS のシステム運営や問題処理の体制が協議される予定である⁴。

- (4) アウトプット4：民間利用者が MACCS を適切に利用するために必要な知識・スキルを獲得する。

プロジェクト開始から今日までの活動を通じて、民間利用者は、MACCS の基本的な情報と知識を得てきたといえる。MACCS/MCIS の成功には、民間利用者の参加が必要不可欠であるため、プロジェクトでは民間利用者やその他省庁の意向をヒアリングしたり意見を交換して MACCS への参加を促進するように努めている。具体的には、民間利用者を対象とした MACCS の説明会 (概要説明会) が 2015 年 8 月に開催され、800 人が参加した。その他省庁 (OGA) やミャンマー経済銀行を対象とした説明会も 2013 年 12 月から 2016 年 2 月までに 39 回実施されている。今後 2016 年 5-6 月にも民間利用者を対象とした詳細・総合運転試験説明会を開催する予定であり、これらの説明会を通じて、民間利用者は MACCS に関するより詳しい情報を得て、MACCS をどのように利用できるのかより具体的なイメージをもてるようになるかと期待される。したがって、この時期までには民間利用者側でも MACCS 利用のための準備が整うといえる。

- (5) アウトプット5：MACCS/MCIS の利用に対応した必要な法規程が整備される。

プロジェクトでは、NACCS/CIS を導入・利用するために整備された日本の法規程を学ぶためのワークショップや勉強会を開催し、ミャンマーにおいて MACCS/MCIS の導入に必要な法的枠組みについて議論してきた。これまで、2015 年 7 月に改正関税法 (改正海上関税法と陸上関税法) が施行され、MACCS/MCIS の導入に必要な法定基盤が構築された。これ以外に MCD では、前払い所得税に関する大臣通達案を作成しており、間もなく発布される予定である。さらに、保税に関する大臣通達、電子システムを活用した税関手続きに関する大臣通達あるいは局長通達、週為替レートの適用に関する大臣通達等が

⁴ MACCS/MCIS のシステム運営や問題処理の体制構築には、MCD の IT 部門とヘルプデスクのみならず、MACCS/MCIS の技術的なサポートを担うベンダーも含めた全体体制を構築する必要がある。現在プロジェクトでは、システム運営と問題処理体制の原案を作成しているが、ベンダーの調達後改めて関係者で協議し、最終的な体制を決定する予定である。

2016 年内に制定される必要があり、プロジェクトではこれらの通達案の作成や改訂作業を進める予定である。

(6) アウトプット 6 : MACCS/MCIS の適切な運用に必要な情報管理体制が整備される。

現在、MACCS/MCIS の情報管理体制は検討中である。MACCS/MCIS の O&M ベンダーも含めて情報管理体制を構築する必要があるため、O&M ベンダーが調達されたのちに情報管理体制の詳細が協議される予定である。MACCS/MCIS の導入を担当している無償資金協力事業のコンサルタントと本プロジェクトの JICA 専門家によって、情報管理体制マニュアルの原案は既に作成されている。O&M ベンダーも MACCS/MCIS の情報管理面において重要な役割を担うことになるため、O&M ベンダーの調達後に MACCS/MCIS が適切に運用されるための情報管理体制に関する議論等が本格的に進められることになる。このなかで、情報管理体制マニュアルの詳細についても確認される予定である。2016 年 8 月には MACCS/MCIS の総合運転試験が開始されるため、その時期までに情報管理体制が明確に定義・確立され、情報管理マニュアルも承認される必要がある。

(7) アウトプット 7 : MACCS/MCIS を利用した迅速かつ適切な通関のため、関税分類、関税評価、税関事後調査、税関リスクマネジメント等の税関行政の中核業務遂行のための能力が向上する。関税評価、事後調査、関税分類における事前教示制度の実施に必要な要領、ガイドライン、通達が整備される。

これまで 274 人の税関職員がプロジェクトで実施した研修に参加した。指標 7-1 には参加者数の目標値が設定されていないため、現時点の人材育成面の達成度を検証することはできないが、プロジェクトでは、税関行政において中核となる人材の能力向上を果たしてきたといえる。関税評価、事後調査、関税分類と関税評価における事前教示の大臣通達や局長通達案などが順次作成されている。事前教示の大臣通達案と局長通達案は 2016 年 2 月に既に財務大臣に提出され、4 月までには発布される見込みである。プロジェクトでは、税関行政を強化するために、さらに今後作成する必要がある通達案等があるかどうか議論する予定である。

(8) プロジェクト目標 : わが国 NACCS/CIS 技術を活用した税関改革及び近代化のための MACCS/MCIS が円滑に運用・維持管理されるための環境が強化される。

設定されたプロジェクト目標の達成に向けて、プロジェクトではこれまで順調に活動を進めている。ヤンゴン地区において MACCS/MCIS の導入が成功すれば、同地区における税関手続きが劇的に近代化され、プロジェクト実施の結果、税関行政も改善される見込みである。プロジェクト目標で設定されている指標の現状は次のとおりである。

< 指標 1 : 対象税関における輸出入申告数のうち MACCS を通じた申告件数の割合が 80% になる。 >

MACCS を通じた申告件数の割合は、総合運転試験が終了した後に測定されることになる。この目標値を達成するためには、多くの民間利用者が MACCS/MCIS に参加することが非常に重要である。

<指標 2：税関当局に対する税関手続き処理に係るクレームが減少する。>

このデータは、これまで MCD で体系的に収集されていないため、プロジェクト期間の終了時にこの指標の達成度を測定することは困難である。

<指標 3：MACCS/MCIS が適切に維持管理され、目標の稼働率 99.0%が達成される。>

このデータも MACCS/MCIS が稼働したのちに測定されることになる。99.0%の稼働率を達成するためには、本プロジェクトと MACCS/MCIS の無償資金協力事業で予定されている活動がすべて予定どおりに完了する必要がある。特に、O&M ベンダーと協力して MACCS/MCIS のシステムトラブルが発生した場合の問題把握と解決を行う体制を明確に確立することが極めて重要である。また MCD では、システムトラブルが発生した際に技術的に O&M ベンダーとコミュニケーションが取れるシステム管理者 (system administrator) を育成する必要がある。

(9) 上位目標：適切な関税徴収を確保しつつ、ミャンマーにおける貿易円滑化が促進される。
中間レビュー時点では、上位目標の指標の状況を確認した。

<指標 1 > 通関手続きにかかる時間

通関手続きにかかる時間のベースライン値は、以下のとおりである。通関手続きにかかる時間は、MACCS/MCIS の総合運転試験が終了したのちに測定される予定である。

通関所要時間	2014	2021 (目標)
グリーン区分 (簡易審査)	1 時間 46 分	3 秒
イエロー区分 (書類審査)	24 時間	X*

出典：通関所要時間のデータは、2014 年に ADB の支援によって実施された通関所要時間調査の結果による。データは MCD により提供。

*：2021 年の目標値は、中間レビュー調査時点では設定されていないため「x」と表記している。

<指標 2 > 貿易手続きの効率化指標

世界銀行 (WB) によって発表されている「ロジスティック・パフォーマンス・インデックス (LPI)⁵」の「申告処理の効率性 (the efficiency of clearance process)」の 2014 年のミャンマーのスコアは 1.97 であり、調査対象国 160 カ国中 150 位であった。ミャンマーに MACCS/MCIS が導入された後、LPI の「申告処理の効率性」のスコアは劇的に改善されると期待される。

⁵ <http://lpi.worldbank.org/>. LPI は貿易に関する 6 つの分野について 150-160 カ国をランク付けしている。「国際スコア」は 6 つの主要項目を活用して各国の業績を基準に従って評価しており、LPI インデックスとして表示している。LPI は、次の 6 分野における各国のスコアの加重平均である。6 分野とは、①税関を含めた国境管理当局による申告手続きの効率性 (スピード、簡潔さ、手続きの予見性)、②インフラ面における貿易と運輸の質 (港湾、鉄道、道路、IT)、③価格競争力のある積荷の調整のしやすさ、④ロジスティックサービスの質の高さ (運送業者、通関業者など) ⑤発送品の追跡が可能かどうか、⑥スケジュールどおりあるいは予測した配送期間内に目的地まで積荷が輸送されるかどうか (適時性) である。

年	税関処理*	ランキング**
2007	2.07	124/150
2010	1.94	146/155
2012	2.24	122/155
2014	1.97	150/160

*: 最高スコアは5である。原文では「Customs」と略して記されているため、ここでは関税処理と標記した。

** : ミャンマーのランク/調査対象国数

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性

プロジェクトの妥当性は高いと判断した。ミャンマーでは、2005年から2012年までの輸入額が年率25%で増加するなど貿易量は年々増加している。諸外国にとって同国が魅力的な貿易相手国であり続けるために、ミャンマーでは通関手続きを効率化する必要があった。また貿易量が増加している一方で、税収に占める関税収入は3.2%⁶にとどまっており、通関手続きの効率化による歳入基盤の強化と貿易円滑化の両立が重要課題であった。したがって、プロジェクトの内容はベトナム側の受益者のニーズに合致していたといえる。

プロジェクトは依然としてミャンマー政府及び日本政府の政策と合致している。ミャンマー政府は、「経済発展のエンジンとして貿易と投資を促進すること」を戦略のひとつとして位置づけており、2012年に発表された「経済社会改革の枠組み (*The Framework for Economic and Social Reforms*)」でもミャンマー政府は2015年のASEAN地域統合を見据えて非関税障壁の撤廃だけでなく、ナショナル・シングル・ウィンドウの構築等を含めた自由化への更なる取組みを推進していくことを明言している。日本政府は、日本の外務省が2015年4月に発行した「平成27年度開発協力重点方針」では、4つの開発協力の重点分野を設定しており、そのひとつの「開発途上国と日本の経済成長のための戦略的な開発協力の充実」では、都市インフラ開発支援において日本の技術・経験を生かし、インフラシステムの輸出を重点項目のひとつとして掲げている。

日本ではナショナル・シングル・ウィンドウであるNACCS/CISを長年活用して国際水準の税関行政を実践していることと、日本税関はベトナムのVNACCS/VCISの導入と運営支援をはじめ、多くのASEAN諸国において関税分野の能力強化支援に関するノウハウと十分な経験を備えており、日本が税関行政の近代化においてミャンマーを支援することは妥当であったといえる。

(2) 有効性

プロジェクトの有効性は高い。プロジェクトは目標である「MACCS/MCISが円滑に運用・維持管理されるための環境が強化される」の達成に向けて邁進しているといえる。プロジェクトの活動を通じてMCDの職員はMACCS/MCISに関する知識を深めており、2016年の総合運転試験の実施に向けて着実に準備を整えている。プロジェクトで設定された7つのアウトプットはプロジェクト目標の達成に直接貢献するため、プロジェクト期間の終了までに予定している活動がすべて順調に終了しアウトプットが達成されれば、プロジェクト目標も達成されると考えられる。

本プロジェクトのプロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) では5つの外部要因

⁶ WCOの年次報告書(2011-2012)の59頁より。

が設定されているが、MACCS/MCIS に関する予算については、MCD 側の努力によって IT ベンダーの調達予算が確保され、IT ベンダーの調達プロセスが間もなく開始される見込みであるなど外部環境も良好であり、今日までプロジェクトに影響を与えるような要素は特に見当たらない。ただし、MACCS/MCIS の構築を実施している無償資金協力事業⁷の進捗面で、MACCS/MCIS 導入に遅れが生じ、さらに、本プロジェクトの目標達成度に影響を及ぼす可能性もある。したがって、プロジェクト期間の後半も引き続きプロジェクトで前述の外部条件を注意深くモニタリングすることが重要である。

(3) 効率性

プロジェクトの効率性は比較的高いと判断した。「3-1 実績の確認」で述べたように、これまでの2年間、プロジェクトは PDM で設定されたアウトプットの達成に向けて着実に前進しているといえる。

アウトプットを産出するプロセスにおいて、次のような多くのポジティブな点が確認されている。①プロジェクトの投入はすべて7つのアウトプットを産出するために有効に活用されていること、②ミャンマーと日本の両政府及び JICA 専門家がプロジェクト活動に対して強いコミットメントを示し、これまでプロジェクト活動を推進してきたこと、③プロジェクトの活動の進捗はサブ WG 単位で管理され、WG の活動の最終日には、MCD の局長に対して全体的な報告が必ず行われる体制が確立されており、このようなプロジェクトの運営・モニタリング体制が効果的であったこと、④MACCS/MCIS 無償資金協力事業と本プロジェクトの間での情報交換や業務の調整が緊密に行われたこと、⑤日本の NACCS/CIS やベトナムの VNACCS/VCIS 導入等の専攻事例を学ぶことによって、MCD 職員は、MACCS/MCIS の導入と適切な O&M のために取り組むべき優先事項を特定することができていること、である。

上記に加え、次のような課題も指摘されたが、調査団ではプロジェクトの効率性に大きく影響を与えるレベルではないと判断した。指摘された課題は以下のとおり。①MCD では全体的に人員不足であり、プロジェクト活動に従事する MCD の職員数も限定されていた。しかし、この点は特にプロジェクト開始直後にみられており、プロジェクト期間中 MCD では人員増を継続的に図り、カウンターパートの人員数を確保できるように努力している。②サブ WG のメンバーのなかには、IT 運用能力（リテラシー）のレベルがそれほど高くないために、MACCS/MCIS のシステムを充分理解できないケースがみられた。プロジェクト活動を通じて、カウンターパートの IT 知識も向上していることと、MCD では IT を専攻あるいは IT 関連の職歴のある人材を雇用しプロジェクト活動に配置するなどの努力が行われている。③日本語－ミャンマー語の通訳者が税関や IT の専門用語にどの程度精通しているかが、MCD のカウンターパートの理解度に影響を及ぼしている。

(4) インパクト

プロジェクト期間の半ばであるため、プロジェクトによってもたらされるインパクトを検証することは時期尚早である。MACCS/MCIS の運営が成功すれば確実に税関申告にかかる時間が短縮され、ミャンマーにおける「申告処理の効率性」の LPI スコアも改善される

⁷ これに加え、データセンターの設置、WAN に関するネットワークベンダーの調達の遅れなど、無償資金協力事業の活動にやや遅れが生じたことがこれまでに報告されている（これは本プロジェクトの外部条件と見なされる）。しかし無償資金協力事業のチーム、本プロジェクトの JICA 専門家、MCD 職員が協力して課題解決に取り組み、無償資金協力事業と本プロジェクトの全体進捗に大きな影響を及ぼしてはいない。

といえる。プロジェクトのインパクトが発現するためには、重大なトラブルやエラーが発生しないように MACCS/MCIS を運営することが重要である。

発現が期待されているインパクトに加え、JICA 専門家と共同して活動を実施する過程で、MCD のカウンターパートが仕事の準備、文書管理、スケジュールに沿った活動の実施について以前よりも注意を払うようになったというその他のインパクトが確認された。

(5) 持続性

1) 政策・制度面

ミャンマー政府は引き続き税関手続きの近代化と税関申告の効率化に重点を置いており、政策面の環境はプロジェクトにとって良好である。特に NSW の導入は ASEAN 諸国を含めた諸外国との貿易円滑化を推進するうえでミャンマーにとって非常に重要であり、さらに ASEAN シングル・ウィンドウの実施にも貢献することになる。

プロジェクトでは、改正海上関税法・地上関税法の策定支援を含め、MACCS/MCIS の効果的な運営管理に必要な法規程の策定について MCD を支援している。今後 MACCS/MCIS の活用に更に必要となる法規程の策定あるいは改正についてもプロジェクトでは引き続き支援する予定である。さらに、プロジェクトでは税関行政の強化に必要な各種通達の準備作業も支援している。したがって、関税手続きの効率化と税関行政の強化に関する制度面の持続性は確保されると考えられる。

2) 財政・組織面

これまでミャンマー財務省は MCD からの予算要求に対して MACCS/MCIS の導入に必要な予算を配分してきた。財務省から MCD に配分された予算は、2013/2014 年度は 45 億 6,400 万 MMK であり、2014/2015 年度には 158 億 3,800 万 MMK であり、前年の 3 倍に上っている。さらに、MCD では MACCS の申告手数料を導入する予定であり、これも将来の MCD の財源⁸となる可能性もある。税関手続きの近代化を通じて貿易効率化を実現することは国家の最重要項目のひとつであるため、MACCS/MCIS の維持管理に必要な予算と人材が確保されると期待できる。MACCS/MCIS の運営準備のために、MCD では新たに MACCS 課を設立し、現時点で 49 人の職員を配置している。MCD では今後も更に人員を増加させる計画である。この点からも MCD の幹部は MACCS/MCIS の導入の成功を重視しており、MACCS/MCIS の適切な維持管理に向けてリーダーシップを発揮しているといえる。したがって、財政・組織面の持続性も確保される見込みが高い。

3) 技術面

プロジェクト活動を通じて、MACCS/MCIS を適切に維持管理する中核人材の能力が強化されてきたといえる。MACCS/MCIS の総合運転維持管理が実施され稼働したのち、MCD のカウンターパートは、実際の MACCS/MCIS の運営と民間利用者との関わりを通じて、MACCS/MCIS の維持管理に関する能力を更に向上させると考えられる。さらに、プロジェクトでは MACCS/MCIS の活用を通じた税関行政の能力を更に強化するよう MCD を支援していく予定である。これらを通じて、技術面の持続性は確保されると期待される。一方で、中間レビュー調査団では、MACCS/MCIS の適切な維持管理が非常に重要であり、そのために MCD の IT 関連の能力を強化する必要があると考えている。さらに、O&M ベンダーが調達され、このベンダーも組み込んだ MACCS/MCIS の維持管理体制が確立されることも技術面の持続性を確保するために重要である。

⁸ ミャンマーでは、申告手数料はすべて国庫に納付される。

3-3 効果発現に貢献した主な要因

(1) 計画内容に関すること

MACCS/MCIS の導入を技術的に担当している無償資金協力事業と同時平行で本技術プロジェクトを実施し、MACCS/MCIS の基本・詳細設計に税関業務の専門家である JICA 専門家も関与できる体制を構築したことによって、ミャンマーの関税手続きに合致したシステムが構築できたこと。さらに、MACCS/MCIS の運用に必要な法規程の整備を本技術プロジェクトでカバーすることによって、MACCS/MCIS の導入・運営に必要な環境整備を効率的に実施できたこと。

(2) 実施プロセスに関すること

「3-2 評価結果の要約」の「(3) 効率性」でも述べたような点が、プロジェクトの活動を推進しており、各アウトプットの達成度に向けてプロジェクトが邁進している要素となっている。

3-4 問題点と問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

特になし。

(2) 実施プロセスに関すること

「3-2 評価結果の要約」の「(3) 効率性」でも述べたように、これまでにプロジェクトの実施に大きく影響を及ぼす程度ではないが、いくつかの課題が指摘されている。なかでも IT 用語や税関の専門用語に精通した通訳の継続的な活用が課題となっており、プロジェクト期間の後半にも同様の課題が継続的にみられる場合は、プロジェクトの実施プロセスに影響を及ぼす可能性がある。

3-5 結論

プロジェクトではこれまでミャンマーの税関改革と近代化に向けて、MACCS/MCIS が適切に運用・管理されるための環境を着実に整備してきたといえる。今後も順調に活動が推進されれば、プロジェクト期間の終了までにプロジェクト目標は達成される見込みである。プロジェクトはミャンマーと日本の両政府の方針に合致しており、ミャンマー側のニーズにも合致しているため妥当性高いと判断した。プロジェクトは所期の目標を達成できる見込みが高いこととアウトプットの達成がプロジェクト目標の達成にもつながるため有効性は高いと評価したが、プロジェクトの後半も引き続き外部条件を注意深くモニタリングする必要がある。プロジェクトの効率性は、プロジェクト活動の進捗にやや影響した項目が特定されたため比較的高いと評価した。インパクトと持続性を判断するには時期尚早であるが、MACCS/MCIS が導入されれば、ミャンマーにポジティブなインパクトを確実にもたらすといえる。持続性については、全般的に良好な要素が多いが、今後 MCD で IT を専門とする職員を育成する必要性が非常に高いといえる。

3-6 提言

(1) PDM の改訂

現行の PDM1.1 には目標値が設定されていない指標が 3 つ残されている。合同中間レビュー調査の結果を基に、調査団では以下のように目標値を設定することを提案する。

1) 上位目標の指標 1

「安定したインターネット環境の下、通関所要時間が簡易審査で3秒〔申告から許可まで（ただしマニュアルによる納付を除く）〕、書類審査で2時間（書類審査開始から書類審査終了まで）になる。」

2) アウトプット4の指標 4-1

「ヤンゴン地区のMACCS利用者の95%がMACCS導入に関する説明会に参加する。」

3) アウトプット7の指標 7-1

「プロジェクト終了までに、400人の税関職員がトレーニングを受ける。」

上述の項目に加え、プロジェクトの実情に合わせて微修正をするべき箇所もいくつかあるため、その点についても修正が必要である。

(2) MACCS/MCISの円滑な導入と運営に向けたMCDの組織強化

MACCS/MCISの円滑な導入と運営を実現するために、MACCS課の人員を数・質ともに強化し、さらに執務環境も改善するように、同課の組織的な能力を更に強化するようMCDが継続的に努力することを提言する。

(3) MACCS/MCISの運用に関する大臣／局長通達の作成

2016年内にMACCS/MCISが稼働するために、MCDが適切なタイミングで電子通関マニュアル、保税、為替レート、税関評価、事後調査に関する大臣・局長通達の作成を促進し、発布することが期待される。

(4) 経験豊富な通訳の雇用と継続的な活用

経験豊富な通訳者を継続的に雇用することで日本側とミャンマー側でスムーズなコミュニケーションを取っているサブWGがある一方で、度重なる通訳の交代によってスムーズなコミュニケーションが取れていないサブWGもある。したがって、経験豊富な通訳者の数に限りはあるが、各サブWGで可能な限り経験豊富な通訳を継続的に雇用することが重要である。

(5) MACCS/MCISの稼働に向けた準備

MACCS/MCISの稼働に向けて、これまで以上に人員と時間等の資源をMACCS/MCISの円滑なスタートに集中させる必要がある。したがって、関税評価以外のアウトプット7の活動で実施される研修活動はMACCS/MCISの稼働までは控え、MACCS/MCISの稼働に注力すべきである。

(6) 適切なMACCSによる申告手数料の設定

プロジェクト目標で設定されている指標である「対象税関における輸出入申告数のうちMACCSを通じた申告件数の割合が80%になる」を達成するためには、MACCSの申告手数料を適切なレベルに設定することは重要である。これによって、MACCS/MCISの持続性も確保される。

(7) MACCS/MCISの安定した運営とトラブルシューティング

MCDではITリテラシーの向上に取り組む必要がある。さらに、MACCS課ではMACCS/MCISを技術的に管理できるIT職員の配置を進める必要がある。これによってO&Mベンダーの調達と指示も可能になる。

(8) 民間利用者の MACCS に関する理解促進

民間利用者による MACCS/MCIS への登録と利用は MACCS/MCIS の成功にとって極めて重要であるため、民間利用者（通関業者、運送会社、運送業者等）に対して日本側の支援による日本視察等のプログラムを実施し、MACCS に対する理解を更に促進することも検討に値する。

Summary Sheet

1 Outline of the Project	
Country: The Republic of the Union of Myanmar	Project Title : The Project of Capacity Development for National Single Window and Customs Modernization by Introducing Automated Cargo Clearance System in Myanmar
Thematic Area : Financial Management	
Division in Charge : Public Governance and Financial Management Team, Governance Group, Industrial Development and Public Policy Department	
Project Period : February 2014~February 2018	Cooperation Scheme : Technical Cooperation Project
Project Period : February 2014~February 2018	Total Cost : 505 Million JPY (estimated amount as of preparatory evaluation)
Supporting Organization in Japan : Customs and Tariff Bureau, Ministry of Finance	Counterpart Agency : Myanmar Customs Department (MCD), Ministry of Finance
<p>1-1 Background of the Project</p> <p>Myanmar has been working on reforms towards market economy from its past centralized economy. As an overview of Myanmar's economic growth in the recent years, Myanmar achieved a GDP growth rate of 5.9% in 2011, 6.4% in 2012 and 6.8% in 2013¹. Despite the remarkable economic growth, lots of time and costs for Customs procedures affected promotion of trade facilitation in Myanmar. Development of institutions of Customs clearance including a Customs clearance system, lagged behind other ASEAN (Association of Southeast Asian Nations) countries. According to "The Logistic Performance Index" of the World Bank survey (hereinafter referred to as "LPI"), Myanmar ranked the lowest among the ASEAN countries at 122 out of 155 countries.</p> <p>The percentage of Customs duties in the tax revenue was at 3.2%², even though there had been an increase in the number of Customs declarations and in the amount of import by 25% per year from 2005 to 2012. Therefore, an issue was given high priority to promote efficiency of Customs procedures, which would simultaneously achieve enhancement of the revenue base and facilitation of trade.</p> <p>An urgent task for the Government of Myanmar was to accomplish the National Single Window (hereinafter referred to as "NSW") aiming at simplification and international harmonization of export and import procedures including Customs clearance procedures, and to contribute to ASEAN Single Window.</p> <p>Under these circumstances, the Customs Department under the Ministry of Finance of the Government of Myanmar (hereinafter referred to as "MCD) appreciated technical advantages of the Nippon Automated Cargo and Port Consolidated System (hereinafter referred to as "NACCS") and the Customs Intelligence Database System (hereinafter referred to as "CIS"), which have been used in the Customs and Tariff Bureau of the Ministry of Finance, and relevant other government agencies (OGAs) in Japan. Then, the Government of Myanmar requested for Japan's Grand Aid regarding the establishment of an IT system for Customs clearance with NACCS/CIS technology in Myanmar (hereinafter referred to as "MACCS/MCIS") and for Japan's technical assistance regarding the capacity</p>	

¹ IMF, World Economic Outlook.

² WCO. Annual Report 2011-2012 (page 59). In terms of the percentage of customs duties in tax revenue, the figures for other ASEAN countries are as follows: Cambodia: 16.9%, Lao People's Democratic Republic: 9.6%, Vietnam: 9.6%. (source: the World Customs Organization (WCO)).

building of personnel and organization for the appropriate operation, management, and maintenance of that system. The technical cooperation project, entitled “the Project of Capacity Development for National Single Window and Customs Modernization by Introducing Automated Cargo Clearance System in Myanmar” started from 10 February 2014 for four years.

In February 2016, as the Project reaches the middle of the cooperation term, JICA and MCD are conducting the Joint Mid-term review in accordance with the article IV of the Record of Discussions signed for the Project in February 2014.

1-2 Project Overview

(1) Overall Goal

Trade facilitation in Myanmar is further promoted with securing appropriate collection of Customs and Tariff.

(2) Project Purpose

Necessary environment for properly operating and maintaining MACCS/MCIS is enhanced with smooth introduction of the system based on the technology of NACCS/CIS towards Customs reform and modernization.

(3) Outputs

- Output 1: Necessary preparation of properly introducing MACCS/MCIS is made.
- Output 2: The officials of Myanmar Customs acquire necessary knowledge and skills to use MACCS/MCIS properly.
- Output 3: Structure to operate, maintain and manage MACCS/MCIS properly is established and necessary human resource is developed.
- Output 4: Users in the private sector acquire necessary knowledge and skills to use MACCS properly.
- Output 5: Necessary laws and regulations corresponding to usage of MACCS/MCIS are established.
- Output 6: Proper information security policy and mechanism for proper operation of MACCS/MCIS is established.
- Output 7: Capacities on the core operations of Customs administration such as tariff classification, Customs valuation, post clearance audit and Customs risk management is enhanced for realizing prompt and appropriate Customs clearance utilizing MACCS/MCIS. Necessary manuals, guidance, and order corresponding to implement Customs Valuation, Post Clearance Audit, and Customs Classification Advance Ruling Systems are established.

(4) Inputs

- <Japanese side> Assignment of Experts: Long-term experts: 3 persons (49.3 M/M), Short-term experts: a total of 37 persons (67.1 M/M).
Training in Japan: 64 persons (13.4 MM), Study Tour in Vietnam: 20 persons (3.0 M/M)
Equipment and Machineries: none

Local Operation Cost: 27.82 million yen (232,446 USD)³

<Myanmar side> Allocation of Counterparts: 85 persons in total
 Local Operation Cost : Approximately 3489 USD(3679 thousand MMK)
 Others : Office space for JICA experts in MCD HQs, and the venues for the seminars or explanatory meetings.

2 Evaluation Team

Member of the Evaluation Team	<Japanese side>		
	Name	Position in the Team	Title
	Mr. Noriharu MASUGI	Team Leader	Director, Public Governance and Financial Management Team, Governance Group, Industrial Development and Public Policy Department, JICA
	Mr. Noboru KURITA	Customs Administration Policy	Deputy Director for International Cooperation, Office of Counselor for International Cooperation, Customs and Tariff Bureau, Ministry of Finance
	Mr. Takeshi KIKUCHI	Evaluation Planning	Deputy Director, Public Governance and Financial Management Team, Governance Group, Industrial Development and Public Policy Department, JICA
	Ms. Ayako NAMURA	Evaluation Analysis	Consultant, Tekizaitekisho LLC
	<Myanmar Side>		
	Name	Position	Organisation
	Mr. Win Thant	Director, MACCS Division	MCD
	Mr. Thein Swe	Director, Administration Division	MCD
Ms. Soe Soe Lwin	Director, Administration Division (International)	MCD	
Ms. Aye Aye Win	Director, Administration Division (Legal)	MCD	
Period	22 to 26 February 2016	Type of Evaluation : Mid-term Review	

3 Results of Evaluation

3-1 Achievements confirmed though evaluation

(1) Output 1: Necessary preparation of properly introducing MACCS/MCIS is made.

Since the WG members intensively discussed the detailed design of MACCS/MCIS to meet the conditions and environment of Myanmar, the design which ensured the feasibility, efficiency and

³ The exchange rate was 1 JPY =119.03 USD according to the JICA exchange rate as of March 2015 and 1 JPY = 120.30 USD as of January 2016.

effectiveness of MACCS/MCIS was developed. The business processing manuals for Customs officials and users in the private sector have been prepared as scheduled. Therefore, the necessary preparation of properly introducing MACCS/MCIS has been successfully made to date.

(2) Output 2: The officials of Myanmar Customs acquire necessary knowledge and skills to use MACCS/MCIS properly.

In the discussion of the detailed design of MACCS/MCIS, the WG members understood the specification of NACCS/CIS and incorporated the Myanmar's Customs procedures into the specification of MACCS/MCIS appropriately. This contributed to enhancement of knowledge to use MACCS/MCIS of WG members. Through the preparation of the materials for explanatory meetings for Customs officials and users in the private sector, many counterparts of MCD acquired the knowledge to be a presenter for the explanatory meetings. Until now, around twenty officials⁴ became the lecturers for explanatory meetings. The Project will organize the detailed explanatory meetings for the running test on MACCS/MCIS to be held in July 2016. Through preparation for this, MCD officials will acquire more knowledge and skills necessary to use MACCS/MCIS properly.

(3) Output 3: Structure to operate, maintain and manage MACCS/MCIS properly is established and necessary human resource is developed.

Structure to operate, maintain and manage MACCS/MCIS properly is in the process of establishment. MACCS Division was established in August 2015 responsible for operation and maintenance (O&M) of MACCS/MCIS and currently 49 officials are assigned for the Division, under which the Help Desk section was established. The roles and responsibility of Help Desk were defined, and the officials of Help Desk were assigned and trained. Based on the FAQ which is utilized in Japan, the first version of FAQ for system administration and problem processing have been developed by Help Desk sub-WG. At this moment, MCD is translating the first version of FAQ in Myanmar language. The IT section was integrated under MACCS Division responsible for both MACCS/MCIS system as well as MCD's entire IT system. The bidding of vendors for O&M of MACCS/MCIS will be carried out in April 2016. The system and process of problem processing will be discussed after the vendors are procured.

(4) Output 4: Users in the private sector acquire necessary knowledge and skills to use MACCS properly.

Through the project activities from the commencement to date, the users in the private sector acquired the basic information and knowledge of MACCS. Since the participation of users in the private sector is a key factor for success of MACCS/MCIS, the Project has made a lot of efforts to promote their participation by hearing their opinions and exchanging ideas. Specifically, the Project organized the explanatory meetings (general briefing session) about MACCS for users in the private sector twice in August 2015, acquiring 800 participants. The explanatory meetings for OGAs and Myanmar Economic Bank were also organized 39 times between December 2013 and February 2016. The Project will organize the explanatory meetings for the details and running test in May and June 2016. Through these meetings, the users in the private sector will acquire more information and clear image of MACCS and be ready to use MACCS.

⁴ The Mid-term Review Team identified about twenty officials considering that three officials of each sub-WG can give lectures in the explanatory meetings based on the interview with MCD counterparts and JICA experts.

(5) Output 5: Necessary laws and regulations corresponding to usage of MACCS/MCIS are established.

The Project has carried out various workshops or study meetings to learn about the laws and regulations corresponding to the operation of NACCS/CIS in Japan and discussed necessary legal framework to be established in Myanmar along with the introduction of MACCS/MCIS. To date, the Revised Sea Customs Act and Land Customs Act were enacted on 17 March 2015, which is an essential underpinning of introduction of MACCS/MCIS. In addition, MCD already prepared the Minister Notification on Advanced Income Tax, which will be issued soon. Moreover, the following notifications to ensure the operation of MACCS/MCIS need to be established within 2016: Minister Notification on Bonded Warehouse, Minister Notification or Director General (DG) Notification on Customs procedures through electronic system, and Minister Notification on weekly foreign exchange rate. The Project will promote to draft or revise these notifications.

(6) Output 6: Proper information security policy and mechanism for proper operation of MACCS/MCIS is established.

The activities to establish proper information security policy and mechanism for operation of MACCS/MCIS will be accelerated after procurement of O&M vendors, which will play an important role of information security mechanism of MACCS/MCIS. The draft of information security manual is already developed by JICA experts and the team of Grant Aid Project. The details will be confirmed along with the discussion about the information security structure and mechanism after procurement of O&M vendors. Since the running test of MACCS/MCIS will begin in August 2016, it is expected that the mechanism of information security will be clearly defined and the information security manuals are approved by that time.

(7) Output 7: Capacities on the core operations of Customs administration such as tariff classification, Customs valuation, post clearance audit and Customs risk management is enhanced for realizing prompt and appropriate Customs clearance utilizing MACCS/MCIS. Necessary manuals, guidance, and order corresponding to implement Customs Valuation, Post Clearance Audit, and Customs Classification Advance Ruling Systems are established.

To date, a total of 274 Customs officials participated in the training programs provided by the Project. Although the target value for the indicator 7-1 was not set yet and this made it difficult to confirm the current achievement level for the human resources development, the Project has been successful to enhance the capacity of Customs officials of core operation of Customs administration.

As for the manuals, guidance, order for Customs Valuation, PCA and Advance Ruling on HS Classification and on Customs Valuation, the necessary notifications of Minister and DG to enhance the Customs administration have been prepared. The drafts of Minister Notification and DG Notification on Advance Ruling on HS Classification were already submitted to the Minister of Finance in February 2016 and it is expected that both orders will be issued by April 2016. The Project will discuss if any other notifications may need to be established to further strengthen the Customs administration in Myanmar in the remaining cooperation term.

(8) Project Purpose: Necessary environment for properly operating and maintaining MACCS/MCIS is enhanced with smooth introduction of the system based on the technology of NACCS/CIS towards Customs reform and modernization.

The Project is moving forward to fulfil the set purpose of enhancing the environment necessary for proper O&M of MACCS/MCIS towards Customs reform and modernization. Once MACCS/MCIS is successfully introduced in Yangon Area, the Customs procedures will be dramatically modernized in that area and the Customs administration will be improved as a result of the project implementation. The current degrees of each indicator are as follows.

<Indicator 1: The rate of declared number through MACCS reaches 80 % of the total declared number of import and exports at the targeted Customs offices.>

The rate of declared number through MACCS will be measured after the running test is completed. To realize this, it is very crucial that many users in the private sector participate in MACCS/MCIS.

<Indicator 2: The number of claims against Customs procedure handled by the Customs authority decreases.>

This data has not been recorded systematically at MCD to date. Therefore, it may be difficult to measure the achievement level at the end of the cooperation term.

<Indicator 3: MACCS/MCIS is maintained and managed properly and targeted capacity utilization at 99.0 % is attained.>

To fulfil the targeted capacity utilization of 99.0 %, all planned activities of the Project and the Grant Aid needs to be completed successfully. Especially, it is crucial to firmly establish the structure to grasp and solve problems when the system is in trouble in cooperation with O&M vendors. MCD also needs to train system administration officials who can technically communicate with O&M vendors in cases of system troubles.

(9) Overall Goal: Trade facilitation in Myanmar is further promoted with securing appropriate collection of Customs and Tariff.

As of the Mid-term Review, the current degrees of each indicator of Overall Goals are examined as the baseline value.

<Indicator 1: The amount of time required for Customs clearance.>

The baseline of the amount of time required for Customs clearance is as follows. The actual time required for Customs clearance will start to be measured after the running test of MACCS/MCIS.

<Time for Customs clearance procedures>

	2014	2021 (target)
Green Channel (Simplified examination)	1 hour 46 minutes	3 seconds
Yellow Channel (document examination)	24 hours	x*

Source: The data of time for Customs clearance procedures was from the results of Time Release Study conducted in 2014 with assistance from ADB. The data was provided by MCD.

*: The target value for 2021 was not determined as of the Mid-term Review.

<Indicator 2: Indicators of efficient trade processing are improved.>

The table below shows the data of “efficiency of the clearance process” of Logistic Performance Index issued by the World Bank statistics⁵. The Myanmar’s score in 2014 is 1.97, ranking 150 out of 160 countries and the lowest among ASEAN countries. It is expected that the score will be dramatically improved after introduction of MACCS/MCIS in Myanmar.

<Efficiency of the clearance process in Myanmar>

Year	Customs*	Customs ranking**
2007	2.07	124/150
2010	1.94	146/155
2012	2.24	122/155
2014	1.97	150/160

* The full score is 5.

** Ranking of Myanmar/Total number of countries

3-2. Summary of Evaluation Results

(1) Relevance

The relevance of the Project is assessed as high. The volume of trade had increased year by year and the average growth rate of imports from 2005 to 2012 was around 25% annually. Therefore, Myanmar needed to make the procedures of Customs clearance efficient to keep Myanmar attractive as the trade partners for foreign countries. Moreover, although the volume of trade has increased, the percentage of Customs duties in the tax revenue was remained at 3.2%⁶ out of total tax revenue in Myanmar. Both revenue increase and trade facilitation by more efficient and modernized Customs administration were the priorities of MCD. Therefore, the project components are aligned with the needs of Myanmar.

The project components are still aligned with the policies of Government of Myanmar and Japan. The Government of Myanmar stressed the priority of “promotion of trade and investment as an engine for economic growth” as one of its strategic priorities. *The Framework for Economic and Social Reforms* issued in December 2012 states that the Government of Myanmar will carry out more liberalization measures such as setting up national single window liberalizing services as well as removing all non-tariff barriers in accordance with the 2015 targets for ASEAN integration. “The Priority Policy for Development Cooperation FY 2015” issued by the Ministry of Foreign Affairs of Japan in April 2015 sets four key areas for development cooperation. The second key area of “enhancing strategic development cooperation for the economic growth of developing countries and Japan” stresses the policy of supporting infrastructure system export, taking advantage of Japanese technology and experience in supporting urban infrastructure development. Japan has the comparative advantages of assisting Myanmar to establish the National Single Window by introducing MACCS/MCIS. Japan has

⁵ <http://lpi.worldbank.org/>. LPI ranks around 150 -160 countries on six dimensions of trade. The international score uses six key dimensions to benchmark countries' performance and also displays the derived overall LPI index. The logistics performance (LPI) is the weighted average of the country scores on the six key dimensions: 1) Efficiency of the clearance process (i.e., speed, simplicity and predictability of formalities) by border control agencies, including customs; 2) Quality of trade and transport related infrastructure (e.g., ports, railroads, roads, information technology); 3) Ease of arranging competitively priced shipments; 4) Competence and quality of logistics services (e.g., transport operators, customs brokers); 5) Ability to track and trace consignments; and 6) Timeliness of shipments in reaching destination within the scheduled or expected delivery time.

⁶ WCO. Annual Report 2011-2012 (page 59).

international standard Customs administration utilizing NACCS/CIS for a long time as the National Single Window system. Moreover, the Japan Customs also has sufficient experience as well as knowledge/skills in supporting the capacity enhancement of Customs in many ASEAN countries including support for introduction of VNACCS/VCIS in Vietnam. Therefore, it is appropriate that Japan supports Myanmar to modernize their Customs administration.

(2) Effectiveness

The effectiveness of the Project is assessed as high. The Project has been heading for fulfilling the Project Purpose of “enhancing necessary environment for properly operating and maintaining MACCS/MCIS with smooth introduction of the system based on the technology of NACCS/CIS towards Customs reform and modernization”. Through the project activities, the MCD officials have been enhancing and deepening the knowledge of MACCS/MCIS and ready to move for the running test of MACCS/MCIS in August 2016. Since all Outputs of the Project will directly lead to the fulfilment of the Project Purpose, the Project Purpose will be also achieved by the end of the cooperation term with the completion of all planned activities satisfying the targets set for the Project Outputs.

PDM of the Project sets five important external factors which may affect the achievement level of the Project Purpose. Until now, the environment surrounding the Project seems good and from the commencement of the cooperation to date, any major factors adversely affecting the Project have not been observed yet. Especially, MCD has secured the budget for procurement of IT vendors and the procurement process is expected to start soon. However, there is a concern about the progress of the Grant Aid Project of MACCS/MCIS, which may also influence the achievement level of the Project Purpose. In the latter half of the cooperation term, the Project needs to carefully monitor listed important assumptions whether these will not negatively affect the Project.

(3) Efficiency

The efficiency of the Project is assessed as relatively high. As described “3-1. Achievements confirmed though evaluation,” the Project has been producing the expected outputs as planned for last two years.

The positive aspects of process of generating Project Outputs are as follows. 1) the inputs provided by the Project have been fully utilized for the generation of seven Outputs; 2) strong commitment of Myanmar’s and Japanese Governments and JICA experts has been shown to pursue the project activities; 3) the Project has been managed very effectively by monitoring the progress based on the activities of sub-WGs and reports the progress to MCD’s DG ever after the activities of WG are completed; 4) there has been good coordination between the Grant Aid Project and the Technical Cooperation Project by sharing information and exchanging ideas; and, 5) the training in Japan and the study tour of VNACCS/VCIS in Vietnam provided good opportunities of learning about their experience as the prior examples and helped MCD officials identify priorities to be emphasized for MACCS/MCIS introduction and good O&M.

There are several issues pointed out although those have not substantially affected the project efficiency. Those are: 1) the number of human resources of MCD allocating for the project activities were not sufficient due to lack of MCD’s human resources itself, especially at the beginning of the cooperation term. During the project implementation, MCD made efforts to increase the number of assigned personnel continuously; 2) the IT literacy of some of sub-WG members was not sufficient to

fully understand the system of MACCS/MCIS since it requires high level of IT knowledge and skills. Through the project activities, their knowledge has been increased and also MCD made efforts to allocate officials who have IT academic background; and, 3) the degree to which the interpreters of Japanese and Myanmar language are familiar with the technical terms of Customs and IT influence the degree of understanding of MCD's counterparts.

(4) Impact

Since the Project is still in the middle of the cooperation term, it is premature to judge the impacts to be brought by the Project. The Mid-term Review Team was confirmed that the success of operation of MACCS/MCIS would certainly shorten the time required for Customs clearance and improve the score of efficiency of clearance process of LPI in Myanmar. To ensure the project impact, the Mid-term Review Team found that it would be very important for MCD to keep MACCS/MCIS in operation without any serious problems or errors.

Apart from the expected impact, the JICA experts and MCD's counterparts pointed out that the practice and attitudes of MCD counterparts toward work have been significantly improved through working closely with JICA experts. MCD's counterparts became to pay more attention to prepare for work, keep the documents in order and follow the schedule for the activities.

(5) Sustainability

■ Policy and institutional perspective

The policy environment is still likely to be very favorable since the Government of Myanmar puts priorities on modernization of Customs procedures and enhancement of efficiency of Customs clearance. Especially introducing the National Single Window is very important for Myanmar since this is one of the important factors to facilitate trade with ASEAN and other countries, and will contribute to implementation of the ASEAN Single Window.

The Project has provided the support for MCD to establish the laws and regulations necessary for effective O&M of MACCS/MCIS including the Revised Sea Customs Act and Land Customs Act. When other laws or regulations corresponding to use MACCS/MCIS need to be developed, the Project will support MCD in the latter half of the cooperation term. Also, the Project has been working on preparing the necessary Notifications to further enhance Customs administration. Therefore, the institutional environment for efficient Customs clearance and enhancement of Customs administration will be ensured.

■ Financial/organisational perspective

To date, the Ministry of Finance (MOF) has allocated the budget necessary for installation of MACCS/MCIS in accordance with the request from MCD. The MCD's budget allocated from MOF was 4,564 million MMK in 2013/2014 and 15,838 million MMK in 2014/2015, tripling compared with the previous year. Moreover, MCD will introduce the declaration fees for using MACCS, and this could be the potential financial resource for MCD⁷. Since the trade facilitation through modernizing Customs procedures is one of the national priorities, it is expected that the budget and human resources necessary for good O&M of MACCS/MCIS will be ensured. In preparation for the operation of MACCS/MCIS,

⁷ In the Myanmar's system, all declaration fees will be transferred to the national treasury.

MCD newly established MACCS Division allocating 49 officials at this moment and plans to increase the number of officials in near future. This proves that the MCD's top management commits to success of MACCS/MCIS introduction and shows the strong leadership toward proper O&M of MACCS/MCIS. Therefore, the financial and organizational sustainability is also likely to be ensured.

■ Technical perspective

The capacity of core human resources in operating and maintaining MACCS/MCIS has been enhanced through the project activities. After the running test and the full-scale operation of MACCS/MCIS, they will further improve the capacity of operating and maintaining MACCS/MCIS through actual operation and more interaction with users in the private sector. Moreover, the Project has a plan to provide more assistance to enhance the MCD's capacity of Customs administration utilizing MACCS/MCIS. This will ensure the technical sustainability of the Project. On the other hand, the Mid-term Review Team observed that there are some rooms to improve MCD's capacity of IT. This is very important for proper O&M of MACCS/MCIS. Also, it is important that O&M vendors of MACCS/MCIS will be procured and involved in the structure of O&M of MACCS/MCIS to ensure the technical sustainability.

3-3. Factors Promoting Project Effects

(1) Factors concerning to Planning

The Project has been carried out in parallel with the implementation of the Grant Aid Project which is primarily responsible for technical installation of MACCS/MCIS. This design was very appropriate to ensure that the installed system be along with the Myanmar's Customs procedures, having the involvement of JICA experts who are specialists in Customs. Moreover, the good environment for operation of MACCS/MCIS has been efficiently established with the assistance of JICA experts who have promoted the establishment of suitable legal framework for MACCS/MCIS.

(2) Factors concerning to Implementation

The positive factors described in "(3) Efficiency, 3-2. Summary of Evaluation Results" have been promoting the project implementation and have contributed to fulfilment of the Project Purpose.

3-4. Factor Inhibiting Project Effects

(1) Factors concerning to Planning

No particular issues are identified.

(2) Factors concerning to Implementation

As described in "(3) Efficiency, 3-2. Summary of Evaluation Results", several factors have been affecting the project implementation although the influence to the Project has been very limited. Among the factors identified, a special attention needs to be paid to the issue of mobilizing and fixing the experienced interpreters who are very familiar with IT technical terms or Customs terms. When this problem continues to arise in the latter half of the cooperation period, it may affect the project progress.

3-5. Conclusion

In sum, the Project has successfully established environment necessary for proper operation and

maintenance of MACCS/MCIS towards Customs reform and modernization to date. The relevance of the Project is evaluated as high. The Project highly met the needs of Myanmar's target groups and the Project is aligned with the policies of the Governments of Myanmar and Japan. The effectiveness of the Project is high; however, the Project needs to carefully monitor the external factors which may affect the achievement level of the Project Purpose. The project efficiency is assessed as relatively high since there are some issues slightly influencing process of generating the outputs. While it is premature to assess the impact, the success of MACCS/MCIS will bring positive impacts to Myanmar. The sustainability of the project is likely to be ensured if the capacity of IT officials at MCD is further enhanced.

3-6. Recommendations

(1) Modification of PDM

In PDM Ver.1.1, there are 3 objectively verifiable indicators that are still left blank. Based on the results of the Mid-term Review, the Joint Mid-term Review Team proposes to fill in those blanks as described below.

i) Proposed "Objectively Verifiable Indicators" No.1 of Overall Goal

Reduce the amount of time required for Customs clearance to 3 seconds for Simplified Examination under the stable Internet environment (from declaration to permission, except manual), to 2 hours for Document Examination (from start screening to completion of examination).

ii) Proposed "Objectively Verifiable Indicators" of Output 4

The rate of participants of explanatory meetings about MACCS reaches 95% of the total number of private MACCS Users in Yangon Area.

iii) Proposed "Objectively Verifiable Indicators" of Output 7-1

The number of Customs officers who received trainings reaches 400 before the end of the Project.

Besides the items listed above, other minor modifications shall be made, which are only intended to reflect the contents of the Project appropriately.

(2) Further strengthening of organizational capacity of MCD toward smooth introduction and operation of MACCS/MCIS.

It is highly recommended that MCD continue to make efforts to further strengthen organizational capacity of MACCS Division in terms of both quantity and quality of staff and working environment, so as to realize smooth introduction and operation of MACCS/MCIS.

(3) Establishment of Notification/Order of Minister and DG related to implementation of MACCS/MCIS

In order for MACCS/MCIS to be fully operational within 2016, it is strongly expected that MCD promotes and establishes Notification/Order of Minister and DG on E-Customs manual, bonded warehouse, foreign exchange rate, Customs Valuation and PCA enacted at an appropriate timing.

(4) Mobilizing and fixing experienced interpreters

It was pointed out that frequent change of interpreters causes difficulties in having smooth communication between Myanmar side and Japanese side in some sub-WGs while other sub-WGs benefit from having fixed and experienced interpreters. It is therefore important that experienced interpreters, though limited, are mobilized and fixed as much as possible in each sub-WG.

(5) Intensive preparation for full-scale operation of MACCS/MCIS

Since it requires intensive allocation of human resources and time for full-scale operation of MACCS/MCIS within 2016, it is suggested that activities under Output 7 on trainings of various areas in Customs administration be postponed, except for Customs Valuation, until MACCS/MCIS is successfully introduced.

(6) Appropriate level of the user fee of MACCS/MCIS

It is crucial for MCD to set the user fee of MACCS/MCIS at an adequate level so that the indicator for the Project Purpose is met (i.e. 80 % of the total declared number of import and exports are declared through MACCS at the targeted Customs offices) and therefore sustainability of operation of MACCS/MCIS is ensured.

(7) Safety operation and troubleshooting of MACCS/MCIS

IT literacy in general needs to be enhanced in MCD. Moreover, MACCS Division shall make effort to equip IT officials with capacity on technical oversight of MACCS/MCIS and be able to procure and instruct O&M IT vendors.

(8) Better understanding among private users of MACCS/MCIS

Since registration and use of MACCS/MCIS by private sector is vital for successful operation of the system, it is worth considering further support for private sector (e.g. customs brokers, freight forwarders, transit transport operators, etc.) such as conducting observation program to Japan organized by the Japanese side.

第1章 中間レビュー調査の概要

1-1 調査団派遣の背景

ミャンマー連邦共和国（以下、「ミャンマー」と記す）は、2011年3月の新政権発足以降、従来の中央集約的経済から市場経済化に向けた諸改革に取り組んでおり、2011年10月の車両輸入規制の緩和や銀行の外貨取引の解禁、2012年4月の為替レートの統一化に向けた管理変動相場制といった政策を次々に導入している。近年の経済成長率をみると、欧米による経済制裁解除やミャンマー国内の経済改革への期待による投資・貿易促進、インフレ率の抑制等により、2011年は5.5%、2012年は6.2%を達成した。

ミャンマーでは、労働集約型・輸出志向型産業を中心とした民間セクター開発を進めているものの、投資のボトルネックのひとつに煩雑な行政手続等（通関手続も含む）も挙げられていた。通関制度の整備（通関システム含む）は、ASEAN 諸国内でも大きく出遅れ（世銀調査「物流効率性指数（Logistics Performance Index : LPI）」では、域内最低の122位/155カ国）、輸出入量が増加しているにもかかわらず税収に占める関税収入は3.2%と非常に低い水準にあり、通関手続の効率化・重点化による歳入基盤の強化と貿易円滑化の両立が重要課題となっていた。また、2015年のASEAN 地域統合等を見据え、通関を含む輸入手続の簡素化・国際的調和化を目的としたナショナル・シングル・ウィンドウ（National Single Window : NSW）の実現及び将来的なASEAN シングル・ウィンドウの構築がミャンマー政府の喫緊の課題となっていた。

このような背景の下、ミャンマー財務省関税局（MCD）は、わが国財務省関税局をはじめとする関係機関が使用している輸出入・港湾関連情報処理システム（NACCS）及び通関情報総合判定システム（CIS）の技術的優位性にかんがみ、NACCS/CIS 技術を活用したミャンマーにおける通関 IT システム（MACCS/MCIS）構築を検討していた。その結果、無償資金協力事業及び同システムの適切な運用・維持管理に必要な人員・体制面の整備・能力向上のための技術協力を一体のものとしてわが国に要請し、技術協力プロジェクト「通関電子化を通じたナショナル・シングル・ウィンドウ構築及び税関近代化のための能力向上プロジェクト」（以下、「本プロジェクト」）及び無償資金協力「通関電子化を通じたナショナル・シングル・ウィンドウ構築及び税関近代化計画」が採択された。その後、本プロジェクトは2014年2月から4年の予定で開始された。無償資金協力事業は2014年4月の閣議で実施決定され、同月に39億9,000万円を限度として交換公文が署名された。本無償資金協力事業では、詳細設計完了後、2015年中のプログラム開発完了、その後の接続試験・総合運転試験を経て、2016年中の完成・導入を予定している。

1-2 調査目的

本合同中間レビュー調査は、本プロジェクト開始後約2年が経過したことから、ミャンマー側関係機関と合同で本プロジェクトの目標達成度、アウトプット、活動の現状を確認・分析するとともに、カウンターパートを中心とするミャンマー国関係機関と協議を行い、今後のプロジェクト運営を進めるうえでの課題と方向性を明らかにする。

- ① プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix : PDM）及び評価グリッド（案）に照らし、現在までのプロジェクトの進捗・成果を確認する。
- ② 評価グリッド（案）に沿って、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の観点から経過の評価を行う。

- ③ 事前検討及び上記評価結果に基づき、必要に応じて評価指標の整理・具体化を含む PDM の改訂について協議するとともに、プロジェクト期間後半に関する計画を見直す。なお、仮に PDM を改訂する場合は、本調査において現状を確認したうえで、プロジェクト成果の更なる発現・向上をめざす一方、残り期間（約 2 年）で実施可能な協力目標、内容となることに留意する。
- ④ 上記③と併せ、プロジェクト実施における課題等を整理・協議のうえ、プロジェクト後半に向けて今後の方向性及び改善策の検討・提言を行う。
- ⑤ 以上に基づき、合同レビュー報告書（案）を取りまとめるが本調査では時間的な制約にかんがみ、協議議事録（M/M）の合意・署名は調査期間中に行わず、調査団帰国後に後日行うこととする。

1-3 調査団の構成

<日本側>

氏名	担当業務	所属
馬杉 学治	団長／総括	独立行政法人国際協力機構（JICA）産業開発・公共政策部行財政・金融チーム 課長
栗田 昇	税関行政	財務省関税局第二参事官室 課長補佐
菊地 健士	協力企画	JICA 産業開発・公共政策部行財政・金融チーム 課長補佐
南村 亜矢子	評価分析	合同会社適材適所
キン・ケイ・カイモ	通訳（日緬）	一般財団法人日本国際協力センター

<ミャンマー側>

名前	所属
Mr. Win Thant	ミャンマー財務省関税局（MCD）、輸出入・港湾関連情報処理システム（MACCS）課 課長
Mr. Thein Swe	MCD、総務課 課長
Ms. Soe Soe Lwin	MCD、総務課 国際課長
Ms. Aye Aye Win	MCD、総務課 法務担当課長

1-4 調査日程

合同中間レビュー調査は、2016年2月21日（日）から27日（土）の日程で実施された。詳細は、付属資料1の合同中間レビュー調査報告書（英文）Appendix 3を参照。

1-5 プロジェクト概要

（1）上位目標

適切な関税徴収を確保しつつ、ミャンマーにおける貿易円滑化が促進される。

(2) プロジェクト目標

わが国 NACCS/CIS 技術を活用した税関改革及び近代化のための MACCS/MCIS が円滑に運用・維持管理されるための環境が強化される。

(3) アウトプット

- 1) MACCS/MCIS の適切な導入に必要な準備がなされる。
- 2) 税関職員が MACCS/MCIS を適切に利用するために必要な知識・スキルを獲得する。
- 3) MACCS/MCIS を適切に運用・維持管理するための体制が整備され、必要な人材が育成される。
- 4) 民間利用者が MACCS を適切に利用するために必要な知識・スキルを獲得する。
- 5) MACCS/MCIS の利用に対応した必要な法規程が整備される。
- 6) MACCS/MCIS の適切な運用に必要な情報管理体制が整備される。
- 7) MACCS/MCIS を利用した迅速かつ適切な通関のため、関税分類、関税評価、税関事後調査、税関リスクマネジメント等の税関行政の中核業務遂行のための能力が向上する。関税評価、事後調査、関税分類における事前教示制度の実施に必要な要領、ガイドライン、通達が整備される。

(4) プロジェクトの実施体制

本プロジェクトでは、ミャンマー側からプロジェクト・ダイレクター、プロジェクト・マネジャー、副プロジェクト・マネジャーを、JICA 専門家からチーフアドバイザーを配置してプロジェクトを管理している。また、プロジェクトでは JICA 短期専門家と MCD カウンターパートで構成されるワーキング・グループ (Working Group : WG) を設置し、7つの分野についてそれぞれサブ WG を設置して活動を推進している。7つのサブ WG は、①貨物、②通関、③収納、④リスクマネジメント、⑤IT、⑥利用者登録、⑦ヘルプデスクである。WG の活動は、1カ月に1回サブ WG のメンバーである JICA 短期専門家の派遣期間に応じて2週間程度集中して行われる。

第2章 評価の方法

2-1 評価の方法

(1) 合同中間レビュー調査の手法

本合同中間レビュー調査は、プロジェクト・サイクル・マネジメント（Project Cycle Management：PCM）手法で用いられる PDM を活用して、以下の手順で実施した。

- 1) PDM に基づいて評価の枠組みをデザインする（評価グリッドの作成）。
- 2) プロジェクトの実績と実施プロセスを中心としたデータを収集する。
- 3) 「妥当性」「有効性」「効率性」「インパクト」「持続性」の観点（評価5項目、詳細は後述）から収集データを分析する。
- 4) 分析結果からプロジェクトの残りの実施期間の活動に対する提言を抽出する。

(2) 主な調査項目とデータ収集方法

調査項目は、プロジェクトの実績、実施プロセスの確認、評価5項目の観点による評価に分けられる。

1) プロジェクトの実績の確認

プロジェクトの投入実績、活動実績、アウトプット（成果）の現状、プロジェクト目標と上位目標の達成見込みを確認・検証する。

2) プロジェクトの実施プロセスの確認

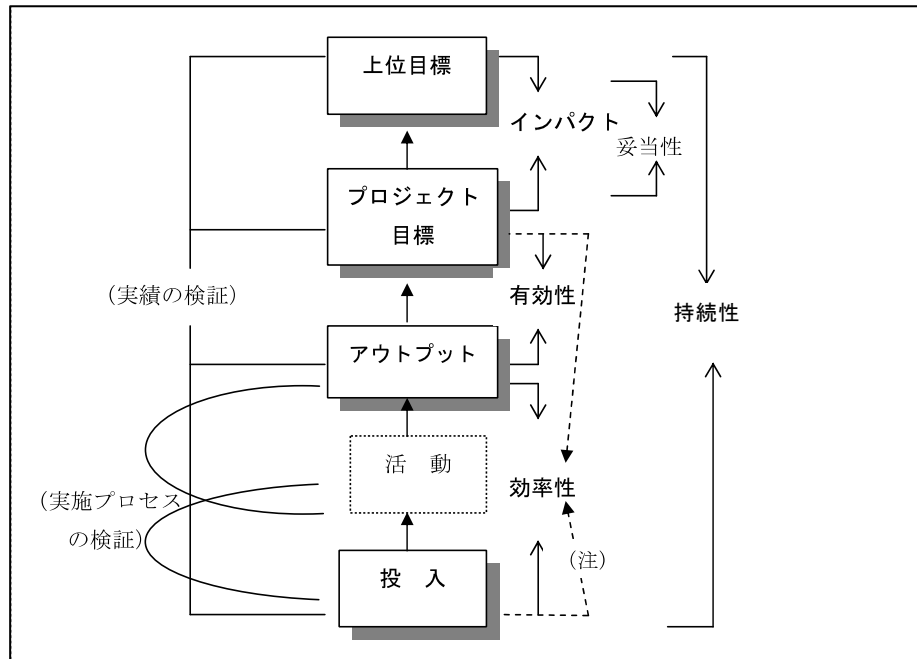
プロジェクトの実施過程を確認する。主な調査項目は、プロジェクトを円滑に実施するために工夫された点、モニタリングシステムの有無、プロジェクト関係者間の連携状況などである。

3) 評価5項目に基づく分析

プロジェクトの実績と実施プロセスの確認を通じて収集した情報を基に、評価5項目の①妥当性、②有効性、③効率性、④インパクト、⑤持続性の観点からプロジェクトを評価する。各評価項目の主な視点は次のとおり。

妥当性	開発援助と、ターゲットグループ・相手国・ドナーの優先並びに政策・方針との整合性の度合いなど、援助プロジェクトの正当性・必要性を問う。
有効性	開発援助の目標の達成度合を測る尺度。プロジェクトの実施により、ターゲットグループに便益がもたされているかを検証し、プロジェクトが有効であるかどうかを判断する。
効率性	インプットに対するアウトプット（定性並びに定量）を計測する。プロジェクトの資源の有効活用という観点から効率的であったかどうかを検証する。
インパクト	上位目標の達成見込みを検証する。また開発援助によってもたらされる、より長期的・間接的な効果や波及効果をみる。
持続性	援助事業の終了後、プロジェクトで発現した効果が持続するかを問う。

出典：2010年6月「新JICA事業評価ガイドライン第1版」をベースに加筆。



出典：2004年2月「プロジェクト評価の手引き～改訂版 JICA 評価ガイドライン」より。

図 2-1 PDM と 5 項目評価の関係

2-2 情報収集方法

(1) 既存資料のレビューと分析

プロジェクトに関する以下の既存資料をレビューし、情報分析に活用した。

<既存資料>

- ・ 討議議事録 (Record of Discussion : R/D) - 2014年2月10日に署名・交換
- ・ PDM1.1-2015年6月5日付
- ・ 事業事前評価表
- ・ 実施運営総括表 (第1回、第2回)
- ・ 「通関電子化を通じたナショナル・シングル・ウィンドウ構築及び税関近代化計画」準備調査報告書 (2014年3月)
- ・ その他プロジェクト作成資料 [合同調整委員会 (JCC) 資料、WG 活動報告書、その他活動進捗に関する情報など]

(2) プロジェクト関係者への質問票の配布

現地調査に先立ち、評価分析団員がプロジェクトの実績、実施プロセス、評価5項目に関する質問票案を作成し、事前に MCD カウンターパートと JICA 専門家に配布し、現地調査開始前に回収した。現地調査では回収した質問票の結果をベースにプロジェクト関係者へのインタビュー調査を実施した。

(3) プロジェクト関係者に対するインタビューの実施

現地調査では回収した質問票の結果をベースにプロジェクト関係者へ個別にインタビュー

を実施し、プロジェクトの実績・実施プロセスを確認した。また、MACCS の利用者となる民間団体にもヒアリングを実施した。

(4) 合同中間レビュー調査報告書の作成と内容についての合意

合同中間レビュー調査の結果を「合同中間レビュー調査報告書（英文）」（付属資料 1 を参照）としてまとめ、MCD の関係者にレビュー結果を報告した。その後、MCD 内での承認続きが取られ、日本・ミャンマー側関係機関との間で合同中間レビュー調査の結果に関する協議議事録（M/M）の署名・交換を行った。

第3章 プロジェクトの実績

3-1 投入の実績

3-1-1 日本側の投入

(1) 専門家派遣 (付属資料1の合同中間レビュー調査報告書(英文) Appendix 6 参照)

プロジェクト開始から2016年2月まで、合計40人〔合計116.4人月(MM)〕の専門家が派遣された。内訳は、長期専門家3人(49.3 MM)、短期専門家37人(67.1 MM)である。長期専門家は主にプロジェクト全体の運営管理、税関行政の指導、情報技術(IT)分野のフォローアップ、日本・ミャンマー側の関係機関との調整を行った。短期専門家は表3-1に示すような幅広い専門分野での活動を担当しており、WGに設置されたサブWGの7分野の活動及び関税評価、保税、事後調査分野などの税関行政分野の活動を担当した。

表3-1 JICA 専門家の派遣実績

専門分野	派遣人数	派遣回数	延べ日数	MM
長期専門家				
チーフアドバイザー	1	1	517	17.0
税関行政	1	1	485	16.0
業務調整/研修計画	1	1	407	13.3
小計	3	3	1,496	49.3
短期専門家				
WGメンバー*	26	206	1,939	64.6
関税評価	6	6	44	1.5
保税	1	1	7	0.2
事後調査	2	2	14	0.4
関税分類	2	2	12	0.4
小計	37	217	2,016	67.1

出典：プロジェクト事務所提供の情報

*：WGメンバーの派遣は、無償資金協力事業の開始時である2013年11月から2016年2月までの派遣実績も含めて集計している。

(2) 海外研修

プロジェクト開始から訪日研修とベトナムでの視察が実施された。

訪日研修は6回実施され、64人(13.4 MM)が参加し、NACCS/CISや日本の税関手続き、税関行政について学んだ。詳細は「表3-2 訪日研修の受入れ実績」を参照。参加者リストは、付属資料1の合同中間レビュー報告書(英文) Appendix 7に記載している。

ベトナムの視察では、20人(3.0 MM)のMCD職員が参加し、ベトナム税関局に導入されたVNACCS/VCISを視察した。視察では、VNACCS/VCISの技術を活用した税関手続きの近代化や税関行政の強化の先事例について多くを学んだ。ベトナムの視察に関する詳

細は表3-3を参照。参加者リストは、付属資料1の合同中間レビュー調査報告書(英文) Appendix 7に記載している。

表3-2 訪日研修の受入れ実績

内 容	実施時期	日数	参加者数	MM	主な参加者
NACCS/CIS	2014年 2月-3月	7	12	2.8	MCD職員
NACCS/CIS	2014年 6月	8	12	3.2	MCD職員
NACCS/CIS	2015年 10月	7	13	3.0	MCD職員 (MACCS課)
メコン諸国(CLMV)の保税手続きに関するセミナー	2015年 11月	8	3	0.8	MCD職員
ミャンマーの関税評価と事後調査に関するセミナー	2016年 1月	4	12	1.6	MCD職員
ミャンマーの関税分類に関するセミナー	2016年 2月	5	12	2.0	MCD職員
合 計		39	64	13.4	

出典：プロジェクト事務所提供の情報

表3-3 ベトナム視察の実績

内 容	実施時期	日数	参加者数	MM	主な参加者
VNACCS/VCIS	2014年 9月-10月	4	10	1.3	MCD職員
VNACCS/VCIS	2015年 12月	5	10	1.7	MCD職員
合 計		9	20	3.0	

(3) 現地活動費(在外事業強化費)

プロジェクト開始から2016年1月まで日本側から支出された現地活動費は、2,782万9,000円(約23万2,446米ドル¹⁾)である。

表3-4 日本側が支出した現地業務費

(単位：千円)

年 度*	2014	2015**	合 計
拠出額	12,578	15,251	27,829

出典：プロジェクト事務所提供の資料

*：日本の会計年度は4月開始、翌年3月に終了。

**：2015年度の支出額は、2015年4月から2016年1月分の合計である。

¹ JICA換算レート：2015年3月：1ドル=119.02円、2016年1月：1ドル=120.303円で換算。

3-1-2 ミャンマー側の投入

(1) カウンターパートの配置

- プロジェクト・ダイレクター：MCD 局長
- プロジェクト・マネジャー：MCD の副局長
- 副プロジェクト・マネジャー：MCD の MACCS 課長

その他のカウンターパートは、付属資料 1 の合同中間レビュー調査報告書（英文）の Appendix 5 に示すとおりである。

(2) 施設

- ・ JICA 専門家用の執務室が MCD 内に設定され、ミャンマー側が家具等必要な設備、光熱費を負担した。
- ・ 税関職員と民間利用者向けの MACCS 説明会の会場が MCD によって適宜提供された。

(3) 現地活動費

ミャンマー政府より 2014/2015 年度と 2015/2016 年度に合計 367 万 9,000 MMK (約 3,489 米ドル²) がプロジェクト活動費として拠出された。

表 3-5 ミャンマー側から拠出された現地業務費

(単位: MMK)

年 度	2014/2015	2015/2016	合 計
拠出額	3,188,222	491,000	3,679,222

出典：MCD から提供された情報

*：ミャンマーの会計年度は 4 月開始、翌年 3 月に終了。

3-2 アウトプットの達成度

合同中間レビュー調査団では、PDM1.1 に設定されたアウトプットの達成に向かって順調にプロジェクトが実施されていると判断した。プロジェクト開始から今日までの各アウトプット（成果）の達成状況は以下のとおり。

(1) アウトプット 1

アウトプット 1：MACCS/MCIS の適切な導入に必要な準備がなされる。	
指 標	達成度
1-1 ミャンマーの環境下で実効性、効率性、有効性のある MACCS/MCIS の詳細設計が確実にスケジュールに沿って作成される。	・ 2015 年 3 月に MACCS/MCIS の詳細設計が確定された。 ・ 詳細設計を確定する作業のなかで、WG のメンバーは、詳細設計とミャンマーにおける税関手続きとが整合するように調整を行ってきた。これによって、ミャンマーの環境下で実効性、効率性、有効性のある MACCS/MCIS が設計されたといえる。

² 換算レート (Investing.com: <http://jp.investing.com/currencies/usd-mmk-converter>) : 1USD = 1,031MMK (2015 年 3 月 31 日の換算レート)、1USD = 1,238MMK (2016 年 2 月 25 日の換算レート)

<p>1-2 スケジュールどおりに税関職員向けの業務処理ガイドラインとマスター・データが作成される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・税関職員向けの業務処理マニュアル案³は、無償資金協力事業のソフトウェアベンダーによって WG のメンバーと内容を確認したうえで、2015 年 12 月までに MCD に提出されている。改訂版の業務処理マニュアル案も 2016 年 1 月に MCD に提出されており、現在 MCD ではミャンマー語に翻訳しているところである。 ・マスター・データは、作成中であり、2016 年 8 月の総合運転試験説明会に向けて 7 月までに作成作業が完了する予定である。
<p>1-3 民間利用者向けの業務処理マニュアルがスケジュールどおりに作成される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・MCD と JICA 専門家は、2015 年 1 月と 2 月の WG の活動で民間利用者向けの業務処理マニュアルの詳細なスケジュールと各サブ WG の役割分担について協議した。業務処理マニュアル案はソフトウェアのベンダーによって 2015 年 12 月までに作成されており、改訂版も 2016 年 1 月に MCD に提出されている。MCD では現在業務処理マニュアルをミャンマー語に翻訳している。
<p><アウトプット 1 の全般的な達成度></p> <p>WG メンバーでは、MACCS/MCIS の詳細設計について集中的に議論を行い、これによってミャンマーの環境下で実効性、効率性、有効性のある MACCS/MCIS が設計されたといえる。税関職員向け及び民間利用者向けの業務処理マニュアルはスケジュールどおりに作成されている。したがって、MACCS/MCIS の導入に必要な準備が実行されてきたといえる。</p>	

(2) アウトプット 2

<p>アウトプット 2：税関職員が MACCS/MCIS を適切に利用するために必要な知識・スキルを獲得する。</p>	
指 標	達成度
<p>2-1 ヤンゴン地区の税関職員の 95%が MACCS/MCIS 利用に関する説明会に参加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・WG では、MACCS/MCIS の詳細設計に関する税関職員向けの説明資料を作成した。 ・2015 年に実施された説明会（概要説明会）に参加した税関職員は、ヤンゴン地区に配置された 379 人中 335 人であり、88.4%が参加したことになる。 ・2015 年 7 月に本局と地区税関／支署との間で人事異動があったため、プロジェクトでは、異動した税関職員や新規採用職員を対象に、同年 11 月に同様の説明会を実施した。ヤンゴン地区の職員数 374 人中 253 人が参加し 67.6%の参加率を得た（詳細は「表 3-6」参照）。 ・2015 年 5 月と 11 月に実施された説明会の参加率は、PDM で設定された目標値を下回っているようにみえるが、2015 年 11 月に実施された説明会の参加者のほとんどが、新規採用職員あるいは地方から本局に異動になった職員である。し

³ PDM 上では、「ガイドライン」と記載されているが、プロジェクト関係者によると実際には「マニュアル」を作成しているとのことなので、実績の記載では「ガイドライン」を「マニュアル」と置き換える。

	<p>たがって、ヤンゴン地区の税関職員のほとんどが説明会に参加したと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトでは、2016年7月にヤンゴン地区の税関職員を対象とした MACCS/MCIS の総合運転試験説明会を開催する予定である。これを通じて税関職員は更に MACCS/MCIS を適切に利用するための知識を得ると期待される。
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<アウトプット2の全般的な達成度>

MACCS/MCIS の詳細設計に関する議論を通じて WG のメンバーは MACCS/MCIS の詳細設計や仕様について理解を深め、ミャンマーの税関手続きと MACCS/MCIS の設計が整合するように調整を行った。税関職員と民間利用者向けの説明会資料の作成を通じて、MCD のカウンターパートの多くは、説明会の講師としての知識を蓄積してきた。現時点では、約 20 人⁴の職員が説明会の講師を務めることができる。プロジェクトでは 2016 年 7 月に MACCS/MCIS の総合運転試験説明会を開催する予定であり、この説明会の準備を通じて MCD の職員はさらに MACCS/MCIS を適切に利用するために必要な知識やスキルを習得するといえる。

2015 年 11 月に無償資金協力事業のコンサルタントが WG メンバーに対して実施した質問票の結果によると、「WG での議論を 75% 以上理解している」と回答したのは、回答者数 32 人のうち 23 人 (72%) であった。また「MACCS/MCIS が稼働した後、日本の支援なしに MACCS/MCIS を適切に運用できる自信が 75% 以上ある」と回答したのは、回答者数 32 人のうち 25 人 (78%) であった。今後もプロジェクト活動が計画どおりに進められれば、MACCS/MCIS の利用に関する知識・自信のレベルは更に向上すると考えられる。

表 3-6 ヤンゴン地区で実施された MACCS/MCIS の説明会の実績

実施日	内 容	参加者数	ヤンゴン地区 の職員数	主な参加者
2015 年 5 月 21 日	MACCS/MCIS の概要 説明	116		税関職員
2015 年 5 月 22 日	MACCS/MCIS の概要 説明	119		税関職員
2015 年 5 月 26 日	MACCS/MCIS の概要 説明	100		税関職員
参加者数の合計		335	379	(88.4%)
2015 年 11 月 5 日	MACCS/MCIS の概要 説明	128		税関職員
2015 年 11 月 6 日	MACCS/MCIS の概要 説明	125		税関職員
参加者数の合計		253	374	(67.6%)

⁴ JICA 専門家と MCD カウンターパートへ実施したインタビュー調査の結果より、合同中間レビュー調査団では、各サブ WG のリーダーとサブリーダーを含め、グループ内から 3 人程度の人材が説明会で講師を務められるレベルの知識があると判断した。

(3) アウトプット3

アウトプット3：MACCS/MCIS を適切に運用・維持管理するための体制が整備され、必要な人材が育成される。	
指 標	達成度
3-1 MACCS/MCIS 利用者向けのヘルプデスクがスケジュールどおりに設置される。	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年8月にMCD内にMACCS課(MACCS Division)が設置され⁵、MACCS/MCISの運用・維持管理(O&M)の責務を負うこととなった。現時点では49人の職員が配置されており、このMACCS課内にヘルプデスクが設置されている。 ・ヘルプデスクでは、7人の職員が配置されており、税関職員と民間利用者からの問い合わせを受け付ける体制が整備されている。
3-2 システム運営や問題処理のFAQがスケジュールどおりに作成される。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で活用されているよくある質問(FAQ)をベースに、ヘルプデスクのサブWGはシステム運営や問題処理のFAQの初版を作成した。現在、MCDではFAQ初版をミャンマー語に翻訳しているところである。 ・2016年3月よりヘルプデスクでは実際に問い合わせを受け始める。その後実際の問い合わせ内容の頻度分析を行い、結果を基にFAQを随時改訂する予定である。
<p><アウトプット3の全般的な達成度></p> <p>合同中間レビュー調査時点において、MACCS/MCIS を適切に運用・維持管理するための体制は構築中である。これまでヘルプデスクの役割と責任(業務所掌)が明確にされるとともに、ヘルプデスクの人員も配置され人材育成が進んでいる。MCDのIT部門は、現在ではMACCS課に移管され、MCD全体のIT関連業務とMACCS/MCISのシステム関係の業務を担うことになっている。MACCS/MCISのO&Mベンダーの入札が2016年4月に実施される予定であり、ベンダーの調達を終了したのちにMACCS/MCISのシステム運営や問題処理の体制が協議される予定である⁶。</p>	

(4) アウトプット4

アウトプット4：民間利用者がMACCSを適切に利用するために必要な知識・スキルを獲得する。	
指 標	達成度
4-1 ヤンゴン地区のMACCS利用者のx%がMACCS導入に関する説明会に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> ・民間利用者を対象としたMACCSの説明会(概要説明会)が2015年8月に開催され、800人が参加した。 ・その他省庁(OGA)やミャンマー経済銀行を対象とした説明会も2013年12月から2016年2月までに39回実施されている。そのなかにはネピドーに出向きOGAやミャンマー

⁵ 現在MACCS課には課長以下、副課長2人(総務・運用担当副課長と技術・IT担当副課長)が配置され、調整係(Coordination Section)、MACCS係(MACCS Section)、MCIS係(MCIS Section)、時間外執務要請届係(OSA Section)、利用者登録係(User Registration Section)、ヘルプデスク係(Help Desk Section)、システムモニタリング(System Monitoring)の係が設置されている。

⁶ MACCS/MCISのシステム運営や問題処理の体制構築には、MCDのIT部門とヘルプデスクのみならず、MACCS/MCISの技術的なサポートを担うベンダーも含めた全体体制を構築する必要がある。現在プロジェクトでは、システム運営と問題処理体制の原案を作成しているが、ベンダーの調達後改めて関係者で協議し、最終的な体制を決定する予定である。

	<p>経済銀行を訪問してMACCS/MCISの有用性について説明したケースも含まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに、プロジェクトでは、2015年7～8月に貨物会社向けに10回の説明会を開催した。船会社、運送会社、航空会社、コンテナヤード会社には個別に訪問してMACCSの導入や機能に関して説明を行った。 ・説明会に参加した民間利用者の反応は、MACCSの導入に対しておおむねポジティブであった⁷。
<p><アウトプット4の全般的な達成度></p> <p>プロジェクト開始から今日までの活動を通じて、民間利用者は、MACCSの基本的な情報と知識を得てきたといえる。MACCS/MCISの成功には、民間利用者の参加が必要不可欠であるため、プロジェクトでは民間利用者やOGAの意向をヒアリングしたり意見を交換してMACCSへの参加を促進するように努めている。2016年5～6月にも民間利用者を対象とした詳細・総合運転試験説明会を開催する予定であり、これらの説明会を通じて、民間利用者はMACCSに関するより詳しい情報を得て、MACCSの利用に関するより具体的なイメージをもてるようになることが期待される。したがって、この時期までには民間利用者側でもMACCS利用のための準備が整うといえる。</p>	

(5) アウトプット5

<p>アウトプット5：MACCS/MCISの利用に対応した必要な法規程が整備される。</p>	
指 標	達成度
<p>5-1 MACCS/MCISの利用に対応した必要な法規程が整備される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年7月に改正関税法（改正海上関税法と陸上関税法）が施行され、MACCS/MCISの導入に必要な法定基盤が構築された。 ・MCDではMACCS/MCISの利用に必要な法規程を以下のように整備している。 <ul style="list-style-type: none"> ▶前払い所得税に関する大臣通達（Minister Notification on Advanced Income Tax）：MCDでは既に通達を作成しており、間もなく発布される予定である。 ・上記の改正関税法に加え、2016年末までにMACCS/MCISの運用のために整備されるべき法規程は、以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ▶保税に関する大臣通達（Minister Notification on Bonded Warehouse）：MCDでは既に通達案を作成しており、最終化の段階に入っている。 ▶電子システムを活用した税関手続きに関する大臣通達あるいは局長通達〔Minister Notification or Director General (DG) Notification on Customs procedures through electronic system〕 ▶週為替レートの適用に関する大臣通達（Minister Notification on weekly foreign exchange rate）：現在作成中である。

⁷ 現時点ではおおむねポジティブな反応ではあるが、まだ具体的にMACCSの活用に関する具体的なイメージがないため、早くMACCSを活用してみたいという意見もある（今回調査団で訪問した通関業者協会の意見）。

<アウトプット5の全般的な達成度>

プロジェクトでは、NACCS/CISを導入・利用するために整備された日本の法規程を学ぶためのワークショップや勉強会を開催し、ミャンマーにおいてMACCS/MCISの導入に必要な法的枠組みについて議論してきた。このような活動を通じて、MCDの職員は、MACCS/MCISの導入や利用に必要な法的枠組みについて考え、必要な法令等を特定してきた。2016年以内に制定される必要のある大臣通達や局長通達がいくつか特定されており、プロジェクトではこれらの通達案の作成や改訂作業を進める予定である。

(6) アウトプット6

アウトプット6：MACCS/MCISの適切な運用に必要な情報管理体制が整備される。	
指 標	達成度
6-1 必要な情報管理体制を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ITのサブWGでMACCS/MCISの権限設定を決定した。 ・ 現在、MACCS/MCISの情報管理体制は検討中である。MACCS/MCISのO&Mベンダーも含めて情報管理体制を構築する必要があるため、詳細はO&Mベンダーが調達されたのちに協議する予定である。 ・ MACCS/MCISの導入を担当している無償資金協力事業のコンサルタントと本プロジェクトのJICA専門家によって、情報管理体制マニュアルの原案が既に作成されている。O&Mベンダーの調達が完了したのちに情報管理体制の構築が議論されるなかで、マニュアルの詳細についても確認される予定である。

<アウトプット6の全般的な達成度>

上述のように、O&MベンダーもMACCS/MCISの情報管理面において重要な役割を担うことになるため、MACCS/MCISの適切な運用に向けた情報管理体制の構築に関する活動は、ベンダーの調達後に本格的に進められることになる。2016年8月にはMACCS/MCISの総合運転試験が開始されるため、その時期までに情報管理体制が明確に定義・確立され、情報管理マニュアルも承認される必要がある。

(7) アウトプット7

アウトプット7：MACCS/MCISを利用した迅速かつ適切な通関のため、関税分類、関税評価、税関事後調査、税関リスクマネジメント等の税関行政の中核業務遂行のための能力が向上する。関税評価、事後調査、関税分類における事前教示制度の実施に必要な要領、ガイドライン、通達が整備される。	
指 標	達成度
7-1 プロジェクト終了までに、x人の税関職員がトレーニングを受ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミャンマーにおける税関近代化のために強化すべき人材育成分野として、関税分類、事前教示、関税評価、事後調査が特定された⁸。プロジェクトでは、特定された分野の年間研修計

⁸ JICA専門家によれば、リスクマネジメントは、WGの活動でカバーされるので、アウトプット7ではカバーしないとのことである。

	<p>画を作成している⁹。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトでは、「表3-7 プロジェクトで実施した研修の実績」に示したように研修を実施しており、これまで274人の税関職員が研修を受けている。
<p>7-2 スケジュールどおりに、必要で十分な要領、ガイダンス、通達を作成される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点における要領、ガイダンス、通達の作成状況は以下のとおりである。 <p><関税分類における事前教示></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関税分類の事前教示に関する大臣通達案と局長通達案は作成され、2016年1月にMCD局長の承認を得ている。大臣通達案と局長通達案は2016年2月に財務大臣に提出されている。両通達ともに、2016年4月までには発布される見込みである。 <p><関税評価における事前教示></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関税評価の事前教示に関する大臣通達案と局長通達案は既に作成されており、2016年1月にMCD局長に承認された。大臣通達案と局長通達案は2016年2月に財務大臣に提出されている。両通達ともに、2016年4月までには発布される見込みである。 <p><関税評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関税評価に関する大臣通達案と局長通達案（必要に応じて）が関税評価マニュアルとともに作成され、幹部会議¹⁰でドラフトの修正作業が行われている。 <p><事後調査（PCA）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・MCDでは2015年3月以降、事後調査に関する大臣通達案と局長通達案を作成してきた。現在、通達案は幹部会議で議論されており、両通達ともに2016年11月頃には発布される見込みである。
<p><アウトプット7の全般的な達成度></p> <p>これまで274人の税関職員がプロジェクトで実施した研修に参加した。指標7-1には、参加者数の目標値が設定されていないため現時点の人材育成面の達成度は検証できないが、プロジェクトでは、税関行政において中核となる人材の能力向上を果たしてきたといえる。</p> <p>関税評価、事後調査（PCA）、関税分類や関税評価における事前教示のマニュアル、要領、通達については、前述のように税関行政を強化するための各種通達案が既に作成されている。プロジェクトでは、税関行政を強化するために、さらに今後作成する必要がある通達案等があるかどうか議論する予定である。</p>	

⁹ JICA 専門家によると、事前教示分野では活動計画を策定し、それに沿って管理する方法について MCD のカウンターパートから賛同を得られなかったため、その都度実施する活動について内容やスケジュールを協議しながら進めている。JICA 専門家側では作成した計画に沿ってプロジェクトの活動を進めている。

¹⁰ MCD の局長、副局長と、議題に関する担当課長を含む主要な課長が集まって懸案事項の結論を出す会議のことである（英文表記では Board of Directors）。

表 3-7 プロジェクトで実施した研修の実績

種 類	実施時期	内 容	参加者数	主な参加者
<ミャンマーでの研修>				
	2014年9月	世界貿易機構(WTO) 関税評価ワークショップ	20	各課の課長代理クラスとMCD職員
	2014年12月	WTO 関税評価と事後調査のセミナー	25	MCD職員と地方課職員
	2015年1月	関税分類と事前教示のセミナー	32	MCD職員
	2015年3月	関税評価と事後調査に関する研修	21	MCD職員(主に税関検査官)
	2015年6月	ミャンマー向けの保税に関するJICA国内研修	37	MCD職員
	2015年8-9月	関税評価に関する研修	25	MCD職員(主に税関検査官)
	2015年10月	事後調査に関するセミナー	30	MCD職員(主に税関検査官)
	ミャンマーにおける研修参加者数		190	
<訪日研修>				
	2014年2-3月	NACCS/CIS	12	MCD職員
	2014年6月	NACCS/CIS	12	MCD職員
	2015年10月	NACCS/CIS	13	MCD職員(MACCS課)
	2015年11月	メコン諸国(CLMV)の保税手続きに関するセミナー	3	MCD職員
	2016年1月	ミャンマーの関税評価と事後調査に関するセミナー	12	MCD職員
	2016年2月	ミャンマーの関税分類に関するセミナー	12	MCD職員
	訪日研修の参加者数		64	
<VNACCS/VCIS 視察>				
	2014年9-10月	VNACCS/VCIS	10	MCD職員
	2015年12月	VNACCS/VCIS	10	MCD職員
	VNACCS/VCIS 視察の参加者数		20	
The grand total number of participants			274	

出典：プロジェクト事務所提供。

3-3 プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：日本の NACCS/CIS 技術を活用した税関改革及び近代化のための MACCS/MCIS が円滑に運用・維持管理されるための環境が強化される。	
指 標	達成度
1. 対象税関における輸出入申告数のうち MACCS を通じた申告件数の割合が 80%になる。	<ul style="list-style-type: none"> • MACCS を通じた申告件数の割合は、総合運転試験が終了したのちに測定されることになる。 • MACCS/MCIS による税関申告は、現行のマニュアルによる税関申告に取って代わるものと期待されている。これを実現するためには、多くの民間利用者が MACCS/MCIS に参加することが非常に重要である。
2. 税関当局に対する税関手続き処理に係るクレームが減少する。	<ul style="list-style-type: none"> • このデータは、これまで MCD で体系的に収集されていない¹¹。したがって、プロジェクト期間の終了時にこの指標の達成度を測定することは困難である。
3. MACCS/MCIS が適切に維持管理され、目標の稼働率 99.0%が達成される。	<ul style="list-style-type: none"> • MACCS/MCIS の稼働率は MACCS/MCIS が稼働した後に測定されることになる。 • 99.0%の稼働率を達成するためには、本プロジェクトと MACCS/MCIS の無償資金協力事業で予定されている活動がすべて予定どおりに完了する必要がある。特に、O&M ベンダーと協力して、MACCS/MCIS のシステムトラブルが発生した場合の問題把握と解決を行う体制を明確に確立することが極めて重要である。さらに MCD では、システムトラブルが発生した際に技術的に O&M ベンダーとコミュニケーションが取れるシステム管理者 (system administrator) を育成する必要がある。
<p><プロジェクト目標の全般的な状況></p> <p>設定されたプロジェクト目標である「税関改革及び近代化のための MACCS/MCIS が円滑に運用・維持管理されるための環境が強化される」の達成に向けて、プロジェクトではこれまで順調に活動を進めている。ヤンゴン地区において MACCS/MCIS の導入が成功すれば、同地区における税関手続きが劇的に近代化され、プロジェクト実施の結果、税関行政も改善される見込みである。</p>	

3-4 上位目標の達成見込み

上位目標は、プロジェクト終了から3年後あたりに発現すると期待される正のインパクトであるが、合同中間レビュー調査時点の状況をベースライン値として以下のようにまとめた。

¹¹ MCD によると、税関手続きに関するクレームがある場合は、民間利用者等は MCD の本局や地区税関等に出向き、税関職員に直接伝え、ほとんどの場合はその場で解決することである。解決できない場合は、その場で上司に事案を上げて解決するようにしているとのことである。MCD ではクレームの内容を記録する体制を取っていないため、この指標を測定することは困難である。合同中間レビュー調査団では、PDM の改訂案として（軽微な修正）、ヘルプデスクが 2016 年 3 月より稼働した後、ヘルプデスクで受け付けた問い合わせ内容をデータベース化するため、そのデータベースを活用して税関手続きに関するクレームを集計することを脚注で示すように提案している。

上位目標：適切な関税徴収を確保しつつ、ミャンマーにおける貿易円滑化が促進される。																
指 標	達成度															
1. 安定したインターネット環境の下、通関所要時間が簡易審査で3秒〔申告から許可まで(ただしマニュアルによる納付を除く)〕、書類審査でx分(書類審査開始から書類審査終了まで)になる。	<p>・通関手続きにかかる時間のベースライン値は、以下のとおりである。</p> <p><通関所要時間></p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">2014</td> <td style="text-align: center;">2021 (目標)</td> </tr> <tr> <td>グリーン区分 (簡易審査)</td> <td style="text-align: center;">1時間46分</td> <td style="text-align: center;">3秒</td> </tr> <tr> <td>イエロー区分 (書類審査)</td> <td style="text-align: center;">24時間</td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> </table> <p>出典：通関所要時間のデータは、2014年にアジア開発銀行(ADB)の支援によって実施された通関所要時間調査の結果による。データはMCDにより提供。</p> <p>・通関手続きにかかる時間は、MACCS/MCISの総合運転試験が終了したあとから測定される予定である。</p>		2014	2021 (目標)	グリーン区分 (簡易審査)	1時間46分	3秒	イエロー区分 (書類審査)	24時間	X						
	2014	2021 (目標)														
グリーン区分 (簡易審査)	1時間46分	3秒														
イエロー区分 (書類審査)	24時間	X														
2. 貿易手続きの効率化指標が改善する。	<p>・下表には、世界銀行(WB)によって発表されている「物流効率性指数(LPI)¹²」の「申告処理の効率性(the efficiency of clearance process)」のデータを示している。2014年のミャンマーのスコアは1.97であり、調査対象国160カ国中150位であり、ASEAN諸国では最も低い。ミャンマーにMACCS/MCISが導入された後、LPIの「申告処理の効率性」のスコアは劇的に改善されると期待される。</p> <p><ミャンマーの申告処理の効率性のスコア></p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>税関処理*</th> <th>ランキング**</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2007</td> <td style="text-align: center;">2.07</td> <td style="text-align: center;">124/150</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td style="text-align: center;">1.94</td> <td style="text-align: center;">146/155</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td style="text-align: center;">2.24</td> <td style="text-align: center;">122/155</td> </tr> <tr> <td>2014</td> <td style="text-align: center;">1.97</td> <td style="text-align: center;">150/160</td> </tr> </tbody> </table> <p>*：最高スコアは5である。原文では「Customs」と略して記されているため、ここでは税関処理と標記した。 **：ミャンマーのランク/調査対象国数</p>	年	税関処理*	ランキング**	2007	2.07	124/150	2010	1.94	146/155	2012	2.24	122/155	2014	1.97	150/160
年	税関処理*	ランキング**														
2007	2.07	124/150														
2010	1.94	146/155														
2012	2.24	122/155														
2014	1.97	150/160														

3-5 プロジェクトの実施プロセス

プロジェクトではワーキング・グループ(WG)を形成しており、①貨物、②通関、③収納、④リスクマネジメント、⑤IT、⑥利用者登録、⑦ヘルプデスクの7つのサブWGが設置されている。WGのメンバーはJICA専門家とMCDのカウンターパートで構成されており、JICAの短期

¹² <http://lpi.worldbank.org/>. LPIは貿易に関する6つの分野について150~160カ国をランクづけしている。「国際スコア」は6つの主要項目を活用して各国の業績を基準に従って評価しており、LPIインデックスとして表示している。LPIは、次の6分野における各国のスコアの加重平均である。6分野とは、①税関を含めた国境管理当局による申告手続きの効率性(スピード、簡潔さ、手続きの予見性)、②インフラ面における貿易と運輸の質(港湾、鉄道、道路、IT)、③価格競争力のある積荷の調整のしやすさ、④ロジスティックサービスの質の高さ(運送業者、通関業者など)⑤発送品の追跡が可能かどうか、⑥スケジュールどおりあるいは予測した配送期間内に目的地まで積荷が輸送されるかどうか(適時性)である。

専門家が毎月 2 週間程度ミャンマーに滞在して WG の活動を集中的に行っている。JICA の短期専門家の滞在最終日には、常に WG と無償資金協力事業の進捗を共有する進捗会議が開催され、その後にさらに WG の進捗や活動結果を MCD の局長に報告するための確認会議（ラップアップ会議）が開催されている。確認会議では、WG から局長にプロジェクト活動に影響を及ぼす重要事項が報告された場合、局長はその場で必要な意思決定を行い、WG に的確な指示を行っている。このようなプロジェクト活動のモニタリング体制は非常に有益であり、プロジェクト活動をこれまで推進してきたといえる。

MCD と JICA 専門家のコミュニケーションは良好であり、プロジェクトも円滑に運営されてきた。MCD と JICA 専門家は良好な関係を構築しており、情報共有、意見交換、プロジェクト実施に影響を与える問題等の議論を密に行っている。その一方で、WG では日本語とミャンマー語の通訳を介して活動を実施しており、税関用語にあまり精通していない通訳によるミスコミュニケーションや、頻繁に通訳者が交代するケースもあり、WG の活動における議論がスムーズに進まないケースもみられる。

プロジェクト開始当初は、MCD にとって MACCS/MCIS の機能や利便性に関する理解が進まなかったが、プロジェクト活動が進むに連れて MACCS/MCIS に関する理解が促進された。WG で集中的な活動や、訪日研修、ベトナムへの視察、税関行政に関する各種研修を通じて、MCD カウンターパートのプロジェクトに対するオーナーシップとモチベーションも向上してきた。

第4章 評価結果¹³

4-1 妥当性

プロジェクトの妥当性は高いと判断した。

(1) ミャンマー及びターゲットグループのニーズとの整合性

MCD では 2011 年に e-カスタム (e-Customs) を利用した電子通関システムが開発、導入されたが、申告から許可通知まで自動化されているわけではなく、書面による申告も同時に行う必要がある。世界銀行 (WB) が発表している LPI の 2012 年の結果によると、「申告処理の効率性 (efficiency of the clearance process)」におけるミャンマーのランクは 155 カ国中 122 位であり、ASEAN 諸国のなかで最も低い順位であった。これは、ミャンマーでは税関手続きの IT 化を含めた税関行政の能力向上が ASEAN 諸国でも遅れていることを示唆している。その一方でミャンマーの貿易量は年々増加し、2005 年から 2012 年までの輸入額は年率 25% で増加している。諸外国にとってミャンマーが魅力的な貿易相手国であり続けるためには、ミャンマーは通関手続きを効率化する必要性が高いといえる。また、貿易量が増加する一方で税収に占める関税収入は 3.2%¹⁴にとどまっており、通関手続きの効率化による歳入基盤の強化と貿易円滑化の両立が重要課題である。

(2) ミャンマー政府の政策との整合性

ミャンマー政府は「経済発展のエンジンとして貿易と投資を促進すること」を戦略のひとつとして位置づけている。2012 年に発表された「経済社会改革の枠組み (The Framework for Economic and Social Reforms)」でも、2015 年の ASEAN 地域統合を見据えて非関税障壁の撤廃だけでなく、ナショナル・シングル・ウィンドウ (NSW) の構築等を含めた自由化への更なる取り組みを推進していくことを明言している。2015 年 12 月に発足した ASEAN 経済共同体は貿易円滑化を促進しており、ASEAN のメンバー国も ASEAN シングル・ウィンドウの実施に貢献するために NSW の構築を推進している。プロジェクトではミャンマーにおける NSW 構築のための能力を強化し、電子通関システムの導入によって税関業務の近代化を図ることを目的としており、上記のようなミャンマー政府の政策と整合している。

(3) 日本政府の政策との整合性

日本の外務省が 2015 年 4 月に発行した「平成 27 年度開発協力重点方針」では、4 つの開発協力の重点分野を設定している。2 つ目の重点分野である「開発途上国と日本の経済成長のための戦略的な開発協力の充実」では、都市インフラ開発支援において日本の技術・経験を生かし、インフラシステムの輸出を重点項目のひとつとして掲げている。同文書では、メコン地域における貿易と投資の促進も重視することが述べられており、特にミャンマー支援では人材育成と制度整備にも重点を置くとしている。このように本プロジェクトの内容は、日本政府の政策とも合致している。さらに、2013 年に合意された日・ミャンマーの共同イニ

¹³ 評価結果は、「高い」「比較的高い」「中程度 (いくつかの課題あり)」「比較的低い」「低い」の 5 段階で判断した。

¹⁴ 世界税関機構 (WCO) の年次報告書 (2011-2012) の 59 頁より。

シアティブでは、日本からミャンマーへの投資を促進して二国間の貿易を促進することを目的としており、本プロジェクトでは同共同イニシアティブとも整合している。

(4) 日本が支援することの妥当性

日本はミャンマーの NSW 構築を支援する比較優位性がある。日本では NSW である NACCS/CIS を長年活用して国際水準の税関行政を実践している。また日本税関は多くの ASEAN 諸国における関税分野の能力強化支援に関するノウハウと十分な経験を備えており、JICA と共同でベトナムにおいて NACCS/CIS の技術をベースとした VNACCS/VCIS の導入も支援している。このように、日本が税関行政の近代化においてミャンマーを支援することは妥当であったといえる。

4-2 有効性

プロジェクトの有効性は高いと判断した。

前章の「3-3 プロジェクト目標の達成度」で述べたように、プロジェクトは目標である「MACCS/MCIS が円滑に運用・維持管理されるための環境が強化される」の達成に向けて邁進しているといえる。プロジェクトの活動を通じて MCD の職員は MACCS/MCIS に関する知識を深めており、2016 年の総合運転試験の実施に向けて着実に準備を整えている。

プロジェクトで設定された 7 つのアウトプットはプロジェクト目標の達成に直接貢献するため、プロジェクト期間の終了までに予定している活動がすべて順調に終了しアウトプットが達成されれば、プロジェクト目標も達成されると考えられる。

本プロジェクトの PDM では、①MACCS/MCIS の開発にあわせて必要な法規程・活動が計画どおり承認される、②関係当局が活動の過程で必要な意思決定を行う、③MACCS/MCIS が計画どおりに開発・稼働する、④MACCS/MCIS の運用・維持管理に係る予算と人員が十分に確保される、⑤民間利用者が MACCS/MCIS の導入に反対しない、の 5 つの外部要因が設定されている。MACCS/MCIS の予算面では、MCD 側の努力によって IT ベンダーの調達予算が確保され、IT ベンダーの調達プロセスが間もなく開始される見込みであるなど外部環境も良好であり、今日までプロジェクトに影響を与えるような要素は特に見当たらない。

一方で、ヤンゴン空港の税関事務所と倉庫の移転が遅れている（外部条件の③に該当）などの懸念があり、ヤンゴン空港における MACCS/MCIS 導入の遅れにつながる可能性がある。2016 年 3 月末までにこの移転が完了しない場合は、MACCS/MCIS の無償資金協力事業¹⁵の進捗の一部に影響を及ぼし、さらに本プロジェクトの目標達成度に影響を及ぼす可能性もある。プロジェクト期間の後半も引き続きプロジェクトで前述の外部条件を注意深くモニタリングする必要がある。

4-3 効率性

プロジェクトの効率性は比較的高いと判断した。

¹⁵ これに加え、データセンターの設置、広域通信網（WAN）に関するネットワークベンダーの調達の遅れなど、無償資金協力事業の活動にやや遅れが生じたことがこれまでに報告されている（これは本プロジェクトの外部条件と見なされる）。しかし無償資金協力事業のチーム、本プロジェクトの JICA 専門家、MCD 職員が協力して課題解決に取り組み、無償資金協力事業と本プロジェクトの全体進捗に大きな影響を及ぼしてはいない。

(1) プロジェクトのアウトプットの産出状況（アウトプットの達成状況）

前章の「3-2 アウトプットの達成度」で述べたように、これまでの2年間、プロジェクトはPDMで設定されたアウトプットの達成に向けて着実に前進しているといえる。

(2) アウトプット産出のプロセス

アウトプット産出プロセスにおいて、以下のようなポジティブな点が確認された。

1) 投入の活用

プロジェクトの投入はすべて7つのアウトプットを産出するために活用されている。

2) ミャンマーと日本の両政府及び JICA 専門家の強いコミットメント

税関手続きと税関行政の近代化による貿易円滑化はミャンマー政府の最重要政策のひとつであるため、MCDの幹部と職員もMACCS/MCISの導入の意義を深く理解している。プロジェクト活動においては、JICA 専門家と MCD の職員は税関手続きに IT システムを導入して税関行政を強化することに強いコミットメントを示しており、これまでプロジェクト活動を推進すべく尽力してきた。特に JICA の長期専門家は、MACCS/MCIS の利用に必要な法規程の整備、WG における活動のフォローアップ、関税評価、事後調査、分類における事前教示に関する人材育成やアドバイスの提供などのさまざまな面においてプロジェクトの実施を推進してきた。

3) 適切なモニタリング体制

プロジェクトでは7つのサブWGから形成されるWGを設置し、活動の進捗等について常に情報を共有してプロジェクトを運営してきた。前章の「3-5 プロジェクトの実施プロセス」で述べたように、WGの活動の最終日にはMCDの局長へ活動の結果が報告され、活動上の課題が議論されている。こうしたプロジェクトの運営・モニタリング体制は、プロジェクトの活動を管理するうえで非常に効果的であったといえる。

4) MACCS/MCIS 無償資金協力事業とのコーディネーション

無償資金協力事業と本プロジェクトでは、税関手続きにおけるITシステム導入に向けて緊密に協力し、MACCS/MCISの詳細設計作成や導入準備において解決すべき課題や調整が発生した場合は、両プロジェクトともに常に迅速に対応してきた。

5) 先行事例からの学び

MCD職員は訪日研修とベトナム視察(VNACCS/VCISの視察)を通じて、税関手続きにおけるITシステムについて理解を深めた。特にVNACCS/VCISの視察はMCD職員にとってITシステム導入の先行事例を学ぶよい機会となり、MACCS/MCISの導入と適切なO&Mのために取り組むべき優先事項を特定することに役立っている。さらに、日本税関と日本のITのシステムベンダーは、ベトナムで同様の無償資金協力事業と技術プロジェクトを実施しており、この経験を生かして本プロジェクトの活動を円滑に実施している。

上記に加え、以下のような課題も指摘されたが、調査団ではプロジェクトの効率性に大きく影響を与えるレベルではないと判断した。

1) MCDのカウンターパートの配置数

現地調査では、MCDの人員不足のため、プロジェクト活動に従事するMCDの職員数不足が指摘された。この課題は特にプロジェクト開始直後にみられていたが、プロジェクト

期間中 MCD では人員増を継続的に図り、職員数を確保できるように努力している。

2) IT 運用能力（リテラシー）の向上

サブ WG のメンバーのなかには、IT 運用能力のレベルがそれほど高くないために、MACCS/MCIS のシステムを充分理解できないケースがみられた。そもそも MACCS/MCIS では非常に高度な IT 知識を必要としているため、高い IT 運用能力が要求されることになる。プロジェクト活動を通じて、カウンターパートの IT 知識も向上していることと、MCD では IT を専攻あるいは IT 関連の職歴のある人材を雇用しプロジェクト活動に配置するなどの努力が行われている。

3) 通訳の課題

前章の「3-5 プロジェクトの実施プロセス」で述べたように、日本語－ミャンマー語の通訳者が税関や IT の専門用語にどの程度精通しているかが、MCD のカウンターパートの理解度に影響を及ぼしている。

4-4 インパクト

プロジェクト期間の半ばであるため、プロジェクトによってもたらされるインパクトを検証することは時期尚早である。MACCS/MCIS の運営が成功すれば確実に税関申告にかかる時間が短縮され、ミャンマーにおける「申告処理の効率性」の LPI スコアも改善されるといえる。プロジェクトのインパクトが発現するためには、重大なトラブルやエラーが発生しないように MACCS/MCIS を運営することが重要である。

発現が期待されているインパクトに加え、プロジェクト実施によって以下のようなインパクトがもたらされたことが確認された。

<MCD のカウンターパートの仕事のやり方や仕事に対する姿勢の変化>

JICA 専門家と MCD のカウンターパートへのインタビュー調査の結果、MCD のカウンターパートは、JICA 専門家と共同して活動を実施する過程で仕事の準備、文書管理、スケジュールに沿った活動の実施について以前よりも注意を払うようになった。

4-5 持続性

(1) 政策・制度面

ミャンマー政府は引き続き税関手続きの近代化と税関申告の効率化に重点を置いており、政策面の環境はプロジェクトにとって良好である。特に NSW の導入は ASEAN 諸国を含めた諸外国との貿易円滑化を推進するうえでミャンマーにとって非常に重要であり、さらに ASEAN シングル・ウィンドウの実施にも貢献することになる。

プロジェクトでは、改正海上関税法・地上関税法の策定支援を含め、MACCS/MCIS の効果的な運営管理に必要な法規程の策定面で MCD を支援している。今後 MACCS/MCIS の活用により更に必要となる法規程の策定あるいは改正についてもプロジェクトでは引き続き支援する予定である。さらにプロジェクトでは税関行政の強化に必要な各種通達の準備作業も支援している。したがって、税関手続きの効率化と税関行政の強化に関する制度面の持続性は確保されると考えられる。

(2) 財政・組織面

これまでミャンマー財務省はMCDからの予算要求に対してMACCS/MCISの導入に必要な予算を配分してきた。財務省からMCDに配分された予算は、2013/2014年度は45億6,400万MMK、2014/2015年度は158億3,800万MMKであり、前年の3倍に上っている。さらにMCDではMACCSの申告手数料を導入する予定であり、これも将来のMCDの財源¹⁶となる可能性もある。税関手続きの近代化を通じて貿易効率化を実現することは国家の最重要項目のひとつであるため、MACCS/MCISの維持管理に必要な予算と人材が確保されると期待できる。MACCS/MCISの運営準備のために、MCDでは新たにMACCS課を設立し、現時点で49人の職員を配置している。MCDでは今後も更に人員を増加させる計画である。この点からもMCDの幹部はMACCS/MCISの導入の成功を重視しており、MACCS/MCISの適切な維持管理に向けてリーダーシップを発揮しているといえる。したがって、財政・組織面の持続性も確保される見込みが高い。

(3) 技術面

プロジェクト活動を通じて、MACCS/MCISを適切に維持管理する中核人材の能力が強化されてきたといえる。MACCS/MCISの総合運転維持管理が実施され稼働したのち、MCDのカウンターパートは、実際のMACCS/MCISの運営と民間利用者との関わりを通じて、MACCS/MCISの維持管理に関する能力が更に向上すると考えられる。さらに、プロジェクトではMACCS/MCISの活用を通じた税関行政の能力を更に強化するようMCDを支援していく予定である。これらを通じて、技術面の持続性は確保されると期待される。一方で、MACCS/MCISの適切な維持管理はMCDにとって非常に重要であり、そのためにMCDのIT関連の能力を強化する必要がある。さらに、O&Mベンダーが調達され、このベンダーも組み込んだMACCS/MCISの維持管理体制が確立されることも技術面の持続性を確保するために重要である。

4-6 結論

プロジェクトではこれまでミャンマーの税関改革と近代化に向けて、MACCS/MCISが適切に運用・管理されるための環境を着実に整備してきたといえる。今後も順調に活動が推進されれば、プロジェクト期間の終了までにプロジェクト目標は達成される見込みである。プロジェクトは、ミャンマーと日本の両政府の方針に合致しており、ミャンマー側のニーズにも合致しているため、妥当性は高いと判断した。プロジェクトは所期の目標を達成できる見込みが高いことと、アウトプットの達成がプロジェクト目標の達成にもつながるため有効性は高いと評価したが、プロジェクトの後半も引き続き外部条件について注意深くモニタリングする必要がある。プロジェクトの効率性は、プロジェクト活動の進捗にやや影響した項目が特定されたため比較的高いと評価した。インパクトと持続性を判断するには時期尚早であるが、MACCS/MCISが導入されれば、ミャンマーにポジティブなインパクトを確実にもたらすといえる。持続性については、全般的に良好な要素が多いが、今後MCDでITを専門とする職員を育成する必要性が非常に高いといえる。

¹⁶ ミャンマーでは、申告手数料はすべて国庫に納付されることになる。

第5章 提 言

(1) PDM の改訂

現行のPDM1.1には目標値が設定されていない指標が3つ残されている。合同中間レビュー調査の結果を基に、調査団では以下のように目標値を設定することを提案する。

1) 上位目標の指標 1

「安定したインターネット環境の下、通関所要時間が簡易審査で3秒〔申告から許可まで（ただしマニュアルによる納付を除く）〕、書類審査で2時間（書類審査開始から書類審査終了まで）になる。」

2) アウトプット4の指標 4-1

「ヤンゴン地区のMACCS利用者の95%がMACCS導入に関する説明会に参加する。」

3) アウトプット7の指標 7-1

「プロジェクト終了までに、400人の税関職員がトレーニングを受ける。」

上述の項目に加え、プロジェクトの実情に合わせて微修正をするべき箇所もいくつかあるため、その点についても修正が必要である。

(2) MACCS/MCIS の円滑な導入と運営に向けた MCD の組織強化

MACCS/MCIS の円滑な導入と運営を実現するために、MACCS 課の人員を数・質ともに強化し、さらに執務環境も改善するように、同課の組織的な能力を更に強化するよう MCD が継続的に努力することを提言する。

(3) MACCS/MCIS の運用に関する大臣／局長通達の作成

2016 年内に MACCS/MCIS が稼働するために、MCD が適切なタイミングで電子通関マニュアル、保税、為替レート、税関評価、事後調査に関する大臣・局長通達の作成を促進し、発布することが期待される。

(4) 経験豊富な通訳の雇用と継続的な活用

経験豊富な通訳者を継続的に雇用することで日本側とミャンマー側でスムーズなコミュニケーションを取っているサブ WG がある一方で、度重なる通訳の交代によってスムーズなコミュニケーションが取れていないサブ WG もある。したがって、経験豊富な通訳者の数に限りはあるが、各サブ WG で可能な限り経験豊富な通訳を継続的に雇用することが重要である。

(5) MACCS/MCIS の稼働に向けた準備

MACCS/MCIS の稼働に向けて、これまで以上に人員と時間等の資源を MACCS/MCIS の円滑なスタートに集中させる必要がある。したがって、関税評価以外のアウトプット7の活動で実施される研修活動は MACCS/MCIS の稼働までは控え、MACCS/MCIS の稼働に注力すべきである。

(6) 適切な MACCS/MCIS による申告手数料の設定

プロジェクト目標で設定されている指標である「対象税関における輸出入申告数のうち MACCS を通じた申告件数の割合が 80%になる」を達成するためには、MACCS/MCIS の申告手数料を適切なレベルに設定することは重要である。これによって、MACCS/MCIS の持続性も確保される。

(7) MACCS/MCIS の安定した運営とトラブルシューティング

MCD では IT リテラシーの向上に取り組む必要がある。さらに、MACCS 課では、MACCS/MCIS を技術的に管理できる IT 職員の配置を進める必要がある。これによって、O&M ベンダーの調達と指示も可能になる。

(8) 民間利用者の MACCS/MCIS に関する理解促進

民間利用者による MACCS/MCIS への登録と利用は MACCS/MCIS の成功にとって極めて重要であるため、民間利用者（通関業者、運送会社、運送業者等）に対して日本側の支援による日本視察等のプログラムを実施し、MACCS/MCIS に対する理解を更に促進させることも検討に値する。

付 属 資 料

1. 協議議事録 (M/M)、中間レビュー調査報告書 (英文)
2. 評価グリッド (和文)

1. 協議議事録 (M/M)、中間レビュー調査報告書 (英文)


MINUTES OF MEETING
BETWEEN THE JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY AND
THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF THE UNION OF MYANMAR
ON THE MID-TERM REVIEW OF JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
THE PROJECT OF CAPACITY DEVELOPMENT FOR NATIONAL
SINGLE WINDOW AND CUSTOMS MODERNIZATION BY
INTRODUCING AUTOMATED CARGO CLEARANCE SYSTEM
IN THE REPUBLIC OF THE UNION OF MYANMAR

The Japanese Mid-term Review Team, organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”), headed by Mr. Noriharu Masugi visited the Republic of the Union of Myanmar (hereinafter referred to as “Myanmar”) from 22nd to 26th of February 2016 to conduct the Mid-term Review of the technical cooperation project, entitled “The Project of Capacity Development for National Single Window and Customs Modernization by Introducing Automated Cargo Clearance System in Myanmar” (hereinafter referred to as “the Project”).

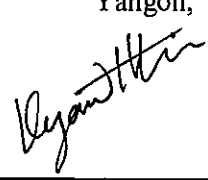
The Mid-term Review was jointly conducted with the Myanmar side, organized by the Myanmar Customs Department, headed by Mr. Win Thant, the Director of MACCS Division.

As a result of the project document review and a series of discussions with project stakeholders, the Mid-term Review Team and the Myanmar side agreed on the contents of the joint Mid-term Review Report and the issues referred to in the document attached hereto.

May 6th, 2016



Mr. Noriharu Masugi
Team Leader of the Japanese Mid-term Review
Director
Public Governance and Financial Management Team
Industrial Development and Public Policy Department
Japan International Cooperation Agency

Yangon,


Mr. Kyaw Htin
Director General
Customs Department
Ministry of Finance
Republic of the Union of Myanmar

ATTACHED DOCUMENT

1. Revision of the Project Design Matrix (PDM)

As mentioned in the Recommendations in the Joint Mid-term Review Report, both sides agreed to modify the Project Design Matrix (hereinafter referred to as “PDM”) of the Project in order to appropriately verify the outcome of the Project activities. The modified PDM (Version 2.0) is attached herewith.

Attachment:

- Joint Mid-term Review Report
- Revised Project Design Matrix (PDM ver. 2.0)



Joint Mid-term Review Report
on
The Project of Capacity Development for National Single Window
and Customs Modernization by Introducing Automated Cargo
Clearance System in Myanmar

February 2016

Joint Mid-term Review Team

Z.M.

Uy

List of Abbreviations and Acronyms

ADB	Asian Development Bank
ASEAN	Association of Southeast Asian Nations
CIS	Customs Intelligence Database System
CLMV	Cambodia, Laos, Myanmar, and Vietnam
CY	Container Yard
DG	Director General
FAQ	Frequently Asked Questions
GDP	Gross Domestic Product
HS	Harmonized Commodity Description and Coding System
IT	Information Technology
JCC	Joint Coordination Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
LPI	Logistics Performance Index
MACCS	Myanmar Automated Cargo Clearance System
MCIS	Myanmar Customs Intelligence System
M/M	Minutes of Meeting
M/M	Man Months
MMK	Myanmar Kyats
NACCS	Nippon Automated Cargo and Port Consolidated System
NSW	National Single Window
ODA	Official Development Assistance
OGA	Other Government Agency
O&M	Operation and Maintenance
PCA	Post-Clearance Audit
PDM	Project Design Matrix
PO	Plan of Operations
R/D	Record of Discussions
TRS	Time Release Study
USD	US Dollars
VCIS	Viet Nam Customs Intelligence System
VNACCS	Viet Nam Automated Cargo Clearance System
WB	World Bank
WCO	World Customs Organization
WTO	World Trade Organization

TABLE OF CONTENTS

1. Introduction	1
1-1. Background.....	1
1-2. Purpose of the Joint Mid-term Review.....	2
1-3. Schedule and Member of Joint Mid-term Review.....	2
1-4. Outline of the Project.....	3
1-5. Methodology of the Mid-term Review.....	4
2. Achievement of the Project.....	5
2-1. Inputs.....	5
2-1-1. Allocation of Inputs by the Myanmar Side.....	5
2-1-2. Allocation of Inputs by the Japanese Side	6
2-2. Achievement of Outputs.....	8
2-3. Prospects of Achieving the Project Purpose.....	15
2-4. Prospects of Achieving the Overall Goal.....	16
2-5. Implementation Process.....	17
3. Evaluation Results by Five Criteria	18
3-1. Relevance	18
3-2. Effectiveness.....	19
3-3. Efficiency.....	20
3-4. Impact.....	21
3-5. Sustainability	21
3-6. Conclusion.....	22
4. Recommendations	23

- Appendix -

1. Project Design Matrix (PDM) version 1.1 (as of June 2015)
2. Plan of Operation (PO)
3. Schedule of the Mid-term Review
4. List of Interviewees
5. List of Myanmar Counterparts
6. List of JICA Experts
7. List of Participants in Overseas Trainings
8. List of Explanatory Meetings or Visits Arranged by the Project

2.20

69

1. Introduction

1-1. Background

Myanmar has been working on reforms towards market economy from its past centralized economy. As an overview of Myanmar's economic growth in the recent years, Myanmar achieved a GDP growth rate of 5.9% in 2011, 6.4% in 2012 and 6.8% in 2013¹.

Lots of time and costs for Customs procedures affected promotion of trade facilitation. Development of institutions of Customs clearance including a Customs clearance system, lagged behind other ASEAN (Association of Southeast Asian Nations) countries. According to "The Logistic Performance Index" of the World Bank survey (hereinafter referred to as "LPI"), Myanmar ranked the lowest among the ASEAN countries at 122 out of 155 countries.

The percentage of Customs duties in the tax revenue was at 3.2%², even though there had been an increase in the number of Customs declarations and in the amount of import by 25% per year from 2005 to 2012. Therefore, an issue was given high priority to promote efficiency of Customs procedures, which would simultaneously achieve enhancement of the revenue base and facilitation of trade.

An urgent task for the Government of Myanmar was to accomplish the National Single Window (hereinafter referred to as "NSW") aiming at simplification and international harmonization of export and import procedures including Customs clearance procedures, and to contribute to ASEAN Single Window.

Under these circumstances, the Customs Department under the Ministry of Finance of the Government of Myanmar (hereinafter referred to as "MCD) appreciated technical advantages of the Nippon Automated Cargo and Port Consolidated System (hereinafter referred to as "NACCS") and the Customs Intelligence Database System (hereinafter referred to as "CIS"), which have been used in the Customs and Tariff Bureau of the Ministry of Finance, and relevant other government agencies (OGAs) in Japan. Then, the Government of Myanmar requested for Japan's Grand Aid regarding the establishment of an IT system for Customs clearance with NACCS/CIS technology in Myanmar (hereinafter referred to as "MACCS/MCIS") and for Japan's technical assistance regarding the capacity building of personnel and organization for the appropriate operation, management, and maintenance of that system. The technical cooperation project, entitled "the Project of Capacity Development for National Single Window and Customs Modernization by Introducing Automated Cargo Clearance System in Myanmar" started from 10 February 2014 for four years.

In February 2016, as the Project reaches the middle of the cooperation term, JICA and MCD are conducting the Joint Mid-term review in accordance with the article IV of the Record of Discussions signed for the Project in February 2014.

¹ IMF, World Economic Outlook.

² WCO. Annual Report 2011-2012 (page 59). In terms of the percentage of customs duties in tax revenue, the figures for other ASEAN countries are as follows: Cambodia: 16.9%, Lao People's Democratic Republic: 9.6%, Vietnam: 9.6%. (source: the World Customs Organization (WCO)).

1-2. Purpose of the Joint Mid-term Review

The major objectives of the joint Mid-term Review on the Project are;

- (1) to review the current status of the project progress based on Inputs, Outputs, Project Purpose, and identify the problems negatively affecting the project implementation;
- (2) to evaluate the project in accordance with the five evaluation criteria³, namely, relevance, effectiveness, efficiency, impact, and sustainability; and,
- (3) to consider the necessary actions to be taken in the remaining cooperation term and make recommendations for the Project.

1-3. Schedule and Member of Joint Mid-term Review

(1) Schedule

A series of meetings and discussions were held from 22 to 26 February 2016 among the governmental authorities of Myanmar and the organizations relevant to the execution of the Project, JICA experts, and the Joint Mid-term Review Team.

(2) Member of the Joint Mid-term Review Team

The member of the Joint Mid-term Review Team is as follows.


<Myanmar Side>

Name	Position	Organisation
Mr. Win Thant	Director, MACCS Division	MCD
Mr. Thein Swe	Director, Administration Division	MCD
Ms. Soe Soe Lwin	Director, Administration Division (International)	MCD
Ms. Aye Aye Win	Director, Administration Division (Legal)	MCD

<Japanese Side>

Name	Position in the Team	Title
Mr. Noriharu MASUGI	Team Leader	Director, Public Governance and Financial Management Team, Governance Group, Industrial Development and Public Policy Department, JICA
Mr. Noboru KURITA	Customs Administration Policy	Deputy Director for International Cooperation, Office of Counselor for International Cooperation, Customs and Tariff Bureau, Ministry of Finance
Mr. Takeshi KIKUCHI	Evaluation Planning	Deputy Director, Public Governance and Financial Management Team, Governance Group, Industrial Development and Public

³ The details are explained in "1-5. Methodology of the Mid-term Review".



Name	Position in the Team	Title
		Policy Department, JICA
Ms. Ayako NAMURA	Evaluation Analysis	Consultant, Tekizaitekisho LLC
Ms. Khin Kay Khine Maw	Interpreter	Japan International Cooperation Center

1-4. Outline of the Project

The outline of the Project described in the PDM 1.1 (agreed on 5 June 2015) is as follows (refer to Appendix 1).

(1) Project Title

Project of Capacity Development for National Single Window and Customs Modernization by Introducing Automated Cargo Clearance System

(2) Cooperation Period

10 February 2014 to 9 February 2018 (for four years)

(3) Project components

1) Overall Goal

Trade facilitation in Myanmar is further promoted with securing appropriate collection of Customs and Tariff.

2) Project Purpose

Necessary environment for properly operating and maintaining MACCS/MCIS is enhanced with smooth introduction of the system based on the technology of NACCS/CIS towards Customs reform and modernization.

3) Outputs

- Output 1: Necessary preparation of properly introducing MACCS/MCIS is made.
- Output 2: The officials of Myanmar Customs acquire necessary knowledge and skills to use MACCS/MCIS properly.
- Output 3: Structure to operate, maintain and manage MACCS/MCIS properly is established and necessary human resource is developed.
- Output 4: Users in the private sector acquire necessary knowledge and skills to use MACCS properly.
- Output 5: Necessary laws and regulations corresponding to usage of MACCS/MCIS are established.
- Output 6: Proper information security policy and mechanism for proper operation of MACCS/MCIS is established.
- Output 7: Capacities on the core operations of Customs administration such as tariff classification, Customs valuation, post clearance audit and Customs risk management is enhanced for

realizing prompt and appropriate Customs clearance utilizing MACCS/MCIS. Necessary manuals, guidance, and order corresponding to implement Customs Valuation, Post Clearance Audit, and Customs Classification Advance Ruling Systems are established.

1-5. Methodology of the Mid-term Review

The status of the project progress was reviewed based on the Project Design Matrix, which is a summary table describing the outline of the Project. The Mid-term Review examined the following points referring to the PDM I.1 signed on 5 June 2015 (refer to Appendix 1).

(1) Verification of project performance

The current degree of project achievements, such as Inputs, Outputs, and Project Purpose, was assessed with reference to Objectively Verifiable Indicators stated in the PDM. To carry this out, various methods were applied including document review, questionnaire survey, interviews, and discussions with counterpart personnel, JICA experts, and relevant stakeholders.

(2) Examination of project implementation process

The process of the project implementation was examined from the viewpoints of project management.

(3) Evaluation by five evaluation criteria

The following five evaluation criteria are applied to the project evaluation.

Five Evaluation Criteria	
Relevance:	Degree of compatibility between the development assistance and priority of policy of the target group, the recipient, and the donor.
Effectiveness:	A measure of the extent to which an aid activity attains its objectives.
Efficiency:	Efficiency measures the outputs -- qualitative and quantitative – in relation to the inputs. It is an economic term which is used to assess the extent to which aid uses the least costly resources possible in order to achieve the desired results. This generally requires comparing alternative approaches to achieving the same outputs, to see whether the most efficient process has been adopted.
Impact:	A criterion for considering for future possibility of the achievement of Overall Goal, and effects of the project with an eye on the longer term effects including direct or indirect, positive or negative, intended or unintended.
Sustainability:	Sustainability is concerned with measuring whether the benefits of an activity are likely to continue after donor funding has been withdrawn. Projects need to be environmentally as well as financially sustainable.

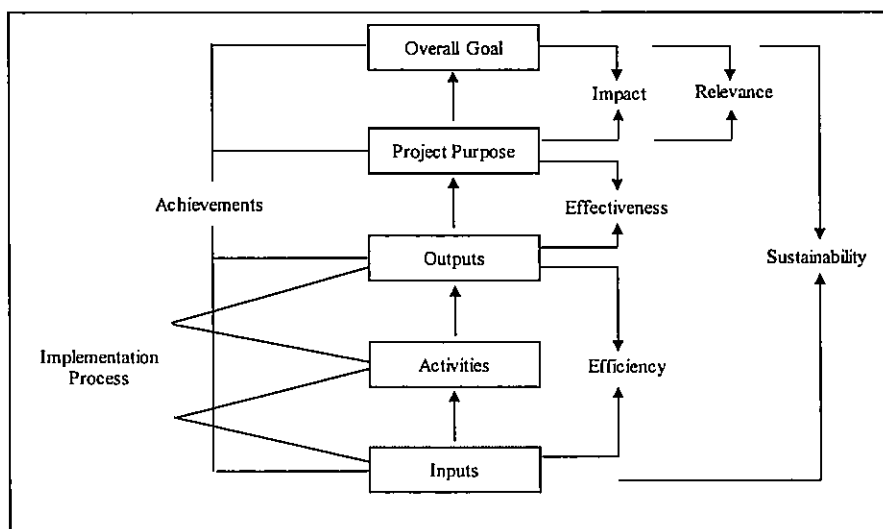
Sources: "JICA Guideline for Project Evaluation", March 2004, and "New JICA Guidelines for Project Evaluation First Edition", June 2010.

The relationship between the five evaluation criteria and PDM is described in the following figure.

Figure1 -1: Relationship between the Five Evaluation Criteria and PDM

Zm

Uy



Source: "Practical Methods for Project Evaluation", March 2004

(4) Recommendations

The Joint Mid-term Review Team made the recommendations based on the results of the evaluation.

2. Achievement of the Project

2-1. Inputs

2-1-1. Allocation of Inputs by the Myanmar Side

(1) Assignment of counterpart personnel (Appendix 5)

Project Director:	Director General of MCD
Project Manager:	Deputy Director General, MCD
Deputy Project Manager:	Director of MACCS Division, MCD

Other counterpart personnel are referred to "List of Myanmar Counterparts" of Appendix 5.

(2) Office space for JICA experts

- MCD provided the office space for JICA experts with furniture and utilities borne by the Myanmar side.
- The venues for the seminars or explanatory meetings were provided by MCD.

(3) Local operational costs

The Government of Myanmar provided 3,679 thousand MMK in 2014/2015 and 2015/2016 for the project activities (approximately equivalent to 3,489 USD⁴).

⁴ Exchange rate was 1 USD = 1031 MMK as of 31 March 2015 and 1 USD = 1238 MMK as of 25 February 2016 according to Investing.com (<http://jp.investing.com/currencies/usd-mmk-converter>).

Table 2-1: Local Operational Costs borne by Myanmar Side

(Unit: MMK)

2014/2015	2015/2016	Total
3,188,222	491,000	3,679,222

Source: MCD

*The Myanmar's Fiscal Year starts from April to March in the following year.

2-1-2. Allocation of Inputs by the Japanese Side**(1) JICA experts (Appendix 6)**

JICA assigned 40 experts in total, accounting for 116.4 Man/Months (M/M). They comprise 3 long-term experts (49.3 M/M) and 37 short-term experts (67.1 M/M). The long-term experts were primarily responsible for overall management of the Project, Customs Administration, administrative and coordination work with relevant Myanmar's organizations. The responsibilities of the short-term experts cover wide-ranging areas such as seven areas of Working Groups (WG)⁵, Customs Valuation, Bonded Area, and Post Clearance Audit (PCA) as shown in the table below.

Table 2-2 The Assignment of JICA experts until February 2016

Expertise	Number of experts	Times assigned	Total days	Total M/M
<Long-term experts>				
Chief Advisor	1	1	517	17.0
Customs Administration	1	1	485	16.0
Project Coordinator	1	1	407	13.3
Sub-total for long-term experts	3	3	1,496	49.3
<Short-term experts>				
WG Members*	26	206	1,939	64.6
Customs Valuation	6	6	44	1.5
Bonded Area	1	1	7	0.2
Post Clearance Audit	2	2	14	0.4
HS Classification	2	2	12	0.4
Sub-total for short-term experts	37	217	2,016	67.1

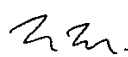
Source: Information provided by the project office.

* The assignments of WG members are summarized from November 2013 to February 2016 including those under the Grant Aid Project.

(2) Overseas Training

From the commencement of the project activities, the training in Japan and study tour in Vietnam were carried out.

⁵ The Project formed the Working Group consisting of JICA short-term experts and MCD counterparts. The WG sets the seven sub-WGs such as 1) Cargo, 2) Clearance, 3) Payment, 4) Risk, 5) IT, 6) User Registration, and 7) Help Desk. The Japanese members of WG frequently visit Myanmar to pursue the working group's activities which are held almost every month during the project implementation. The details about WG are also described in "2-5. Implementation Process".




The training in Japan carried out 6 times⁶ receiving 64 participants (13.4 MM in total). The participants learned about NACCS/CIS and Japan's Customs procedures and practice of Customs administration. The details were shown in "Table 2-3 Training in Japan" and the list of participants is shown in Appendix 7.

A total of 20 MCD officials (3.0 M/M) participated in the study tour of VNACCS/VCIS to learn from the prior example of modernizing the Customs procedures and enhancing the Customs administration utilizing the technology of VNACCS/VCIS. The details were shown in "Table 2-4 Study Tour in Vietnam" and the list of participants is shown in Appendix 7.

Table 2-3 Training in Japan

Topics	Time conducted	days	No of participants	M/M	Major Participants
NACCS/CIS	Feb. –Mar. 2014	7	12	2.8	MCD officials
NACCS/CIS	June 2014	8	12	3.2	MCD officials
NACCS/CIS	Oct. 2015	7	13	3.0	MCD officials (MACCS Division)
Seminar for CLMV Customs Warehousing Procedures	Nov. 2015	8	3	0.8	MCD officials
Seminar for Myanmar Customs Valuation and Post Clearance Audit	Jan. 2016	4	12	1.6	MCD officials
Seminar for Myanmar Customs on HS Classification	Feb. 2016	5	12	2.0	MCD officials
Total for Training in Japan		39	64	13.4	

Source: Information provided by the Project Office

Table 2-4 Study Tour in Vietnam

Topics	Time conducted	days	No of participants	M/M	Major Participants
VNACCS/VCIS	Sep.- Oct. 2014	4	10	1.33	MCD officials
VNACCS/VCIS	Dec. 2015	5	10	1.67	MCD officials
Total for Study Tour in Vietnam		9	20	3.00	

Source: Information provided by the Project Office

(3) Project operation cost

The project operation cost borne by Japanese side was shown in the table below. The total amount of 27,829 thousands JPY (approximately equivalent to 232,446 USD⁷) was allocated from the beginning of cooperation period to January 2016.

⁶ These trainings were organized by the Japan Customs.

⁷ The exchange rate was 1 JPY =119.03 USD according to the JICA exchange rate as of March 2015 and 1 JPY = 120.30 USD as of January 2016.

Table 2-5 Project Operation Cost Borne by Japanese Side

(Unit: thousand JPY)

JFY 2014	JFY 2015*	Total Amount
12,578	15,251	27,829

Source: Information provided by JICA HQs.

*: Japanese Fiscal Year (JFY) basis starting from April to March in the following year. The expense for JFY 2015 covers from April 2015 to January 2016.

2-2. Achievement of Outputs

The Joint Mid-term Review Team concluded that the Project has been on the right track to attain the planned Outputs set in the PDM 1.1. The current levels of each Output from the commencement of the cooperation to date are explained as follows.

(1) Output 1

Output 1: Necessary preparation of properly introducing MACCS/MCIS is made.

<i>Objectively Verifiable Indicators</i>	<i>Current level of achievements</i>
1.1 The detailed design which ensures feasibility, efficiency and effectiveness of MACCS and MCIS under Myanmar's environment is developed strictly according to the schedule.	<ul style="list-style-type: none"> The detailed design of MACCS/MCIS was finalized in March 2015. During the process, the members of WG made a lot of efforts to keep consistency between the detailed design and the Myanmar's Customs procedures. Therefore, the detailed design developed met the Myanmar's conditions and environment ensuring feasibility, efficiency and effectiveness of MACCS/MCIS.
1.2 Business processing guidelines for Customs users and Master Data are developed in accordance to the schedule.	<ul style="list-style-type: none"> The draft business processing manuals for Customs users were prepared by the software vender with the confirmation of WG and submitted to MCD until December 2015. The revised manuals were also submitted to MCD in January 2016, and MCD is translating them into Myanmar language. The Master Data is in the process of development and will be completed by July 2016 toward the running test to start in August 2016.
1.3 Business processing manuals for users in the private sector are developed in accordance to the schedule.	<ul style="list-style-type: none"> MCD and JICA experts discussed the detailed schedule and tasks for each sub-WG in WG's activities carried out in January and February 2015. The draft business processing manuals for users was prepared by December 2015. The revised manuals were also submitted to MCD in January 2016 and MCD is translating them into Myanmar language.

Overall Assessment for Output 1

Since the WG members intensively discussed the detailed design of MACCS/MCIS to meet the conditions and environment of Myanmar, the design which ensured the feasibility, efficiency and

Zm

Uy

Output 1: Necessary preparation of properly introducing MACCS/MCIS is made.

effectiveness of MACCS/MCIS was developed. The business processing guidelines/manuals for Customs officials and users in the private sector have been prepared as scheduled. Therefore, the necessary preparation of properly introducing MACCS/MCIS has been successfully made to date.

(2) Output 2

Output 2: The officials of Myanmar Customs acquire necessary knowledge and skills to use MACCS/MCIS properly.

<i>Objectively Verifiable Indicators</i>	<i>Current level of achievements</i>
2-1. The rate of participants of explanatory meeting about MACCS/MCIS reaches 95% of the total number of officers working in Yangon Area.	<ul style="list-style-type: none"> • The WG prepared the explanatory material for detailed design of MACCS/MCIS for Customs officials. • The rate of participants in the explanatory meetings (general briefing session) held in May 2015 was 88.4%, acquiring 335 participants out of 379 officials in Yangon Area (refer to Table 2-6). • Since MCD reshuffled personnel between the central office and the regional/township offices in July 2015, the Project organized the same meetings in November 2015 where 253 officials out of 374 participated and the rate of participants was 67.6% (refer to Table 2-6). • The rates of participants in the meetings in May and November 2015 seem not to satisfy the target value of this indicator. However, most of the participants in November 2015 was new officials or officials transferred from the local offices and this means that most of the officials in Yangon Area participated in the meeting. • The Project has a plan to organize the explanatory meetings for the running test of MACCS/MCIS targeting Customs officials in Yangon Area in July 2016. Through this, officials will further increase their knowledge to use MACCS/MCIS properly.

Overall Assessment for Output 2

In the discussion of the detailed design of MACCS/MCIS, the WG members understood the specification of NACCS/CIS and incorporated the Myanmar's Customs procedures into the specification of MACCS/MCIS appropriately. This contributed to enhancement of knowledge to use MACCS/MCIS of WG members. Through the preparation of the materials for explanatory meetings for Customs officials and users in the private sector, many counterparts of MCD acquired the knowledge to be a presenter for the explanatory meetings. Until now, around twenty officials⁸ became the lecturers for explanatory meetings. The Project will organize the detailed explanatory meetings for the running test on MACCS/MCIS to be held in July 2016. Through preparation for this, MCD officials will acquire more knowledge and skills necessary to use MACCS/MCIS properly.

⁸ The Mid-term Review Team identified about twenty officials considering that three officials of each sub-WG can give lectures in the explanatory meetings based on the interview with MCD counterparts and JICA experts.

Output 2: The officials of Myanmar Customs acquire necessary knowledge and skills to use MACCS/MCIS properly.

According to the results of the questionnaire distributed to the WG members from the consultants of the Grant Aid team in November 2015, 23 members (72%) out of 32 respondents answered that they understood 75% or more of the discussion at WG, and 25 members (78%) out of 32 respondents answered that they were confident 75% or more in operating MACCS/MCIS appropriately without Japanese assistance after MACCS/MCIS is fully operational. As the Project progresses the activities further as planned, it is expected that the level of understanding and confidence about use of MACCS/MCIS will increase more.

Table 2-6 The number of participants in explanatory meetings about MACCS/MCIS in Yangon Area.

Data organized	Contents	Number of participants	Total number of officials in Yangon Area	Major participants
21 May 2015	General briefing sessions of MACCS/MCIS	116		Customs officials
22 May 2015	General briefing sessions of MACCS/MCIS	119		Customs officials
26 May 2015	General briefing sessions of MACCS/MCIS	100		Customs officials
Total number of participants		335	379	(88.4%)
5 Nov. 2015	General briefing sessions of MACCS/MCIS	128		Customs officials
6 Nov. 2015	General briefing sessions of MACCS/MCIS	125		Customs officials
Total number of participants		253	374	(67.6%)

(3) Output 3

Output 3: Structure to operate, maintain and manage MACCS/MCIS properly is established and necessary human resource is developed.

Objectively Verifiable Indicators	Current level of achievements
3-1. Help desk for MACCS/MCIS users is established in accordance to the schedule.	<ul style="list-style-type: none"> MACCS Division was established in August 2015 responsible for operation and maintenance (O&M) of MACCS/MCIS and currently 49 officials are assigned for the Division. Within this Division, the Help Desk section was established. At this moment, the Help Desk has seven officials to handle inquiries from the Customs officials and users in the private sector.
3-2. FAQ for system administration and problem processing is developed in accordance to the schedule.	<ul style="list-style-type: none"> Based on the FAQ which is utilized in Japan, the first version of FAQ for system administration and problem processing have been developed by Help Desk sub-WG. At this moment, MCD is translating the first version of FAQ in Myanmar language.

Zz.

Q

Output 3: Structure to operate, maintain and manage MACCS/MCIS properly is established and necessary human resource is developed.

- After March 2016 when the Help Desk starts operation, the developed FAQ will be updated incorporating the questions which are frequently asked.

Overall Assessment for Output 3

Structure to operate, maintain and manage MACCS/MCIS properly is in the process of establishment. Until now, the roles and responsibility of Help Desk were defined, and the officials of Help Desk were assigned and trained. The IT section was integrated under MACCS Division responsible for both MACCS/MCIS system as well as MCD's entire IT system. The bidding of venders for O&M of MACCS/MCIS will be carried out in April 2016. The system and process of problem processing will be discussed after the venders are procured.

(4) Output 4

Output 4: Users in the private sector acquire necessary knowledge and skills to use MACCS properly.

<i>Objectively Verifiable Indicators</i>	<i>Current level of achievements</i>
4-1. The rate of participants of explanatory meetings about MACCS reaches x of the total number of private MACCS Users in Yangon Area.	<ul style="list-style-type: none"> • The explanatory meetings (general briefing session) about MACCS for users in the private sector were organized twice in August 2015, acquiring 800 participants. • The explanatory meetings for OGAs and Myanmar Economic Bank were also organized 39 times between December 2013 and February 2016 including visits to OGAs and the Bank in Nay Pyi Taw to explain the effectiveness of MACCS/MCIS. • Besides, the Project organized explanatory meetings for cargo companies ten times in July and August 2015, and visited shipping companies, shipping agency, airline companies, and CY companies individually, explaining the introduction and functions of MACCS. • The responses from the participants of private sector were positive about the introduction of MACCS.

Overall Assessment for Output 4

Through the project activities from the commencement to date, the users in the private sector acquired the basic information and knowledge of MACCS. Since the participation of users in the private sector is a key factor for success of MACCS/MCIS, the Project has made a lot of efforts to promote their participation by hearing their opinions and exchanging ideas. The Project will organize the explanatory meetings for the details and running test in May and June 2016. Through these meetings, the users in the private sector will acquire more information and clear image of MACCS and be ready to use MACCS.

(5) Output 5

Output 5: Necessary laws and regulations corresponding to usage of MACCS/MCIS are established.

<i>Objectively Verifiable Indicators</i>	<i>Current level of achievements</i>
------------------------------------------	--------------------------------------

Output 5: Necessary laws and regulations corresponding to usage of MACCS/MCIS are established.	
5-1. Necessary and sufficient laws and regulations to operate MACCS/MCIS are established in accordance to the schedule.	<ul style="list-style-type: none"> ● To date, the Revised Sea Customs Act and Land Customs Act were enacted on 17 March 2015, which is an essential underpinning of introduction of MACCS/MCIS. ● MCD also prepared the followings. <ul style="list-style-type: none"> ➢ Minister Notification on Advanced Income Tax: MCD already prepared this and will be issued soon. ● In addition to the Revised Acts, the legal framework to ensure the operation of MACCS/MCIS needs to be established within 2016. <ul style="list-style-type: none"> ➢ Minister Notification on Bonded Warehouse: MCD already prepared the draft and is in the process of finalization. ➢ Minister Notification or Director General (DG) Notification on Customs procedures through electronic system. ➢ Minister Notification on weekly foreign exchange rate: this is in preparation.

Overall Assessment for Output 5

The Project has carried out various workshops or study meetings to learn about the laws and regulations corresponding to the operation of NACCS/CIS in Japan and discussed necessary legal framework to be established in Myanmar along with the introduction of MACCS/MCIS. Through these activities, the officials of MCD have acquired information and knowledge about the necessary legal framework for MACCS/MCIS. Since some other Notification/Order of Minister and DG need to be established within 2016, the Project will promote to draft or revise the drafted orders or notifications.

(6) Output 6

Output 6: Proper information security policy and mechanism for proper operation of MACCS/MCIS is established.

<i>Objectively Verifiable Indicators</i>	<i>Current level of achievements</i>
6-1. Information security manuals are developed in accordance to the schedule.	<ul style="list-style-type: none"> ● The details of authority setting for MACCS/MCIS were decided by IT sub-WG. ● The structure and mechanism for the entire information security of MACCS/MCIS is under consideration. The details will be discussed after the O&M venders are procured since the structure and mechanism of information security needs to involve O&M venders as well. ● The draft of information security manual is already developed by JICA experts and the team of Grant Aid Project. The details will be confirmed along with the discussion about the information security structure and mechanism after procurement of O&M venders.

Overall Assessment for Output 6

Output 6: Proper information security policy and mechanism for proper operation of MACCS/MCIS is established.

The activities to establish proper information security policy and mechanism for operation of MACCS/MCIS will be accelerated after procurement of O&M vendors, which will play an important role of information security mechanism of MACCS/MCIS. Since the running test of MACCS/MCIS will begin in August 2016, it is expected that the mechanism of information security will be clearly defined and the information security manuals are approved by that time.

(7) Output 7

Output 7: Capacities on the core operations of Customs administration such as tariff classification, Customs valuation, post clearance audit and Customs risk management is enhanced for realizing prompt and appropriate Customs clearance utilizing MACCS/MCIS. Necessary manuals, guidance, and order corresponding to implement Customs Valuation, Post Clearance Audit, and Customs Classification Advance Ruling Systems are established.

<i>Objectively Verifiable Indicators</i>	<i>Current level of achievements</i>
7-1. The number of Customs officers who received trainings reaches X before the end of the Project.	<ul style="list-style-type: none"> The areas necessary to train human resources were identified for Myanmar's Customs modernization: those are Customs Classification Advance Ruling System, Customs Valuation, Post Clearance Audit. The Project prepares the annual training program for each area. The Project has carried out the training programs shown in the table below (refer to Table 2-7) and the total number of participants in the training from the commencement of the cooperation to date was 274.
7-2. Necessary and sufficient manuals, guidance, and order are established in accordance to the schedule.	<ul style="list-style-type: none"> Currently, the progress of preparation of necessary guidance or orders is as follows. <p>[Advance Ruling on HS Classification]</p> <ul style="list-style-type: none"> The drafts Minister Notification and DG Notification on Advance Ruling on HS Classification were prepared and approved by DG of MCD in January 2016. Both were submitted to the Minister of Finance in February 2016. It is expected that both orders will be issued by April 2016. <p>[Advance Ruling on Customs Valuation]</p> <ul style="list-style-type: none"> The drafts Minister Notification and DG Notification on Advance Ruling on Customs Valuation were prepared and approved by DG of MCD in January 2016. Both were submitted to the Minister of Finance in February 2016. It is expected that both orders will be issued by April 2016. <p>[Customs Valuation]</p>

Output 7: Capacities on the core operations of Customs administration such as tariff classification, Customs valuation, post clearance audit and Customs risk management is enhanced for realizing prompt and appropriate Customs clearance utilizing MACCS/MCIS. Necessary manuals, guidance, and order corresponding to implement Customs Valuation, Post Clearance Audit, and Customs Classification Advance Ruling Systems are established.

- The drafts of Minister Notification including a manual, and if necessary, DG Notification on Customs Valuation are being revised at the Board of Directors meeting.

[PCA]

- MCD started preparing the draft of Minister Notification and DG Notification on PCA since March 2015. Currently, the drafts are discussed at the Board of Director meeting. It is expected that both Minister Notification and DG Notification will be enacted around November 2016.

Overall Assessment for Output 7

To date, a total of 274 Customs officials participated in the training programs provided by the Project. Although the target value for the indicator 7-1 was not set yet, which made it difficult to confirm the current achievement level for the human resources development, the Project has been successful to enhance the capacity of Customs officials of core operation of Customs administration.

As for the manuals, guidance, order for Customs Valuation, PCA, Advance Ruling on HS Classification and on Customs Valuation, the necessary notifications to enhance the Customs administration have been prepared as described above. The Project will discuss if any other notifications may need to be established to further strengthen the Customs administration in Myanmar in the remaining cooperation term.

Table 2-7 Results of the training conducted

Type	Date conducted	Contents	No of participants	Major Participants
[Training conducted in Myanmar]				
	Sep. 2014	WTO Customs Valuation Workshop	20	Deputy Directors of Divisions and other MCD officials
	Dec. 2014	Seminar on WTO Customs Valuation and PCA	25	Officials of MCD and Outstation Divisions
	Jan. 2015	Seminar on HS Classification and Advance Ruling	32	MCD officials
	Mar. 2015	Training on Customs Valuation and PCA	21	MCD officials (mainly Customs Inspector)
	June 2015	JICA National Training on Customs Areas for Myanmar	37	MCD officials
	Aug. –Sep. 2015	Training on Customs Valuation	25	MCD officials (mainly Customs Inspector)
	Oct. 2015	Seminar on PCA	30	MCD officials (mainly Customs Inspector)
The total number of participants in training in			190	

Type	Date conducted	Contents	No of participants	Major Participants
	Myanmar			
[Training in Japan]				
	Feb. –Mar. 2014	NACCS/CIS	12	MCD officials
	June 2014	NACCS/CIS	12	MCD officials
	Oct. 2015	NACCS/CIS	13	MCD officials (MACCS Division)
	Nov. 2015	Seminar for CLMV Customs Warehousing Procedures	3	MCD officials
	Jan. 2016	Seminar for Myanmar Customs Valuation and Post Clearance Audit	12	MCD officials
	Feb. 2016	Seminar for Myanmar Customs on HS Classification	12	MCD officials
	The total number of participants in Training in Japan		64	
[VNACCS/VICS Study Tour]				
	Sep.- Oct. 2014	VNACCS/VICIS	10	MCD officials
	Dec. 2015	VNACCS/VICIS	10	MCD officials
	The total number of participants in VNACCS/VICIS study tour		20	
The grand total number of participants			274	

Source: Information provided by the Project Office

2-3. Prospects of Achieving the Project Purpose

Project Purpose: Necessary environment for properly operating and maintaining MACCS/MCIS is enhanced with smooth introduction of the system based on the technology of NACCS/CIS towards Customs reform and modernization.

<i>Objectively Verifiable Indicators</i>	<i>Current level of achievements</i>
1. The rate of declared number through MACCS reaches 80 % of the total declared number of import and exports at the targeted Customs offices.	<ul style="list-style-type: none"> The rate of declared number though MACCS will be measured after the running test is completed. It is expected that MACCS/MCIS will replace the current declaration which is manually handled. To realize this, it is very crucial that many users in the private sector participate in MACCS/MCIS.
2. The number of claims against Customs procedure handled by the Customs authority decreases.	<ul style="list-style-type: none"> This data has not been recorded systematically at MCD to date. Therefore, it may be difficult to measure the achievement level at the end of the cooperation term.
3. MACCS/MCIS is maintained and managed properly and	<ul style="list-style-type: none"> The capacity utilization of MACCS/MCIS will be measured after the full-scale operation of MACCS/MCIS.

Project Purpose: Necessary environment for properly operating and maintaining MACCS/MCIS is enhanced with smooth introduction of the system based on the technology of NACCS/CIS towards Customs reform and modernization.	
targeted capacity utilization at 99.0 % is attained.	<ul style="list-style-type: none"> To fulfill the targeted capacity utilization of 99.0 %, all planned activities of the Project and the Grant Aid needs to be completed successfully. Especially, it is crucial to firmly establish the structure to grasp and solve problems when the system is in trouble in cooperation with O&M vendors. MCD also needs to train system administration officials who can technically communicate with O&M vendors in cases of system troubles.

Overall Assessment for Project Purpose

The Project is moving forward to fulfill the set purpose of enhancing the environment necessary for proper O&M of MACCS/MCIS towards Customs reform and modernization. Once MACCS/MCIS is successfully introduced in Yangon Area, the Customs procedures will be dramatically modernized in that area and the Customs administration will be improved as a result of the project implementation.

2-4. Prospects of Achieving the Overall Goal

The Overall Goal is positive outcomes that the Project intends to bring in approximately three years after the project cooperation is completed.

Overall Goal: Trade facilitation in Myanmar is further promoted with securing appropriate collection of Customs and Tariff.

<i>Objectively Verifiable Indicators</i>	<i>Current level of achievements</i>									
1. Reduce the amount of time required for Customs clearance to 3 seconds for Simplified Examination under the stable Internet environment (from declaration to permission, except Manual), to X for Document Examination (from start screening to completion of examination).	<ul style="list-style-type: none"> The baseline of the amount of time required for Customs clearance is as follows. <table border="1" data-bbox="657 1182 1283 1406"> <thead> <tr> <th>Time for Customs clearance procedures</th> <th>2014</th> <th>2021 (target)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Green Channel (Simplified examination)</td> <td>1 hour 46 minutes</td> <td>3 seconds</td> </tr> <tr> <td>Yellow Channel (document examination)</td> <td>24 hours</td> <td>x</td> </tr> </tbody> </table> <p>Source: The data of time for Customs clearance procedures was from the results of Time Release Study conducted in 2014 with assistance from ADB. The data was provided by MCD.</p> <ul style="list-style-type: none"> The actual time required for Customs clearance will start to be measured after the running test of MACCS/MCIS. 	Time for Customs clearance procedures	2014	2021 (target)	Green Channel (Simplified examination)	1 hour 46 minutes	3 seconds	Yellow Channel (document examination)	24 hours	x
Time for Customs clearance procedures	2014	2021 (target)								
Green Channel (Simplified examination)	1 hour 46 minutes	3 seconds								
Yellow Channel (document examination)	24 hours	x								
2. Indicators of efficient trade processing are improved.	<ul style="list-style-type: none"> The table below shows the data of “efficiency of the clearance process” of Logistic Performance Index issued by the World Bank statistics⁹. The Myanmar’s score in 									

⁹ <http://lpi.worldbank.org/>. LPI ranks around 150 -160 countries on six dimensions of trade. The international score uses six key dimensions to benchmark countries' performance and also displays the derived overall LPI index. The logistics performance (LPI) is the weighted average of the country scores on the six key dimensions: 1) Efficiency of the clearance

Overall Goal: Trade facilitation in Myanmar is further promoted with securing appropriate collection of Customs and Tariff.

2014 is 1.97, ranking 150 out of 160 countries and the lowest among ASEAN countries. It is expected that the score will be dramatically improved after introduction of MACCS/MCIS in Myanmar.

Efficiency of the clearance process in Myanmar

Year	Customs*	Customs ranking**
2007	2.07	124/150
2010	1.94	146/155
2012	2.24	122/155
2014	1.97	150/160

* The full score is 5.

** Ranking of Myanmar/Total number of countries

2-5. Implementation Process

The Project formed the Working Group (WG) comprised of the seven sub-WGs, namely 1) Cargo, 2) Clearance, 3) Payment, 4) Risk, 5) IT, 6) User Registration, and 7) Help Desk. The members of WG consist of JICA experts and MCD counterparts. To date, the activities of WG are carried out intensively when the JICA short-term experts visit Myanmar for about two weeks in almost every month. The progress meetings are always held at the end of their visit and the progress of WG and the Grant Aid project are shared. The wrap-up meetings are also held at the end of their visit where WG reports the progress of the activities to the DG of MCD. Whenever WG raises the important issues affecting the project activities in the wrap-up meetings with the DG, the decisions are immediately made and the clear guidance or instructions are provided to WG. These practices have been significantly promoted the project progress to date.

The Project has been managed smoothly with the close communication between MCD and JICA experts. They keep close relationships to share the information, exchange ideas and discuss any issues affecting project implementation. On the other hand, the activities of WG's members are carried out through interpreters of Japanese and Myanmar language and this, in some cases, causes the miscommunications because of their capacity level of interpreting the technical terms of Customs and the frequent changes of interpreters at some sub-WGs.

As the project activities progress, the ownership and motivation of MCD becomes higher compared with the situation at the beginning of the cooperation. At the beginning, it seemed slightly difficult for MCD counterparts to have clear image on how MACCS/MCIS works and what benefits it can bring to

process (i.e., speed, simplicity and predictability of formalities) by border control agencies, including customs; 2) Quality of trade and transport related infrastructure (e.g., ports, railroads, roads, information technology); 3) Ease of arranging competitively priced shipments; 4) Competence and quality of logistics services (e.g., transport operators, customs brokers); 5) Ability to track and trace consignments; and 6) Timeliness of shipments in reaching destination within the scheduled or expected delivery time.

MCD. Through the intensive work at WG and overseas training in Japan and Vietnam, their ownership and motivation toward the Project have been promoted.

3. Evaluation Results by Five Criteria¹⁰

3-1. Relevance

The relevance of the Project is assessed as high.

Needs of Myanmar and the target groups

Although the MCD developed and introduced e-Custom system in 2011 to promote the Customs clearance, the declaration through the documents has been simultaneously required. The score of “efficiency of the clearance process” according to LPI 2012 conducted by the World Bank ranked Myanmar at 122 out of 155 countries, the lowest in the ASEAN countries. This meant that the level of capacity of Customs administration including establishment of Customs IT system in Myanmar was behind that of ASEAN member countries. On the other hand, the volume of trade had increased year by year and the average growth rate of imports from 2005 to 2012 was around 25% annually. Therefore, Myanmar needed to make the procedures of Customs clearance efficient to keep Myanmar attractive as the trade partners for foreign countries. Moreover, although the volume of trade has increased, the percentage of Customs duties in the tax revenue was remained at 3.2%¹¹ out of total tax revenue in Myanmar. Both revenue increase and trade facilitation by more efficient and modernized Customs administration were the priorities of MCD.

Consistency with the policies of the Government of Myanmar

The Government of Myanmar stressed the priority of “promotion of trade and investment as an engine for economic growth” as one of its strategic priorities. *The Framework for Economic and Social Reforms* issued in December 2012 states that the Government of Myanmar will carry out more liberalization measures such as setting up national single window liberalizing services as well as removing all non-tariff barriers in accordance with the 2015 targets for ASEAN integration. The ASEAN Economic Community launched in December 2015 encourages the trade facilitation and the ASEAN member states committed to establishing the National Single Window in order to contribute the ASEAN Single Window implementation, which can lead to strengthening customs and cross-border cooperation. Therefore, the Project aiming to enhance the capacity for National Single Window and Customs modernization by introducing automated cargo clearance system met the policy directions of the Government of Myanmar.

Consistency with the policies of the Government of Japan

“The Priority Policy for Development Cooperation FY 2015” issued by the Ministry of Foreign Affairs of Japan in April 2015 sets four key areas for development cooperation. The second key area of “enhancing strategic development cooperation for the economic growth of developing countries and Japan” stresses the policy of supporting infrastructure system export, taking advantage of Japanese technology and experience in supporting urban infrastructure development. This document also explains that Japan emphasizes the promotion of trade and investment in Mekong Region and

¹⁰ Judged on a scale from “High,” “Relatively High,” “Moderate (there were some issues),” “Relatively Low,” to “Low”.

¹¹ WCO. Annual Report 2011-2012 (page 59).

specifically stresses the policy to assist Myanmar identifying the priorities on the human resources development and institutional strengthening. In this regard, the Project has consistency with the policies of the Government of Japan. Moreover, the Project is in line with the Myanmar – Japan Joint Initiatives agreed in 2013, which aims to improve investment from Japan to Myanmar and to promote the trade between two countries.

Appropriateness of Japan's assistance

Japan has the comparative advantages of assisting Myanmar to establish the National Single Window by introducing MACCS/MCIS. Japan has international standard Customs administration utilizing NACCS/CIS for a long time as the National Single Window system. The Japan Customs also has sufficient experience as well as knowledge/skills in supporting the capacity enhancement of Customs in many ASEAN countries. Especially, Japan Customs and JICA assisted Vietnam in introducing VNACCS/VCIS based on the technology of NACCS/CIS in Japan. Therefore, it is appropriate that Japan supports Myanmar to modernize their Customs administration.

3-2. Effectiveness

The effectiveness of the Project is assessed as high.

As explained in “2-3. Prospects of Achieving the Project Purpose”, the Project has been heading for fulfilling the Project Purpose of “enhancing necessary environment for properly operating and maintaining MACCS/MCIS with smooth introduction of the system based on the technology of NACCS/CIS towards Customs reform and modernization”. Through the project activities, the MCD officials have been enhancing and deepening the knowledge of MACCS/MCIS and ready to move for the running test of MACCS/MCIS in August 2016.

Since all Outputs of the Project will directly lead to the fulfillment of the Project Purpose, the Project Purpose will be also achieved by the end of the cooperation term with the completion of all planned activities satisfying the targets set for the Project Outputs.

The important assumptions (external factors) set in PDM are 1) necessary laws and regulations are approved as scheduled in accordance with the progress of development of MACCS/MCIS, 2) necessary decisions by relevant authorities are made as scheduled in the course of the activities, 3) MACCS/MCIS are developed and introduced as planned, 4) sufficient number of staff and budget to operate and maintain MACCS/MCIS is secured, and 5) users in the private sector do not oppose introduction of MACCS/MCIS. From the commencement of the cooperation to date, any major factors adversely affecting the Project have not been observed yet. MCD has secured the budget for procurement of IT vendors and the procurement process is expected to start soon.

However, there is a concern about the progress of relocation of Customs office and the warehouse at Yangon Airport, which will cause the delay of MACCS/MCIS's installation (important assumption: No.3). If this relocation is not completed by the end of March 2016, this delay may influence the

progress of the project activities of the Grant Aid¹² partially and the achievement level of the Project Purpose. In the latter half of the cooperation term, the Project needs to carefully monitor listed important assumptions whether these will not negatively affect the Project.

3-3. Efficiency

The efficiency of the Project is assessed as relatively high.

Generation of Project Outputs

As described in “2-2. Achievement of Outputs”, the Project has been producing the expected outputs as planned for last two years.

Process of generating Project Outputs

The positive aspects of process of generating Project Outputs are as follows.

- **Utilization of inputs:** The inputs provided by the Project have been fully utilized for the generation of seven Outputs.
- **Strong commitment of Myanmar’s and Japanese Governments and JICA experts:** Since the trade facilitation by modernizing the Customs procedures and administration is one of the top priorities of the Government of Myanmar, the top management and officials of MCD deeply understood the significance of introducing MACCS/MCIS. In the Project, both JICA experts and MCD officials have devoted themselves to pursue the project activities forward with strong commitment to success in establishing IT system of Customs modernization and enhancement of Customs administration. Especially, the long-term JICA experts have promoted the project implementation assisting MCD in establishing legal framework for usage of MACCS/MCIS, follow-ups of WG’s activities and providing MCD with trainings and advices to enhance Customs Valuation, PCA and HS Classification Advance Ruling.
- **Good monitoring system:** The Project formed WG, consisting of seven sub-WGs to carry out the project activities and the progress of activities is managed very carefully sharing the information among sub-WGs. As described in “2-5. Implementation Process”, at the end of each session of WG’s activities, the progress and major issues to be discussed are reported to the DG of MCD and the necessary instructions are provided to WG. This monitoring and management system of the Project has been very effective to manage the project activities to date.
- **Good coordination of the Project with the Grant Aid Project:** Both projects have closely worked together to develop the IT system of Customs procedure and whenever any measures or adjustment were necessary to make for the detailed design or installation work of MACCS/MCIS, both team made actions very quickly.
- **Learning from the prior examples:** The training in Japan and the study tour of VNACCS/VCIS in Vietnam greatly promoted the understandings of MCD officials about IT system for Customs procedures. Especially, VNACCS/VCIS study tour was very effective to MCD officials to learn about their experience as the prior examples and helped MCD officials identify priorities to be emphasized for MACCS/MCIS introduction and good O&M. Moreover, Japan Customs and

¹² In addition, there was the slight delay of activities of the Grant Aid components (this is an external factor for this Project) such as setting up the Data Center and procurement of WAN network vendor occurred; however the Grant Aid team members, JICA experts of the Project, and MCD officials closely cooperated and carefully handled the issues. Then, this did not cause serious delays of the progress and did not affect this project as well.

Japanese IT system vendors had the knowledge and experience of running the Grant Aid project and technical cooperation project in Vietnam about Customs modernization, and this has significantly helped them implement the project activities smoothly, utilizing the lessons learned from Vietnamese case.

There are several issues pointed out although those have not substantially affected the project efficiency.

- **Quantity of personnel allocation of MCD for the Project:** It was pointed out that the number of human resources of MCD allocating for the project activities were not sufficient due to lack of MCD's human resources itself, especially at the beginning of the cooperation term. During the project implementation, MCD made efforts to increase the number of assigned personnel continuously.
- **Capacity level of IT literacy:** The IT literacy of some of sub-WG members was not sufficient to fully understand the system of MACCS/MCIS since it requires high level of IT knowledge and skills. Through the project activities, their knowledge has been increased and also MCD made efforts to allocate officials who have IT academic background.
- **Communication issue:** As described in "2-5. Implementation Process", the degree to which the interpreters of Japanese and Myanmar language are familiar with the technical terms of Customs and IT influence the degree of understanding of MCD's counterparts.

3-4. Impact

Since the Project is still in the middle of the cooperation term, it is premature to judge the impacts to be brought by the Project. The Mid-term Review Team was confirmed that the success of operation of MACCS/MCIS would certainly shorten the time required for Customs clearance and improve the score of efficiency of clearance process of LPI in Myanmar. To ensure the project impact, the Mid-term Review Team found that it would be very important for MCD to keep MACCS/MCIS in operation without any serious problems or errors.

Apart from the expected impact, the following other impact has been brought as a result of project implementation.

Improving MCD counterparts' practice and attitude toward work

The JICA experts and MCD's counterparts pointed out that the practice and attitudes of MCD counterparts toward work have been significantly improved through working closely with JICA experts. MCD's counterparts became to pay more attention to prepare for work, keep the documents in order and follow the schedule for the activities.

3-5. Sustainability

■ Policy and institutional perspective

The policy environment is still likely to be very favorable since the Government of Myanmar puts priorities on modernization of Customs procedures and enhancement of efficiency of Customs

clearance. Especially introducing the National Single Window is very important for Myanmar since this is one of the important factors to facilitate trade with ASEAN and other countries, and will contribute to implementation of the ASEAN Single Window.

The Project has provided the support for MCD to establish the laws and regulations necessary for effective operation and maintenance of MACCS/MCIS including the Revised Sea Customs Act and Land Customs Act. When other laws or regulations corresponding to use MACCS/MCIS need to be developed, the Project will support MCD in the latter half of the cooperation term. Also, the Project has been working on preparing the necessary Notifications to further enhance Customs administration. Therefore, the institutional environment for efficient Customs clearance and enhancement of Customs administration will be ensured.

■ **Financial/organisational perspective**

To date, the Ministry of Finance has allocated the budget necessary for installation of MACCS/MCIS in accordance with the request from MCD. The MCD's budget allocated from MOF was 4,564 million MMK in 2013/2014 and 15,838 million MMK in 2014/2015, tripling compared with the previous year. Moreover, MCD will introduce the declaration fees for using MACCS, and this could be the potential financial resource for MCD¹³. Since the trade facilitation through modernizing Customs procedures is one of the national priorities, it is expected that the budget and human resources necessary for good operation and maintenance of MACCS/MCIS will be ensured. In preparation for the operation of MACCS/MCIS, MCD newly established MACCS Division allocating 49 officials at this moment and plans to increase the number of officials in near future. This proves that the MCD's top management commits to success of MACCS/MCIS introduction and shows the strong leadership toward proper O&M of MACCS/MCIS. Therefore, the financial and organizational sustainability is also likely to be ensured.

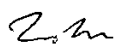
■ **Technical perspective**

The capacity of core human resources in operating and maintaining MACCS/MCIS has been enhanced through the project activities. After the running test and the full-scale operation of MACCS/MCIS, they will further improve the capacity of operating and maintaining MACCS/MCIS through actual operation and more interaction with users in the private sector. Moreover, the Project has a plan to provide more assistance to enhance the MCD's capacity of Customs administration utilizing MACCS/MCIS. This will ensure the technical sustainability of the Project. On the other hand, the Mid-term Review Team observed that there are some rooms to improve MCD's capacity of IT. This is very important for proper O&M of MACCS/MCIS. Also, it is important that O&M vendors of MACCS/MCIS will be procured and involved in the structure of O&M of MACCS/MCIS to ensure the technical sustainability.

3-6. Conclusion

In sum, the Project has successfully established environment necessary for proper operation and maintenance of MACCS/MCIS towards Customs reform and modernization to date. The relevance of the Project is evaluated as high. The Project highly met the needs of Myanmar's target groups and the

¹³ In the Myanmar's system, all declaration fees will be transferred to the national treasury.



Project is aligned with the policies of the Governments of Myanmar and Japan. The effectiveness of the Project is high; however, the Project needs to carefully monitor the external factors which may affect the achievement level of the Project Purpose. The project efficiency is assessed as relatively high since there are some issues slightly influencing process of generating the outputs. While it is premature to assess the impact, the success of MACCS/MCIS will bring positive impacts to Myanmar. The sustainability of the project is likely to be ensured if the capacity of IT officials at MCD is further enhanced.

4. Recommendations

(1) Modification of PDM

In PDM Ver.1.1, there are 3 objectively verifiable indicators that are still left blank. Based on the results of the Mid-term Review, the Joint Mid-term Review Team proposes to fill in those blanks as described below.

i) Proposed “Objectively Verifiable Indicators” No.1 of Overall Goal

Reduce the amount of time required for Customs clearance to 3 seconds for Simplified Examination under the stable Internet environment (from declaration to permission, except manual), to **2 hours** for Document Examination (from start screening to completion of examination).

ii) Proposed “Objectively Verifiable Indicators” of Output 4

The rate of participants of explanatory meetings about MACCS reaches **95%** of the total number¹⁴ of private MACCS Users in Yangon Area.

iii) Proposed “Objectively Verifiable Indicators” of Output 7-1

The number of Customs officers who received trainings reaches **400** before the end of the Project.

Besides the items listed above, other minor modifications shall be made, which are only intended to reflect the contents of the Project appropriately.

2) Further strengthening of organizational capacity of MCD toward smooth introduction and operation of MACCS/MCIS

It is highly recommended that MCD continue to make efforts to further strengthen organizational capacity of MACCS Division in terms of both quantity and quality of staff and working environment, so as to realize smooth introduction and operation of MACCS/MCIS.

3) Establishment of Notification/Order of Minister and DG related to implementation of MACCS/MCIS

In order for MACCS/MCIS to be fully operational within 2016, it is strongly expected that MCD promotes and establishes Notification/Order of Minister and DG on E-Customs manual, bonded

¹⁴ The number of users registered as MACCS users.

warehouse, foreign exchange rate, Customs Valuation and PCA enacted at an appropriate timing.

4) Mobilizing and fixing experienced interpreters

It was pointed out that frequent change of interpreters causes difficulties in having smooth communication between Myanmar side and Japanese side in some sub-WGs while other sub-WGs benefit from having fixed and experienced interpreters. It is therefore important that experienced interpreters, though limited, are mobilized and fixed as much as possible in each sub-WG.

5) Intensive preparation for full-scale operation of MACCS/MCIS

Since it requires intensive allocation of human resources and time for full-scale operation of MACCS/MCIS within 2016, it is suggested that activities under Output 7 on trainings of various areas in Customs administration be postponed, except for Customs Valuation, until MACCS/MCIS is successfully introduced.

6) Appropriate level of the user fee of MACCS/MCIS

It is crucial for MCD to set the user fee of MACCS/MCIS at an adequate level so that the indicator for the Project Purpose is met (i.e. 80 % of the total declared number of import and exports are declared through MACCS at the targeted Customs offices) and therefore sustainability of operation of MACCS/MCIS is ensured.

7) Safety operation and troubleshooting of MACCS/MCIS

IT literacy in general needs to be enhanced in MCD. Moreover, MACCS Division shall make effort to equip IT officials with capacity on technical oversight of MACCS/MCIS and be able to procure and instruct O&M IT vendors.

8) Better understanding among private users of MACCS/MCIS

Since registration and use of MACCS/MCIS by private sector is vital for successful operation of the system, it is worth considering further support for private sector (e.g. customs brokers, freight forwarders, transit transport operators, etc.) such as conducting observation program to Japan organized by the Japanese side.

End

Appendix 1: Project Design Matrix (PDM)

Project Title: Project of Capacity Development for National Single Window and Customs Modernization by Introducing Automated Cargo Clearance System

Project Duration: from 10 Feb 2014 to 9 Feb 2018(4 years)

Target Group: Officials of Myanmar Customs and relevant private users of the system such as importers, exporters, customs brokers, transit transport operators.

Ver No. 1.1 05/06/2015

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal</p> <p>Trade facilitation in Myanmar is further promoted with securing appropriate collection of Customs and Tariff.</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. Reduce the amount of time required for Customs clearance to 3 seconds for Simplified Examination under the stable Internet environment (from declaration to permission, except manual), to X for Document Examination (from start screening to completion of examination). 2. Indicators of efficient trade processing are improved. 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Annual report of MOF, Time release study, Sample survey 2. The World Bank statistics (Logistics Performance Index) 	
<p>Project Purpose</p> <p>Necessary environment for properly operating and maintaining MACCS/MCIS is enhanced with smooth introduction of the system based on the technology of NACCS/CIS towards Customs reform and modernization.</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. The rate of declared number through MACCS reaches 80 % of the total declared number of import and exports at the targeted Customs offices. 2. The number of claims against Customs procedure handled by the Customs authority decreases. 3. MACCS/MCIS is maintained and managed properly and targeted capacity utilization at 99.0 % is attained. 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Annual report of MOF 2. Questionnaire survey 3. Activity report of the Project 	<p>Sufficient number of staff and budget for operation and maintenance of MACCS/MCIS are secured.</p>
<p>Outputs</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Necessary preparation for properly introducing MACCS/MCIS is made. 2. The officials of Myanmar Customs acquire necessary knowledge and skills to use MACCS/MCIS properly. 3. Structure to operate, maintain and manage MACCS/MCIS properly is established and necessary human resource is developed. 4. Users in the private sector acquire necessary knowledge and skills to use MACCS properly. 5. Necessary laws and regulations corresponding to usage of MACCS/MCIS are established. 6. Proper information security policy and mechanism for proper operation of MACCS/MCIS is established. 7. Capacities on the core operations of Customs administration such as tariff classification, Customs valuation, post clearance audit and Customs risk management is enhanced for realizing prompt and appropriate Customs clearance utilizing MACCS/MCIS. Necessary manuals, guidance, and order corresponding to implement Customs Valuation, Post Clearance Audit, and Customs Classification Advance Ruling Systems are established. 	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. The detailed design which ensures feasibility, efficiency and effectiveness of MACCS & MCIS under Myanmar's environment is developed strictly according to the schedule. 1-2. Business processing guidelines for Customs users and Master Data are developed in accordance to the schedule. 1-3. Business processing manuals for users in the private sector are developed in accordance to the schedule. 2. The rate of participants of explanatory meeting about MACCS/MCIS reaches 95% of the total number of officers working in Yangon Area. 3-1. Help desk for MACCS/MCIS users is established in accordance to the schedule. 3-2. FAQ for system administration and problem processing is developed in accordance to the schedule. 4. The rate of participants of explanatory meetings about MACCS reaches X of the total number of private MACCS Users in Yangon Area. 5. Necessary and sufficient laws and regulations to operate MACCS/MCIS are established in accordance to the schedule. 6. Information security manuals are developed in accordance to the schedule. 7-1. The number of Customs officers who received trainings reaches X before the end of the Project. 7-2. Necessary and sufficient manuals, guidance, and order are established in accordance to the schedule. 	<p>In verifying, actual result per schedule is also evaluated.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. Detailed Design 1-2. Business processing guidelines for both Customs users and the private sector, Master Data 2. Report of the Project activities 3-1. Annual report of MOF (Conditions of facilities and staff of help desk that was set up by the project) 3-2. FAQ 4. Report of the Project activities 5. Laws and regulations 6. Information security manuals 7-1. Report of the Project activities 7-2. Report of the trainings, questionnaire survey 	<ul style="list-style-type: none"> • Necessary laws and regulations are approved as scheduled in accordance with the progress of development of MACCS/MCIS. • Necessary decisions by relevant authorities are made as scheduled in the course of the activities. • MACCS/MCIS are developed and introduced as planned. • Sufficient number of staff and budget to operate and maintain MACCS/MCIS is secured. • Users in the private sector do not oppose introduction of MACCS/MCIS.
<p>Activities</p> <p>As for following activities, counterparts of Myanmar Customs take the initiatives and the Japanese side offers necessary advices and supports.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. Deepening understandings on MACCS/MCIS through consideration of business process by introducing MACCS/MCIS including detailed design process. 1-2. Develop business processing guidelines for Customs users and Master Data. 1-3. Develop business processing manuals for users in the private sector. 2-1. Deepening understandings on MACCS/MCIS through consideration of business process by introducing MACCS/MCIS including detailed design process. 2-2. Prepare explanatory materials in accordance with each stage, such as detailed design and running test to Customs users. 2-3. Develop instructors who conduct explanations to Customs users. 2-4. Conduct explanatory meetings for Customs users in accordance with each stage such as detail design and running test. 3-1. Establish necessary structures including user's help desk and assigning technicians for administration of MACCS/MCIS. 3-2. Establish necessary structure to plan and implement running test properly. 3-3. Establish a structure to grasp and solve problems in order to operate, maintain MACCS/MCIS properly. 3-4. Develop FAQ for system administration and problem processing. 3-5. Develop concrete measures to respond to inquiries and problem handling after MACCS/MCIS starts operation. 3-6. Respond to inquiries and problem handling after the system starts operation. 4-1. Prepare documents in accordance with each stage such as detailed design and running test, which are delivered to users in the private sector and banks at an explanatory meeting. 4-2. Conduct explanatory meetings for users in the private sector and banks in accordance with each stage such as detail design and running test. 5-1. With change of system and custom-house business process by introducing MACCS/MCIS, specify relevant laws and regulations which need to be revised. 5-2. Make draft revisions of relevant laws and regulations, taking into account the preceding cases of Japan. 5-3. Consult draft revisions with stakeholders. 6-1. Develop necessary information security mechanisms. 6-2. Develop information security manuals. 7-1. Identify areas which are necessary to be enhanced for the Customs modernization in Myanmar, which includes Customs Classification, Customs Valuation, Post Clearance Audit and Risk Management. Develop training plans for identified areas. 7-2. Conduct trainings based on the developed training plans. 7-3. Develop manuals, guidance, and order on Customs Valuation 7-4. Develop manuals, guidance, and order on Post Clearance Audit 7-5. Develop manuals, guidance, and order on Customs Classification Advance Ruling System 	<p>Inputs</p> <p><u>Japanese side</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Expert(s) <ul style="list-style-type: none"> Up to three Long-term experts <ul style="list-style-type: none"> • Chief adviser • Customs administration • Coordinator Short-term experts (as needed) <ul style="list-style-type: none"> • Review of laws and regulations and custom-house business process, IT, tariff classification, Customs valuation, post clearance audit, Customs risk management, etc.) 2. Training in Japan and/or Third-country training 3. Equipment provision (as needed) 4. Project expense for field activities <ul style="list-style-type: none"> • Travel expense for experts and transportation cost • Others (as needed) 	<p><u>Myanmar side</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Human resource <ul style="list-style-type: none"> Project Director Project Manager Deputy Project Manager Counterpart WG(s) 2. Provide offices and basic logistic facilities necessary to implement the project. 3. Operating and ordinary expenses <ul style="list-style-type: none"> • Expenses for electricity, water, communication etc. • Expenses to hold explanatory meetings • Others (as needed) 	<p>Change in personnel of counterpart does not happen frequently.</p> <p>Preconditions</p> <p>Government of Myanmar does not change its policy to modernize Customs administration by introducing a new automated cargo clearance system.</p>

u m

Appendix 2: Plan of Operations
 Project of Capacity Development for National Single Window and Customs Modernization by Introducing Automated Cargo Clearance System

Ver No. 1.0
 05/06/2015

YEAR	2013			2014												2015												2016												2017											
	MONTH	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12									
TOTAL PERIOD																																																			
Grant Aid																																																			
Preparatory Survey	[Gantt chart showing preparatory survey activities from late 2013 to early 2014]																																																		
Procurement Procedure by Myanmar Customs	[Gantt chart showing procurement procedures from early 2014 to mid-2014]																																																		
Software Development (Single Source Method)	[Gantt chart showing software development phases: Contract, Detailed Design, Confirmation of Detailed Design, Program Design, Unit Test, System Integration, Product Test, Running Test, System Delivery]																																																		
Other activities by Software Development Vendor	[Gantt chart showing activities: Contract of Data Center, Drafting Business Manual, Review, LMD (2), LMD (3)]																																																		
Hardware Development (Open Tender)	[Gantt chart showing hardware development phases: Contract, Procurement, Installation, Integration]																																																		
Consultant for the Implementation of Grant Aid	[Gantt chart showing consultant activities from early 2014 to mid-2014]																																																		
Management and Supervision	[Gantt chart showing management and supervision activities from early 2014 to mid-2014]																																																		
Technical Cooperation Project (Plan of Operations)																																																			
(Output 1) Necessary preparation for properly introducing MACCS/MCIS is made.																																																			
1-1. Deepening understandings on MACCS/MCIS through consideration of business process by introducing MACCS/MCIS including detailed design process	[Gantt chart showing activity from late 2013 to mid-2014]																																																		
1-2. Develop business processing guidelines for Customs users and Master Data.	[Gantt chart showing activity from mid-2014 to late 2014]																																																		
1-3. Develop business processing manuals for users in the private sector.	[Gantt chart showing activity from mid-2014 to late 2014]																																																		
(Output 2) The officials of Myanmar Customs acquire necessary knowledge and skills to use MACCS/MCIS properly.																																																			
2-1. Deepening understandings on MACCS/MCIS through consideration of business process by introducing MACCS/MCIS including detailed design process.	[Gantt chart showing activity from late 2013 to mid-2014]																																																		
2-2. Prepare explanatory materials in accordance with each stage, such as detailed design and running test to Customs users.	[Gantt chart showing activity from mid-2014 to late 2014]																																																		
2-3. Develop instructors who conduct explanations to Customs users.	[Gantt chart showing activity from mid-2014 to late 2014]																																																		
2-4. Conduct explanatory meetings for Customs users in accordance with each stage such as detail design and running test.	[Gantt chart showing activity from mid-2014 to late 2014]																																																		
(Output 3) Structure to operate, maintain and manage MACCS/MCIS properly is established and necessary human resource is developed.																																																			
Additional human resources are under recruiting process by JICA HQ now.																																																			
3-1. Establish necessary structures including user's help desk and assigning technicians for administration of MACCS/MCIS.	[Gantt chart showing activity from mid-2014 to late 2014]																																																		
3-2. Establish necessary structure to plan and implement running test properly.	[Gantt chart showing activity from mid-2014 to late 2014]																																																		
3-3. Establish a structure to grasp and solve problems in order to operate, maintain MACCS/MCIS properly.	[Gantt chart showing activity from mid-2014 to late 2014]																																																		
3-4. Develop FAQ for system administration and problem processing.	[Gantt chart showing activity from mid-2014 to late 2014]																																																		
3-5. Develop concrete measures to respond to inquiries and problem handling after MACCS/MCIS starts operation.	[Gantt chart showing activity from mid-2014 to late 2014]																																																		
3-6. Respond to inquiries and problem handling after the system starts operation.	[Gantt chart showing activity from mid-2014 to late 2014]																																																		

2020

Schedule of JICA Midterm Review Survey
 Project of Capacity Development
 for National Single Window and Customs Modernization
 by Introducing Automated Cargo Clearance System in Myanmar

Date			Place	Event	Accommodation	Remarks
21-Feb	SUN	PM		Mr. Kurita and Ms. Kay continue to stay in Yangon from preceding week 17:15 Arrival of Mr. Kikuchi and Ms. Namura by NH 813 from Narita	Yangon	
22-Feb	MON	AM	MCD	8:45 Arrival of Mr. Masugi by TG 303 from Bangkok 10:30 Internal Meeting with MACCS Project Expert Team and JICA Myanmar Office	Yangon	
		PM	MCD MOC MCD	12:00-13:00 Courtesy call to DDG (briefing of Mid-term Review) 14:00~15:00 Interview to EU 15:30~17:00 Interviews to Mr. Win Thant		
23-Feb	TUE	AM	MCD	Interviews to Sub WG leaders (with Mr. Win Thant) 1)09:30~10:00, 2)10:10~10:40, 3)10:50~11:20, 4)11:30~12:00	Yangon	Sub WG 4: CIS, IT, Cargo, Payment Myanmar Reviewers may join
		PM	MCBA	Interviews to Sub WG leaders (with Mr. Win Thant) 5)14:00~14:30, 6)14:40~15:10 16:00-17:00 Interview to Myanmar Customs Brokers Association (MCBA)		Sub WG 2: UR, HD Myanmar Reviewers may join
24-Feb	WED	AM	MCD	Internal Meeting on the Minutes of Meetings Interviews to MACCS Project Expert Team	Yangon	
		PM		Internal Meeting on the Minutes of Meetings Interviews to MACCS Project Expert Team		
25-Feb	THU	AM	MCD	Internal Meeting on the Minutes of Meetings Meeting on the minutes of meetings with MCD members	Yangon	All Reviewers 8
		PM		19:00 Dinner hosted by DG of MCD (@Royal Garden Restaurant)		
26-Feb	FRI	AM	MCD	Finalizing the draft Minutes of Meetings with MCD members		All Reviewers 8
			MCD	14:00~15:00 Report to DG		
		PM	Embassy of Japan JICA Myanmar Office	15:30 Report to Embassy of Japan 16:30 Report to JICA Myanmar Office 19:50 Departure of Mr. Masugi by TG 306 to Bangkok 22:10 Departure of Mr. Kurita, Mr. Kikuchi, Ms.		

W.H.

W.H.

List of Interviewees

Customs Department, Ministry of Finance, Union of Myanmar	
Mr. Htun Thein	Director General
Mr. Sun Lwin	Deputy Director General
Mr. Win Thant	Director, MACCS Division
Mr. Win Myint	Director, Finance and Inspection Division
Mr. Moe Kyaw Aye	Director, Export and Import Control Division
Mr. Nay Linn Aung	Deputy Director, Preventive Division
Mr. Tet Htun Aung	Deputy Director, Finance and Inspection Division
Mr. Nay Soe	Assistant Director, Administration Division
Mr. Than Swe Tint	Assistant Director, Finance and Inspection Division
Mr. Sithu Kyaw	Staff Officer, MACCS Division
Mr. Thein Swe	Director, Administration Division
Ms. Soe Soe Lwin	Director, Administration Division (International)
Ms. Aye Aye Win	Director, Administration Division (Legal)

Myanmar Customs Brokers Association	
Mr. Nyi Nyi Aung	Chairman
Mr. Minn Maung Oo	Secretary General

European Union (Trade Development Programme)	
Mr. Steffen Grammling	Senior Trade Advisor
Mr. Frans Hartman	Customs Advisor
Ms. Thinn Htut Thidar	Chief Executive Office, Universal Link Service Co., Ltd.

Embassy of Japan in Myanmar	
Mr. Sachio Otaki	Economic and Development Assistance Section

JICA Myanmar Office	
Mr. Kyosuke Inada	Senior Representative
Mr. Nobuo Yamazaki	Representative

Project Office	
Mr. Shuhei Ueno	Chief Advisor
Ms. Asami Nakata	JICA Expert
Mr. Hiroshi Rosh Yokoyama	JICA Expert




List of Myanmar Counterparts

No.	Name	Position	Department	Position in the Project (Working Group)	Assigned Period (From-To)
1	Mr. Htun Thein	Director General		Director of the Project	24.07.2013 to present
2	Mr. Thant Zin	Director	Finance and Inspection	Working Group Leader	24.07.2013 to 22.09.2015
3	Mr. Win Thant	Deputy Director Director	Administrative, Preventive MACCS	Assistant Leader Second Project Leader Working Group Leader Clearance Sub WG Leader	24.07.2013 to present
4	Mr. Thet Naing Oo	Deputy Director Director	Import/Export	I/E clearance and Tax Sub WG Leader	24.07.2013 to 09.11.2014
5	Ms. Yadanar	Assistant Director Director	Import/Export	Member (I/E clearance and Tax)	24.07.2013 to 09.11.2015
6	Ms. Aye Aye Win	Assistant Director Director	Import/Export	Member (I/E clearance and Tax)	24.07.2013 to 09.11.2016
7	Ms. Thinn Thinn Aye	Staff Officer Assistant Director	Admin (Int'l) I/E	Member (I/E clearance and Tax) Clearance Sub WG Member	24.07.2013 to present
8	Ms. Aye Moh Moh Aung	Assistant Director	Import/Export	Member (I/E clearance and Tax)	24.07.2013 to 09.11.2014
9	Mr. Win Myint	Deputy Director Director	Admin (ICT) I/E, Investigation	IT Sub WG Leader	24.07.2013 to present
10	Mr. Hein Htet Aung	Assistant Director	Admin (ICT), Outstation, MACCS	IT WG Member	24.07.2013 to 09.7.2014 23.09.2015 to present
11	Ms. Soe Soe Lwin	Assistant Director	Admin (Int'l)	IT WG Member	24.07.2013 to 09.11.2014
12	Mr. Hla Myo Aung	Assistant Director	Admin, Outstation, MACCS	IT WG Member	24.07.2013 to 09.7.2014 23.09.2015 to present
13	Ms. Aye Aye Shwe	Staff Officer	Admin (ICT), Import/Export, Adm	IT WG Member	24.07.2013 to 09.11.2014
14	Mr. Moe Kyaw Aye	Deputy Director Director	Administration, Import, Export	Cargo WG Leader	24.07.2013 to present
15	Mr. Zaw Myo Aung	Assistant Director Deputy Director	Preventive, Investigation MACCS	Cargo WG Member	24.07.2013 to present
16	Mr. Saw Htee Sat	Staff Officer	Import/Export	Cargo WG Member	24.07.2013 to 09.11.2014
17	Ms. May Su Aung	Staff Officer Assistant Director	Administrative Import/Export, Investigation	Cargo WG Member	24.07.2013 to present
18	Ms. Hsu Wai Hnin	Customs Inspector Staff Officer	Preventive	Cargo WG Member	24.07.2013 to 22.09.2015
19	Ms. Thi Thi Tin	Assistant Director Deputy Director	Finance, Admin (Int'l)	Risk Sub WG Leader Risk Sub WG Member	24.07.2013 to present
20	Ms. Tin Tin Aye	Staff Officer	Investigation, Preventive, MACCS	Risk Sub WG Member	24.07.2013 to present
21	Mr. Than Swe Tint	Staff Officer Assistant Director	Admin (Int'l), Preventive, Finance	Risk Sub WG Member UR Sub WG Leader	24.07.2013 to present
22	Ms. Cho Cho Aung	Staff Officer Assistant Director	Import/Export	Risk Sub WG Member	24.07.2013 to present
23	Mr. Sai Ah Zin	Customs Inspector	Admin (Int'l)	Risk Sub WG Member	24.07.2013 to 09.11.2014
24	Ms. Swe Swe Win	Staff Officer	Finance and Inspection, MACCS	Clearance Sub WG Member	10.11.2014 to present
25	Ms. Sandar Aung	Staff Officer	Preventive, MACCS	Clearance Sub WG Member	10.11.2014 to present
26	Ms. Zar Yee Win	Customs Inspector	Administrative, MACCS	Clearance Sub WG Member	10.11.2014 to present
27	Ms. Pwint Phyu Khine	Customs Inspector	Administrative, Import/Export	Clearance Sub WG Member	24.07.2013 to 22.09.2015
28	Mr. Kyaw Naing	Assistant Director Deputy Director	Administrative, Import/Export	IT Sub WG Member	10.11.2014 to present
29	Mr. Soe Wai Zaw	Assistant Director	Administrative, Outstation	IT Sub WG Member	24.07.2013 to 22.09.2015
30	Mr. Myo Thura Win	Staff Officer	Administrative, Outstation	IT Sub WG Member	24.07.2013 to 22.09.2015
31	Mr. Aung Myo Thu	Customs Inspector	Administrative	IT Sub WG Member	24.07.2013 to 22.09.2015
32	Ms. Hnin Yu Wai	Customs Inspector Staff Officer	Administrative, Import/ Export	IT Sub WG Member	10.11.2014 to present
33	Ms. Naw Myint Myint Khin	Staff Officer	Administrative, MACCS	Cargo Sub WG Member	10.11.2014 to present
34	Mr. Nay Linn Aung	Deputy Director	Finance and Inspection, Preventive	Risk Sub WG Leader	10.11.2014 to present

List of Myanmar Counterparts

35	Ms. Nyo Nyo Win	Staff Officer	Preventive, MACCS	Risk Sub WG Member	10.11.2014 to present
36	Ms. Wynn Theingi Shwe	Staff Officer Customs Inspector	Administrative, MACCS	Risk Sub WG Member	10.11.2014 to present
37	Mr. Nay Soe	Deputy Director	Outstation, Administrative	Payment Sub WG Leader	10.11.2014 to present
38	Ms. Wai Wai Kyaw	Assistant Director	Import/Export, Administrative	Payment Sub WG Member	10.11.2014 to present
39	Ms. Ohnmar Thin	Assistant Director	Import/Export	Payment Sub WG Member	10.11.2014 to present
40	Ms. Ou Ou Zin	Customs Inspector	Administrative, Preventive	Payment Sub WG Member	10.11.2014 to present
41	Mr. Aung Naing Soe	Cashier-1 Superintendence	Finance and Inspection	Payment Sub WG Member	10.11.2014 to present
42	Mr. Aung Swe Win	Staff Officer	Outstation (Kalay), MACCS	UR Sub WG Member	10.11.2014 to present
43	Mr. Zaw Naing Htwe	Dy. Customs Inspector	Administrative, MACCS	UR Sub WG Member	10.11.2014 to 23.12.2015
44	Mr. Tin Maung Kyi	Customs Inspector	Outstation (Mawlamyaing) MACCS	UR Sub WG Member	10.11.2014 to present
45	Mr. Thiha Tun	Dy. Customs Inspector	Muse (OSS)	UR Sub WG Member	10.11.2014 to 22.09.2015
46	Ms. Saw Theingi	Customs Inspector	Administrative, MACCS	UR Sub WG Member	10.11.2014 to present
47	Mr. Htun Min	Customs Inspector	Administrative	Cargo Sub WG Leader	24.07.2013 to --.06.2015
48	Ms. Ei Phyo Lwin	Customs Inspector	Administrative, Outstation	Cargo Sub WG Leader	24.07.2013 to --.06.2015
49	Mr. Sithu Kyaw	Staff Officer	MACCS	Help Desk Sub WG Member	19.06.2015 to present
50	Mr. Kyaw Kyaw Lwin	Customs Inspector	MACCS	Help Desk Sub WG Member	19.06.2015 to present
51	Mr. Yarzar Ye Yint	Customs Inspector	MACCS	Help Desk Sub WG Member IT Sub WG Member	19.06.2015 to present
52	Mr. Kyaw Lin Aung	Customs Inspector	MACCS	Help Desk Sub WG Member	19.06.2015 to present
53	Mr. Aung Myin Thu	Customs Inspector	MACCS	Help Desk Sub WG Member Risk Sub WG Member	19.06.2015 to present
54	Mr. Maung Maung Htike	Customs Inspector	MACCS	Help Desk Sub WG Member	19.06.2015 to present
55	Ms. Sein Lae Wai	Customs Inspector	MACCS	Help Desk Sub WG Member	19.06.2015 to present
56	Mr. San Lwin	Deputy Director General		Project Leader	23.09.2015 to present
57	Mr. Tet Tun Aung	Deputy Director	Finance and Inspection	Clearance Sub WG Member	23.09.2015 to present
58	Mr. Kyaw Si Thu-2	Customs Inspector	Investigation, MACCS	Clearance Sub WG Member	23.09.2015 to present
59	Mr. Aung Zin Soe	Customs Inspector	MACCS	Clearance Sub WG Member	23.09.2015 to present
60	Mr. Han Naing Oo	Dy. Customs Inspector	MACCS	Clearance Sub WG Member	23.09.2015 to present
61	Mr. Maung Maung Htwe Sv	Deputy Director	MACCS	IT Sub WG Member	23.09.2015 to present
62	Mr. Kyaw Thu Lin	Customs Inspector	MACCS	IT Sub WG Member	23.09.2015 to present
63	Mr. Myo Thant Lwin	Dy. Customs Inspector	MACCS	IT Sub WG Member	23.09.2015 to 21.12.2015
64	Mr. Aung Thant Tun	Customs Inspector	MACCS	Cargo Sub WG Member	23.09.2015 to present
65	Mr. Han Win Htoo	Customs Inspector	MACCS	Cargo Sub WG Member	23.09.2015 to present
66	Mr. Kyaw Ko Htet	Dy. Customs Inspector	MACCS	Cargo Sub WG Member	23.09.2015 to present
67	Mr. Tun Win-5	Customs Inspector	MACCS	Risk Sub WG Member	23.09.2015 to present
68	Mr. Kaung Set Soe	Dy. Customs Inspector	MACCS	Risk Sub WG Member	23.09.2015 to present
69	Mr. Than Win-12	Customs Inspector	MACCS	Payment Sub WG Member	23.09.2015 to present
70	Mr. Win Htut Oo	Customs Inspector	MACCS	Payment Sub WG Member	23.09.2015 to present
71	Mr. Khun Aung Ko Oo	Dy. Customs Inspector	MACCS	UR Sub WG Member	23.09.2015 to present

List of Myanmar Counterparts

72	Mr. Htain Lin Htun	Dy. Customs Inspector	MACCS	Help Desk Sub WG Member	23.09.2015 to present
73	Mr. Phyo Min Win	Dy. Customs Inspector	MACCS	Help Desk Sub WG Member	23.09.2015 to present
74	Mr. Pyi Thar Hein	Customs Inspector	MACCS	IT Sub WG Member	31.12.2015 to present
75	Mr. Kyaw Nyi Nyi Chit	Customs Inspector	MACCS	UR Sub WG Member	23.12.2015 to present
76	Mr. Thiha Aung	Dy. Customs Inspector	MACCS		11.12.2015 to present
77	Mr. Pyae Toe Thein	Dy. Customs Inspector	MACCS		11.12.2015 to present
78	Ms. Shwe Zin Win	Dy. Customs Inspector	MACCS		11.12.2015 to present
79	Mr. Phone Myat Hein	Dy. Customs Inspector	MACCS		11.12.2015 to present
80	Mr. Zaw Maung Maung	Dy. Customs Inspector	MACCS		11.12.2015 to present
81	Ms. Thet Htar Zin	Dy. Customs Inspector	MACCS		11.12.2015 to present
82	Ms. Yunn Mee Mee Aung	Dy. Customs Inspector	MACCS		11.12.2015 to present
83	Ms. Kyaye Hmone Htet	Dy. Customs Inspector	MACCS		11.12.2015 to present
84	Ms. Thinzar Ko Ko	Dy. Customs Inspector	MACCS		11.12.2015 to present
85	Ms. Ei Myat Maw	Dy. Customs Inspector	MACCS		11.12.2015 to present

Zu

U

List of JICA Experts

<Long-term Experts>

Expert's Name	Expertise	Period (from)	Period (to)	Total Days	Total M/M	Remarks
Mr. Shuhei Ueno	Chief Advisor	1/9/2014	29/2/2016	546	18.0	Until 31/8/2016
Ms. Asami Nakata	Customs Administration	3/10/2014	29/2/2016	514	17.0	Until 2/10/2016
Mr. Hiroshi Yokoyama	Project Coordinator	20/12/2014	29/2/2016	436	14.3	Until 19/12/2016
				1,496	49.3	

<Short-term Experts>

Expert's Name	Period (from)	Period (to)	Times Assigned	Total Days	Total M/M	Remarks
Mr. Hideharu Tanaka	November 2013	Jun 2016	12	34	1.1	WG members
Mr. Osamu Mizui	November 2013	March 2014	8	73	2.4	WG members
Mr. Kazusaku Kiyomiya	November 2013	March 2014	8	77	2.6	WG members
Mr. Tatsuya Isobe	November 2013	March 2014	28	410	13.7	WG members
Mr. Kuniyasu Minamisawa	November 2013	March 2014	9	87	2.9	WG members
Mr. Kenji Maeda	November 2013	March 2014	8	60	2.0	WG members
Mr. Naokazu Ishii	November 2013	January 2014	3	24	0.8	WG members
Mr. Toshihito Tomiyama	November 2013	March 2014	5	25	0.8	WG members
Mr. Taro Sekiguchi	April 2014	May 2015	16	85	2.8	WG members
Mr. Takao Akiyama	May 2014	May 2014	2	12	0.4	WG members
Mr. Akifumi Ishikawa	May 2014	May 2014	2	12	0.4	WG members
Mr. Takashi Tsukada	July 2014	August 2014	13	147	4.9	WG members
Mr. Tadafumi Tsuji	July 2014	February 2016	20	226	7.5	WG members
Ms. Asami Nakata	July 2014	August 2014	2	25	0.8	WG members
Ms. Yukiko Kagohashi	August 2014	March 2015	11	129	4.3	WG members
Ms. Ayana Kawaguchi/Maeda	September 2014	March 2015	3	14	0.5	WG members
Mr. Naoki Hori	April 2015	February 2016	6	51	1.7	WG members
Mr. Yasuhito Saito	May 2015	May 2015	1	6	0.2	WG members
Mr. Shinji Taniguchi	July 2015	January 2016	3	18	0.6	WG members
Mr. Noboru Kurita	July 2015	January 2016	6	35	1.2	WG members
Mr. Tokio Yamaoka	July 2015	February 2016	8	63	2.1	WG members
Mr. Shuichi Sugiyama	July 2015	February 2016	8	110	3.7	WG members
Mr. Yasuhiro Hirai	July 2015	February 2016	8	96	3.2	WG members
Ms. Junko Kusaki	November 2015	January 2016	2	10	0.3	WG members
Ms. Junko Ota	June 2015	December 2015	7	52	1.7	WG members
Mr. Takeharu Nishimura	June 2015	December 2015	7	58	1.9	WG members
Ms. Chika Maeda	August 2014	September 2014	1	8	0.3	Custom Valuation
Ms. Yumiko Tanabe	August 2014	September 2014	1	8	0.3	Custom Valuation
Mr. Naoki Ida	January 2015	January 2015	1	6	0.2	HS Classification and Advance Ruling
Mr. Akito Shimizu	January 2015	January 2015	1	6	0.2	HS Classification and Advance Ruling
Mr. Masaaki Takaki	March 2015	April 2015	1	7	0.2	Custom Valuation
Mr. Hiroyuki Hamachi	March 2015	April 2015	1	7	0.2	Custom Valuation
Mr. Shigeaki Katsu	June 2015	June 2015	1	7	0.2	Bonded Area
Mr. Koichi Asami	August 2015	September 2015	1	7	0.2	Custom Valuation
Ms. Ayako Nakai	August 2015	September 2015	1	7	0.2	Custom Valuation
Ms. Maki Kitaura	October 2015	October 2015	1	7	0.2	PCA
Ms. Mafuyu Tamura	October 2015	October 2015	1	7	0.2	PCA
			217	2,016	67.1	

List of Participants in Overseas Training

No	Name	Position	Department	Position at Project (Working Group)	Period
NACCS (in Japan)					
1	Mr. Htun Thein	Director General			25/02/2014 - 03/03/2014
2	Mr. Thant Zin	Director	Finance & Inspection	Project Leader of MACCS Division	
3	Mr. Win Myint	Director	Administration, ICT	WG Sub Leader (IT)	
4	Ms. Soe Soe Lwin	Assistant Director	Administration, Int'l	Member (IT)	
5	Mr. Zaw Myo Aung	Assistant Director	Preventive Division	Member (Cargo)	
6	Ms. Tin Tin Aye	Staff Officer	Investigation	Member (MCIS)	
7	Ms. Thinn Thinn Aye	Staff Officer	Administration, Int'l	Member (Clearance)	
8	Ms. Aye Moh Moh Aung	Staff Officer	Ex/Im Division	Member (Clearance)	
9	Ms. Cho Cho Aung	Staff Officer	Ex/Im Division	Member (MCIS)	
10	Mr. Hein Htet Aung	Staff Officer	Administration, ICT	Member (IT)	
11	Mr. Hla Myo Aung	Staff Officer	Administration, ICT	Member (IT)	
12	Ms. Hsu Wai Hnin	Customs Inspector	Preventive Division	Admin, MACCS	
NACCS (in Japan)					
13	Mr. San Lwin	Deputy Director General			03/06/2014 - 10/06/2014
14	Mr. Win Thant	Deputy Director	Preventive Division	Assistant Leader (Clearance & Tax Payment)	
15	Mr. Moe Kyaw Aye	Assistant Director	Administration Div;	Sub WG Leader (Cargo)	
16	Mr. Thet Naing Oo	Assistant Director	Ex/Im Division	Sub WG Leader (Clearance & Tax Payment)	
17	Ms. Thi Thi Tin	Assistant Director	Finance &	Sub WG Leader (MCIS)	
18	Ms. Wai Wai Kyaw	Assistant Director	Ex/Im Division	Member (Payment)	
19	Ms. Aye Aye Win	Assistant Director	Ex/Im Division	Member (Clearance & Tax Payment)	
20	Mr. Than Swe Tint	Staff Officer	Administration	Member (MCIS)	
21	Mr. Saw Htee Set	Staff Officer	Preventive Division	Member (Cargo)	
22	Ms. May Su Aung	Staff Officer	Ex/Im Division	Member (Cargo)	
23	Ms. Aye Aye Shwe	Customs Inspector	Administration, ICT	Member (IT)	
24	Mr. Sai Ahr Zin	Deputy Customs Inspector	Administration (Int'l)	Member (IT)	
VNACCS (in Vietnam)					
25	Mr. San Lwin	Deputy Director General			29/09/2014 - 02/10/2014
26	Mr. Thant Zin	Director	Preventive Division	Project Leader of MACCS Division	
27	Mr. Win Thant	Deputy Director	Preventive Division	Assistant Leader (Clearance & Tax Payment)	
28	Mr. Moe Kyaw Aye	Deputy Director	Ex/Im Division	WG Sub Leader (Cargo)	
29	Mr. Thet Naing Oo	Deputy Director	Ex/Im Division	Sub WG Leader (Clearance & Tax Payment)	
30	Ms. Soe Soe Lwin	Deputy Director	Ex/Im Division	Member (IT)	
31	Mr. Zaw Myo Aung	Assistant Director	Investigation	Member (Cargo)	
32	Mr. Myo Thura Win	Staff Officer	Administration, ICT	Member (IT)	
33	Ms. May Su Aung	Staff Officer	Administration, Int'l	Member (Cargo)	
34	Ms. Hsu Wai Hnin	Customs Inspector	Preventive Division	Admin, MACCS	
NACCS (in Japan)					
35	Mr. Win Thant	Director, Project Leader	MACCS Division	Sub WG Leader (Clearance)	01/10/2015 - 07/10/2015
36	Mr. Nay Soe	Deputy Director	Administration Div;	Sub WG Leader (Payment)	
37	Mr. Nay Lin Aung	Deputy Director	Preventive Division	Sub WG Leader (MCIS)	
38	Mr. Maung Maung Htwe Swe	Deputy Director	Administration, ICT	Member (IT)	
39	Mr. Si Thu Kyaw	Staff Officer	MACCS Division	Sub WG Leader (Help Desk)	
40	Ms. Swe Swe Win	Staff Officer	MACCS Division	Member (Clearance)	
41	Mr. Naw Myint Myint	Staff Officer	MACCS Division	Member (Cargo)	
42	Ms. Nyo Nyo Win	Staff Officer	MACCS Division	Member (MCIS)	
43	Ms. Sandar Aung	Staff Officer	MACCS Division	Member (Clearance)	
44	Mr. Aung Swe Win	Staff Officer	MACCS Division	Member (UR)	
45	Mr. Wynn Theingi	Customs Inspector	MACCS Division	Member (Clearance)	
46	Ms. Zar Yee Win	Customs Inspector	MACCS Division	Member (Clearance)	
47	Ms. Sein Lae Wai	Customs Inspector	MACCS Division	Member (Help Desk)	
VNACCS (in Vietnam)					
48	Mr. Htun Thein	Director, Project Leader			
49	Mr. Win Thant	Director	MACCS Division	Sub WG Leader (Clearance)	

No	Name	Position	Department	Position at Project (Working Group)	Period
50	Mr. Win Myint	Director	Investigation	Sub WG Leader (IT)	21/12/2015 - 25/12/2015
51	Mr. Moe Kyaw Aye	Director	Ex/Im Division	Sub WG Leader (Cargo)	
52	Mr. Maung Maung Htwe	Deputy Director	Administration, ICT	Member (IT)	
53	Mr. Nay Soe	Deputy Director	Administration Div;	Sub WG Leader (Payment)	
54	Mr. Nay Lin Aung	Deputy Director	Preventive Division	Sub WG Leader (MCIS)	
55	Mr. Thant Swe Tint	Assistant Director	Finance &	Sub WG Leader (UR)	
56	Mr. Aung Myint Myat	Assistant Director	Administration		
57	Mr. Si Thu Kyaw	Staff Officer	MACCS Division	Sub WG Leader (Help Desk)	
Seminar for CLMV Countries on Customs Warehousing Procedures (in Japan)					
58	Mr. Win Zaw-4	Director	SEZ (Dawei)		18/11/2015 - 25/11/2015
59	Ms. Naw Myint Myint Khin	Staff Officer	MACCS Division	Member (Cargo)	
60	Ms. Wit Yei Khine Wai	Staff Officer	Administration Div;		
Seminar for Myanmar Customs Valuation and Post Clearance Audit (in Japan)					
61	Mr. Hlaing Min Htun	Director	Finance &		12/01/2016 - 15/01/2016
62	Mr. Tin Maung Tun	Assistant Director	Ex/Im Division (Valuation Section)		
63	Ms. Yin Myo Min	Assistant Director	Investigation		
64	Ms. Wai Wai Kyaw	Assistant Director	Administration Div;	Member (Payment)	
65	Ms. Tin Tin Aye	Staff Officer	MACCS Division	Member (MCIS)	
66	Mr. Nay Myo Tun	Staff Officer	Ex/Im Division		
67	Mr. Zaw Myo Kyaw	Staff Officer	Preventive Division		
68	Mr. Maung Maung Myint	Staff Officer	Ex/Im Division		
69	Ms. Nyein Nyein San	Staff Officer	Administration		
70	Mr. Khaing Htoo	Customs Inspector	Outstation Div;		
71	Mr. Thura Lwin	Customs Inspector	Administration		
72	Ms. Thet Mon Thant	Customs Inspector	EX/Im Division		
Seminar for Myanmar Customs on HS Classification (in Japan)					
73	Mr. Thein Swe	Director	Administration Div;		15/02/2016 - 19/02/2016
74	Ms. Thi Thi Tin	Deputy Director	Administration Div;		
75	Ms. Oummar Win	Assistant Director	Administration Div;		
76	Mr. Han Htwe Aung	Staff Officer	Ex/Im Division		
77	Ms. Su Mon Naing	Staff Officer	Ex/Im Division		
78	Ms. Thinzar Khine	Staff Officer	Administration Div;		
79	Ms. Su Latt Soe Min	Staff Officer	Administration Div;		
80	Mr. Zarni Min	Customs Inspector	Myawaddy OSS		
81	Mr. Tun Min	Customs Inspector	Administration Div;		
82	Ms. Than Than Soe	Customs Inspector	Investigation		
83	Ms. Ei Phyo Lwin	Customs Inspector	Outstation		
84	Ms. July Moh Moh Aung	Customs Inspector	Administration Div;		
WTO Customs valuation Workshop (in Myanmar)					
85	Mr. Thet Naing Oo	Deputy Director	Ex/Im Division		01/09/2014 - 05/09/2014
86	Mr. Nay Lin Aung	Deputy Director	Finance &		
87	Ms. Soe Soe Lwin	Deputy Director	Ex/Im Division		
88	Mr. Zaw Myo Aung	Assistant Director	Investigation	Member (Cargo)	
89	Ms. Wai Wai Kyaw	Assistant Director	Ex/Im Division	Member (Payment)	
90	Ms. Tin Tin Aye	Staff Officer	Preventive Division	Member (MCIS)	
91	Ms. Cho Cho Aung	Staff Officer	Investigation	Member (MCIS)	
92	Ms. Yin Myo Min	Staff Officer	Ex/Im Division		
93	Ms. May Su Aung	Staff Officer	Administration	Member (Cargo)	
94	Mr. Tin Maung Tun	Staff Officer	Administration Div;		
95	Mr. Myo Thura Win	Staff Officer	Administration	Member (IT)	
96	Mr. Soe Wai Zaw	Staff Officer	Administration Div; (MACCS)		
97	Ms. Aye Aye Win	Staff Officer	Investigation		
98	Ms. Hla Shwe	Staff Officer	Ex/Im Division		
99	Mr. Aung Myo Thu	Customs Inspector	Administration Div; (MACCS)		
100	Ms. Thet Mon Thant	Customs Inspector	Finance &		
101	Mr. Tun Min	Customs Inspector	Administration (HS Section)		
102	Mr. Hla Moe Thu	Customs Inspector	Outstation,		
103	Mr. Aung Moe Thu	Customs Inspector	Outstation, Lashio		
104	Ms. Lin Yu Swe	Deputy Customs Inspector	Administration (Int'l)		
Seminar on WTO CV and PCA (in Myanmar)					
105	Mr. Kyaw Kyaw Myint	Deputy Director	Administration Div;		
106	Mr. Ko Ko Tun	Assistant Director	Investigation		
107	Mr. Aung Myo	Assistant Director	Preventive Division		
108	Mr. Maung Maung Lwin	Assistant Director	Outstation Division		

No	Name	Position	Department	Position at Project (Working Group)	Period
109	Mr. Maung Maung Aung	Staff Officer	Preventive Division		01/12/2014 - 12/12/2014
110	Mr. Zaw Thiha Soe	Staff Officer	Investigation		
111	Mr. Htut Myat Aung	Staff Officer	Outstation Division		
112	Mr. Tin Myo Aung	Staff Officer	Investigation		
113	Ms. Nyo Nyo Win	Staff Officer	Preventive Division		
114	Mr. Aung Moe Thu	Customs Inspector	Outstation Division		
115	Mr. Min Kyi	Customs Inspector	Outstation Division		
116	Mr. Myo Nyunt	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
117	Mr. Myo Min Ko	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
118	Mr. Kyaw Ko Htet	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
119	Mr. Oagga	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
120	Mr. Khin Zaw-9	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
121	Mr. Zar Ni Min	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
122	Mr. Tun Lin Aung-2	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
123	Mr. Khun Aung Ko Oo	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
124	Mr. Zaw Zaw Tun	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
125	Mr. Kyaw Zwar Win Htut	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
126	Mr. Htin Linn Aung Thu	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
127	Mr. Pyae Phyo Aung-2	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
128	Ms. Myat Zin Mar	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
129	Ms. Thu Zar Aung	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
Seminar on HS Classification and Advance Ruling (in Myanmar)					
130	Mr. Kyaw Win	Director	Finance &		13/01/2015 - 16/01/2015
131	Mr. Yin Min Aung	Director	Administration Div;		
132	Mr. Win Thant	Deputy Director	Preventive Division		
133	Mr. Moe Kyaw Aye	Deputy Director	Ex/Im Div; (Valuation Section)		
134	Ms. Yadanar	Deputy Director	Ex/Im Div;		
135	Ms. Thi Thi Tin	Assistant Director	Ex/Im Div;		
136	Ms. Aye Aye Htoo	Assistant Director	Ex/Im Div;		
137	Ms. Aye Moh Moh Aung	Assistant Director	Ex/Im Div;		
138	Ms. Oummar Win	Assistant Director	Ex/Im Div;		
139	Mr. Khin Maung Linn	Assistant Director	Administration Div; (HS Section)		
140	Mr. Soe Wai Zaw	Assistant Director	MACCS Division		
141	Ms. Kalyar Kha	Staff Officer	Administration Div; (HS Section)		
142	Mr. Myo Thura Win	Staff Officer	Administration		
143	Ms. Khin Hnin Hnin Ouu	Customs Inspector	Preventive Division		
144	Ms. Thet Mon Thant	Customs Inspector	Finance &		
145	Ms. Mi Kaknyar Nan	Customs Inspector	Administration Div; (HS Section)		
146	Ms. Nyo Nyo Hlaing	Customs Inspector	Ex/Im Div;		
147	Ms. Khin Yadanar Tun	Customs Inspector	Administration Div; (HS Section)		
148	Ms. Aye Chan Moe	Customs Inspector	Ex/Im Div;		
149	Ms. Ei Phyo Lwin	Customs Inspector	Preventive Division		
150	Ms. Ei Pyae Nyan Win	Customs Inspector	Ex/Im Div;		
151	Ms. Shwe Sin Thant	Customs Inspector	Administration Div; (HS Section)		
152	Ms. Kyi Pyar Oo	Customs Inspector	Administration Div; (HS Section)		
153	Ms. Nan Thin Zar	Customs Inspector	Administration Div; (HS Section)		
154	Ms. May Myat Thu	Customs Inspector	Preventive Division		
155	Ms. Hsu Mon Naing	Customs Inspector	Administration Div; (HS Section)		

Lin

Uy

No	Name	Position	Department	Position at Project (Working Group)	Period
156	Ms. Ohmmar Aung	Customs Inspector	Administration Div; (HS Section)		
157	Ms. Su Latt Soe Min	Customs Inspector	Ex/Im Div;		
158	Ms. May Thu Aung	Customs Inspector	Outstation Division		
159	Mr. Tun Min	Customs Inspector	Administration Div;		
160	Mr. Tun Thant Zin	Deputy Customs Inspector	Preventive Division		
161	Mr. Kyaw Bo Bo	Deputy Customs Inspector	Outstation Division		
Basic Training on CV and PCA (in Myanmar)					
162	Mr. Thant Zin Tun	Assistant Director	Finance &		30/03/2015 - 03/04/2015
163	Ms. Cho Cho Aung	Assistant Director	Investigation	Member (MCIS)	
164	Mr. Aung Ko Than	Staff Officer	Finance &		
165	Ms. Yin Yin May	Staff Officer	Preventive Division		
166	Ms. Moe Moe Phay	Staff Officer	Ex/Im Div;		
167	Ms. Naw Myint Myint	Staff Officer	Administration	Member (Cargo)	
168	Ms. Wah Wah Nyein	Customs Inspector	Preventive Division		
169	Mr. Chan Myae Aung-1	Customs Inspector	Supply & Transportation		
170	Mr. Bo Bo Zaw	Customs Inspector	Ex/Im Div;		
171	Mr. Thura Lwin	Customs Inspector	Outstation Division		
172	Mr. Kyaw Linn Aung	Customs Inspector	Outstation (Muse)		
173	Mr. Zaw Zaw Htut	Customs Inspector	Outstation (Kyanetone)		
174	Ms. Su Latt Soe Min	Customs Inspector	Ex/Im Division		
175	Ms. Chaw Yu Thein	Customs Inspector	Supply & Transportation		
176	Ms. Mya Thandar Swe	Customs Inspector	Investigation		
177	Ms. Myat Zin Mar	Customs Inspector	Finance &		
178	Ms. Than Than Soe	Customs Inspector	Outstation		
179	Ms. Tun Min	Customs Inspector	Administration Div;		
180	Ms. Su Cherry Oo	Customs Inspector	Administration		
181	Mr. Myo Chit	Deputy Customs Inspector	Supply & Transportation		
182	Mr. Yan Naing Maung	Deputy Customs Inspector	Investigation Division		
JICA National Training on Customs Areas for Myanmar (in Myanmar)					
183	Mr. Kyaw Win	Director	Supply & Transportation		10/06/2015 - 12/06/2015
184	Mr. Win Thant	Director	Preventive Division	Leader, MACCS	
185	Mr. Win Myint	Director	Ex/Im Division	Sub WG Leader (IT)	
186	Mr. Moe Kyaw Aye	Director	Ex/Im Division	Sub WG Leader (Cargo)	
187	Mr. Thet Naing Oo	Director	Ex/Im Division		
188	Ms. Aye Aye Win	Director	Ex/Im Division		
189	Mr. Khin Zaw	Deputy Director	Administration Div;		
190	Mr. Zaw Myo Aung	Deputy Director	Investigation	Member (Cargo)	
191	Mr. Nay Soe	Deputy Director	Outstation Division	Sub WG Leader (Payment)	
192	Mr. Nay Lin Aung	Deputy Director	Finance &	Sub WG Leader (MCIS)	
193	Mr. Zaw Min Htwe	Deputy Director	SEZ (Dawei)		
194	Ms. Thi Thi Tin	Deputy Director	Ex/Im Div;	Member (MCIS)	
195	Mr. Phone Myint	Assistant Director	Supply & Transportation		
196	Mr. Nyi Nyi Soe	Assistant Director	Outstation Division		
197	Mr. Thant Zin Tun	Assistant Director	Finance &		
198	Ms. Wai Wai Kyaw	Assistant Director	Ex/Im Div;	Member (Payment)	
199	Mr. Than Swe Tint	Assistant Director	Preventive Division	Sub WG Leader (UR)	
200	Ms. Thinn Thinn Aye	Assistant Director	Ex/Im Div;	Member (Clearance)	
201	Ms. Cho Cho Aung	Assistant Director	Investigation	Member (MCIS)	
202	Mr. Myo Thura Win	Staff Officer	Administration	Member (IT)	
203	Ms. Tin Tin Aye	Staff Officer	Preventive Division	Member (MCIS)	
204	Ms. Swe Swe Win	Staff Officer	Finance &	Member (Clearance)	
205	Ms. Naw Myint Myint Khin	Staff Officer	Administration	Member (Cargo)	
206	Ms. Moe Moe Phay	Staff Officer	Ex/Im Div;		
207	Ms. Sandar Aung	Staff Officer	Preventive Division	Member (Clearance)	
208	Ms. Nyo Nyo Win	Staff Officer	Preventive Division	Member (MCIS)	
209	Mr. Si Thu Kyaw	Staff Officer	MACCS Division	Sub WG Leader (Help Desk)	
210	Ms. Zar Yee Win	Customs Inspector	Preventive Division	Member (Clearance)	
211	Ms. Ei Phyo Lwin	Customs Inspector	Preventive Division	Member (Cargo)	
212	Ms. Win Thigi Shwe	Customs Inspector	Administration Div;	Member (Clearance)	
213	Ms. Ou Ou Zin	Customs Inspector	Administration Div;	Member (Payment)	
214	Ms. Sein Lae Wai	Customs Inspector	MACCS Division	Member (Help Desk)	
215	Mr. Kyaw Kyaw Lwin	Customs Inspector	MACCS Division	Member (Help Desk)	

No	Name	Position	Department	Position at Project (Working Group)	Period
216	Mr. Ya Zar Yee Yint	Customs Inspector	MACCS Division	Member (IT)	
217	Mr. Kyaw Lin Aung	Customs Inspector	MACCS Division	Member (Help Desk)	
218	Mr. Maung Muang Htike	Customs Inspector	MACCS Division	Member (Help Desk)	
219	Mr. Aung Myin Thu	Customs Inspector	MACCS Division	Member (MCIS)	
Training on Customs Valuation (in Myanmar)					
220	Mr. Kyaw Naing	Deputy Director	Ex/Im Div;	Member (IT)	31/08/2015 - 04/09/2015
221	Mr. Maung Maung Myint - 8	Staff Officer	Ex/Im Div;		
222	Mr. Win Min	Staff Officer	Preventive		
223	Ms. May Thandar Thant	Staff Officer	Admin		
224	Ms. May Thu Aung	Staff Officer	Admin		
225	Mr. Tin Htun Latt	Customs Inspector	Ex/Im Div;		
226	Mr. Myint Aye - 4	Customs Inspector	Investigation		
227	Mr. Nyi Min Thu	Customs Inspector	Investigation		
228	Mr. Zay Yar Naung	Customs Inspector	Investigation		
229	Mr. Kyaw San Yu	Customs Inspector	Admin		
230	Mr. Nay Win Oo @ Mr. Nay Win Kyaw	Customs Inspector	Outstation		
231	Mr. Thaw Zin Htun	Customs Inspector	Outstation		
232	Mr. Phyo Yarzar Aung	Customs Inspector	Preventive		
233	Mr. Min Myo Myint Ohm	Customs Inspector	Supply & Transportation		
234	Mr. Lwin Oo Maung	Customs Inspector	Preventive		
235	Ms. Mya Kay Khine	Customs Inspector	Supply & Transportation		
236	Ms. July Moht Moht Aung	Customs Inspector	Admin		
237	Mr. Khaing Htoo	Customs Inspector	Admin		
238	Ms. Mya Thet Swe	Customs Inspector	Outstation		
239	Ms. Nwe Nwe Myint	Customs Inspector	Preventive		
240	Mr. Hla Myo - 4	Dy. Customs Inspe	Outstation		
241	Mr. Tayzar Maung Maung	Dy. Customs Inspe	Supply & Transportation		
242	Mr. Soe Lin Htun	Dy. Customs Inspe	Preventive		
243	Mr. Saw L Do	Dy. Customs Inspe	Outstation		
244	Ms. Khaing Su Latt	Dy. Customs Inspe	Preventive		
Seminar on Post Clearance Audit (in Myanmar)					
245	Mr. Tet Tun Aung	Deputy Director	Finance & Inspection	Sub WG Leader (Clearance)	12/10/2015 - 16/10/2015
246	Mr. Mya Win	Deputy Director	Administration Div;		
247	Mr. Saw Htoon Oo	Assistant Director	Supply & Transportation		
248	Mr. Lwin Oo	Staff Officer	Preventive Division		
249	Ms. Yin Yin May	Staff Officer	Preventive Division		
250	Ms. Thidar Tin	Staff Officer	Finance &		
251	Mr. Pyae Phyo Aung-2	Staff Officer	Administration Div;		
252	Ms. Mon Mon Zin	Staff Officer	Investigation		
253	Ms. Ei Pyae Nyan Win	Staff Officer	Administration Div;		
254	Ms. Yin Nwe Tun	Staff Officer	Ex/Im Division		
255	Ms. Nyein Nyein San	Staff Officer	Administration Div;		
256	Mr. Aung Naing Soe	Branch Head	Finance &	Member (Payment)	
257	Mr. Nay Win Lwin	Customs Inspector	Investigation		
258	Mr. Zaw Nyunt	Customs Inspector	Ex/Im Division		
259	Mr. Nyi Nyi Zaw	Customs Inspector	Ex/Im Division		
260	Mr. Aung Kyaw Win-4	Customs Inspector	Preventive Division		
261	Mr. Thein Oo-4	Customs Inspector	Preventive Division		
262	Mr. Pyae Phyo Thaik	Customs Inspector	Preventive Division		
263	Mr. Oakkar Kyaw	Customs Inspector	Outstation Division		
264	Mr. Than Htut Aung	Customs Inspector	Outstation Division		
265	Mr. Khin Maung Htun -4	Customs Inspector	Outstation Division		
266	Ms. Mya Kay Khine	Customs Inspector	Supply & Transportation		
267	Ms. Mya Thandar Swe	Customs Inspector	Outstation Division		
268	Mr. Zar Ni Min	Customs Inspector	Administration Div;		
269	Ms. Mya Thet Swe	Customs Inspector	Outstation Division		
270	Ms. Ohnmar Khine	Customs Inspector	Investigation		
271	Ms. Nan Kham War	Customs Inspector	Ex/Im Div;		
272	Mr. Tayzar Maung Maung	Deputy Customs Inspector	Supply & Transportation		
273	Mr. Tin Maung Linn	Deputy Customs Inspector	Ex/Im Div;		

Lin

03

No	Name	Position	Department	Position at Project (Working Group)	Period
274	Ms. Khaing Su Latt	Deputy Customs Inspector	Preventive Division		

List of Explanatory Meetings or Visits Arranged by the Project

As of 24/02/2016

<Briefing Session Participants Information>

Date	Topic	Target	Number of participants	Remarks
21/05/2015	General Briefing Session	Customs Officers	116	
22/05/2015	General Briefing Session	Customs Officers	119	
26/05/2015	General Briefing Session	Customs Officers	100	
05/11/2015	General Briefing Session	Customs Officers	128	Officers 103, WG Members 25
06/11/2015	General Briefing Session	Customs Officers	125	Officers 97, WG Members 28
25/08/2015	General Briefing Session	Private Users/OGAs	450	Agency 325, Company 94, OGA 13, Media 18
26/08/2015	General Briefing Session	Private Users/OGAs	350	Agency 227 (Yellow Card:150, Smart Card 62, Pink Card:15), Company 113, OGA 5, Media 5

<Cargo>

Date	Topic	Target	Remarks
22/07/2015	Briefing Session	SAD	
22/07/2015	Briefing Session	Five Star	
23/07/2015	Briefing Session	DCA	
23/07/2015	Briefing Session	Airline Companies (MAI, MNA,	
24/07/2015	Visit	Container Yard (HPT, AWPT)	
24/07/2015	Visit	Container Yard (MIP)	
27/07/2015	Visit	Container Yard (AIPT)	
27/07/2015	Visit	Container Yard (MITT)	
19/8/2015	Briefing Session	WG	
20/8/2015	Briefing Session	SAD and MFSL	
20/8/2015	Briefing Session	Airline Company(MAI/MNA/	
20/8/2015	Visit	Stores at Yangon International Airport	
21/8/2015	Briefing Session	Forwarders/NVOCC	
21/8/2015	Briefing Session	CY(HPT·AWP/MIP/AIPT/MITT)	
24/8/2015	Briefing Session	WG	
11/9/2015	Visit	Joint WG (SEZ)	
14/9/2015	Briefing Session	WG	
15/9/2015	Visit	Forwarders	
15/9/2015	Visit	Airline Companies (MAI/MNA/YAG) (at Yangon Airport)	
16/9/2015	Visit	CY(HPT·AWP/MIP/AIPT/MITT)	
16/9/2015	Visit	SAD, MFSL	
22/1/2016	Visit	CY(HPT·AWP/MIP/AIPT/MITT)	

CY: Container Yard

SAD: Shipping Agency Department

DCA: Department of Civil Aviation

MAI: Myanmar Airways International

MNA: Myanmar National Airways

YAG: Yangon Airport Group

MFSL: Myanmar Five Star Line

SEZ: Special Economic Zone

NVOCC: Non-Vessel Operating Common Carrier

HPT: Hteedan Port Terminal

AWP(T): Asia World Port (Terminal)

MIP(T) : Myanmar Industrial Port (Terminal)

MIPL: Myanmar Integrated Port Limited Wharf

MITT : Myanmar International Terminal Thilawa

AIPT : Ahlone International Port Terminal

<OGAs & Myanmar Economic Bank>

Date	Topic	Target	Remarks
23/4/2014	Briefing	OGAs	
18/7/2014	Briefing	FDA, Ministry of Agriculture and Irrigation, Ministry of Livestock and Fisheries	whole day
21/7/2014	Briefing	MOC, MOC (vender)	whole day
25/7/2014	Briefing	Myanmar Economic Bank	whole day
12/8/2014	Briefing	Ministry of Health, Ministry of Agriculture and Irrigation, Ministry of Livestock and	whole day
13/8/2014	Briefing	MOC	License and IT sections (whole day)
14/8/2014	Briefing	MOC	Certificate of Origin (whole day)
22/8/2014	Briefing	Myanmar Economic Bank	whole day
9/9/2014	Briefing	MOC	Certificate of Origin (whole day)
10/9/2014	Briefing	Ministry of Health, Ministry of Agriculture and Irrigation, Ministry of Livestock and	whole day
12/9/2014	Briefing	MOC	License and IT sections (whole day)
17/10/2014	Briefing	MOC	License section (whole day)
21/10/2014	Briefing	Ministry of Health, Ministry of Agriculture and Irrigation, Ministry of Livestock and	whole day
22/10/2014	Briefing	MOC	Certificate of Origin (whole day)
24/11/2014	Briefing	MOC	License section (whole day)
25/11/2014	Briefing	MOC	Certificate of Origin (whole day)
26/11/2014	Briefing	FDA, Ministry of Agriculture and Irrigation, Ministry of Livestock and Fisheries	whole day
23/1/2015	Briefing	MOC	License section (whole day)
26/1/2015	Briefing	FDA, Ministry of Agriculture and Irrigation, Ministry of Livestock and Fisheries	whole day
28/1/2015	Briefing	MOC	Certificate of Origin (whole day)
24/2/2015	Briefing	MOC	Certificate of Origin (AM)
18/3/2015	Briefing	FDA, Ministry of Agriculture and Irrigation, Ministry of Livestock and Fisheries	AM
24/4/2015	Briefing	MOC	License, GW Introduction Examination, Imp/Exp Information (whole day)
18/6/2015	Briefing	MOC	Imp/Exp information (AM)
18/6/2015	Briefing	MOC	License (whole day)
19/6/2015	Briefing	OGAs Briefing Session	OGA Examination (whole day)
27/7/2015	Briefing	MOC	whole day
14/9/2015	Briefing	MOC	License (AM)
11/12/2015	Briefing	MOC	vender (AM)
11/12/2015	Briefing	OGAs	PM
14/12/2015	Briefing	MOC	Imp/Exp information (AM)
22/1/2016	Briefing	MOC	In charge of ROO (AM)
25/1/2016	Briefing	OGAs	whole day
28/1/2016	Briefing	MOC (Nay Pyi Taw)	Nay Pyi Taw (AM)
28/1/2016	Briefing	Ministry of Livestock and Fisheries (Nay Pyi Taw)	Nay Pyi Taw (PM)
29/1/2016	Briefing	FDA (Nay Pyi Taw)	Nay Pyi Taw (AM)
29/1/2016	Briefing	Ministry of Agriculture and Irrigation (Nay Pyi Taw)	Nay Pyi Taw (PM)
29/1/2016	Briefing	Myanmar Economic Bank (Nay Pyi Taw)	Nay Pyi Taw (PM)
11/2/2016	Briefing	MOC	

OGA: Other Government Agency
MOC: Ministry of Commerce
FAD: Food and Drug Administration

Project Design Matrix

Project Title: Project of Capacity Development for National Single Window and Customs Modernization by Introducing Automated Cargo Clearance System

Project Duration: from 10 Feb 2014 to 9 Feb 2018 (4 years)

Target Group: Officials of Myanmar Customs and relevant private users of the system such as importers, exporters, customs brokers, transit transport operators.

Ver. 2.0 25/02/2016

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal</p> <p>Trade facilitation in Myanmar is further promoted with securing appropriate collection of Customs and Tariff.</p>	<ol style="list-style-type: none"> Reduce the amount of time required for Customs clearance to 3 seconds for Simplified Examination under the stable Internet environment (from declaration to permission, except payment by manual), to 120 minutes for Document Examination (from start screening to completion of document examination). Indicators of efficient trade processing are improved. 	<ol style="list-style-type: none"> Annual report of MOF, Time release study, Sample survey The World Bank statistics (Logistics Performance Index) 	
<p>Project Purpose</p> <p>Necessary environment for properly operating and maintaining MACCS/MCIS is enhanced with smooth introduction of the system based on the technology of NACCS/CIS towards Customs reform and modernization.</p>	<ol style="list-style-type: none"> The rate of declared number through MACCS reaches 80 % of the total declared number of import and exports at the targeted Customs offices. The number of complaints against Customs procedure handled by the Customs authority decreases¹. MACCS/MCIS is maintained and managed properly and targeted capacity utilization at 99.0 % is attained. 	<ol style="list-style-type: none"> Annual report of MOF Database of Help Desk Activity report of the Project 	<p>Sufficient number of staff and budget for operation and maintenance of MACCS/MCIS are secured.</p>
<p>Outputs</p> <ol style="list-style-type: none"> Necessary preparation for properly introducing MACCS/MCIS is made. The officials of Myanmar Customs acquire necessary knowledge and skills to use MACCS/MCIS properly. Structure to operate, maintain and manage MACCS/MCIS properly is established and necessary human resource is developed. Users² in the private sector acquire necessary knowledge and skills to use MACCS properly. Necessary laws and regulations corresponding to usage of MACCS/MCIS are established. Proper information security policy and mechanism for proper operation of MACCS/MCIS is established. Capacities on the core operations of Customs administration such as tariff classification, Customs valuation, post clearance audit and Customs risk management is enhanced for realizing prompt and appropriate Customs clearance utilizing MACCS/MCIS. Necessary manuals, guidance, and order corresponding to implement Customs Valuation, Post Clearance Audit, and Customs Classification Advance Ruling Systems are established. 	<ol style="list-style-type: none"> The detailed design which ensures feasibility, efficiency and effectiveness of MACCS/MCIS under Myanmar's environment is developed strictly according to the schedule. Business processing manuals for Customs users and Master Data are developed in accordance to the schedule. Business processing manuals for users in the private sector are developed in accordance to the schedule. The rate of participants of explanatory meeting about MACCS/MCIS reaches 95% of the total number of officials working in Yangon Area. Help desk for MACCS/MCIS users is established in accordance to the schedule. FAQ for system administration and problem processing is developed in accordance to the schedule. The rate of participants of explanatory meetings about MACCS reaches 95% of the total number³ of private MACCS Users in Yangon Area. Necessary and sufficient laws and regulations to operate MACCS/MCIS are established in accordance to the schedule. Information security manuals are developed in accordance to the schedule. The number of Customs officials who received trainings reaches 400 before the end of the Project. Necessary and sufficient manuals, guidance, and order are established in accordance to the schedule. 	<p>In verifying, actual result per schedule is also evaluated.</p> <ol style="list-style-type: none"> Detailed Design Business processing guidelines for both Customs users and the private sector, Master Data Report of the Project activities Annual report of MOF (Conditions of facilities and staff of help desk that was set up by the project) FAQ Report of the Project activities Laws and regulations Information security manuals Report of the Project activities Report of the Project activities 	<ul style="list-style-type: none"> Necessary laws and regulations are approved as scheduled in accordance with the progress of development of MACCS/MCIS. Necessary decisions by relevant authorities are made as scheduled in the course of the activities. MACCS/MCIS are developed and introduced as planned. Sufficient number of staff and budget to operate and maintain MACCS/MCIS is secured. Users in the private sector do not oppose introduction of MACCS/MCIS.
<p>Activities</p> <p>As for following activities, counterparts of Myanmar Customs take the initiatives and the Japanese side offers necessary advices and supports.</p> <ol style="list-style-type: none"> Deepening understandings on MACCS/MCIS through consideration of business process by introducing MACCS/MCIS including detailed design process. Develop business processing manuals for Customs users and Master Data. Develop business processing manuals for users in the private sector. Deepening understandings on MACCS/MCIS through consideration of business process by introducing MACCS/MCIS including detailed design process. Prepare explanatory materials in accordance with each stage, such as detailed design and running test to Customs users. Develop instructors who conduct explanations to Customs users. Conduct explanatory meetings for Customs users in accordance with each stage such as detail design and running test. Establish necessary structures including user's help desk and assigning technicians for administration of MACCS/MCIS. Establish necessary structure to plan and implement running test properly. Establish a structure to grasp and solve problems in order to operate, maintain MACCS/MCIS properly. Develop FAQ for system administration and problem processing. Develop concrete measures to respond to inquiries and problem handling after MACCS/MCIS starts operation. Respond to inquiries and problem handling after the system starts operation. Prepare documents in accordance with each stage such as detailed design and running test, which are delivered to users in the private sector and banks at an explanatory meeting. Conduct explanatory meetings for users in the private sector and banks in accordance with each stage such as detail design and running test. With change of system and custom-house business process by introducing MACCS/MCIS, specify relevant laws and regulations which need to be revised. Make draft revisions of relevant laws and regulations, taking into account the preceding cases of Japan. Consult draft revisions with stakeholders. Develop necessary information security mechanisms. Develop information security manuals. Identify areas which are necessary to be enhanced for the Customs modernization in Myanmar, which includes Customs Classification, Customs Valuation, Post Clearance Audit and Risk Management. Develop training plans for identified areas. Conduct trainings based on the developed training plans. 	<p>Inputs</p> <p><u>Japanese side</u></p> <ol style="list-style-type: none"> Expert(s) <ul style="list-style-type: none"> Up to three Long-term experts <ul style="list-style-type: none"> Chief adviser Customs administration Coordinator Short-term experts (as needed) <ul style="list-style-type: none"> Review of laws and regulations and custom-house business process, IT, tariff classification, Customs valuation, post clearance audit, Customs risk management, etc.) Training in Japan and/or Third-country training Equipment provision (as needed) Project expense for field activities <ul style="list-style-type: none"> Travel expense for experts and transportation cost Others (as needed) 	<p><u>Myanmar side</u></p> <ol style="list-style-type: none"> Human resource <ul style="list-style-type: none"> Project Director Project Manager Deputy Project Manager Counterpart WG(s) Provide offices and basic logistic facilities necessary to implement the project. Operating and ordinary expenses <ul style="list-style-type: none"> Expenses for electricity, water, communication etc. Expenses to hold explanatory meetings Others (as needed) 	<p>Change in personnel of counterpart does not happen frequently.</p> <p>Preconditions</p> <p>Government of Myanmar does not change its policy to modernize Customs administration by introducing a new automated cargo clearance system.</p>

¹ Since the baseline of this data was not available, the number of complaints against Customs procedure handled by the Customs authority should be counted at the Help Desk after March 2016 when the Help Desk of MACCS Division starts to receive inquiries.

² Users registered as MACCS users.

³ The number of users registered as MACCS users.

Wm

7-3. Develop manuals, guidance, and order on Customs Valuation 7-4. Develop manuals, guidance, and order on Post Clearance Audit 7-5. Develop manuals, guidance, and order on Customs Classification Advance Ruling System		
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

2.2

6

評価グリッド:ミャンマー通関電子化を通じたナショナルシングルウィンドウ構築及び税関近代化のための能力向上プロジェクト中間レビュー調査

達成度と実施プロセス

調査項目		指標(基準/評価方法)	必要な情報/データ	情報源	データ収集方法
大項目	小項目				
-投入	(1) 投入は計画通りに実施されたか	- 計画と実際の投入の比較	- 投入の計画と実績 - 実施運営総括表	- JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー
達成状況/実績					
- アウトプットの達成見込み	1 これまでどの程度、MACCS/MCISの適切な導入に必要な準備がなされてきたか、予定どおり準備が完了するか(成果1)	1-1 ミャンマーの環境下で実効性、効率性、有効性のあるMACCSとMCISの詳細設計が確実にスケジュールに沿って作成される。 1-2 スケジュールどおりに通関担当(税関)職員向けの業務処理ガイドラインとマスター・データが作成される。 1-3 民間業者向けの業務処理ガイドラインがスケジュールどおりに作成される。	- 詳細設計書 - 作成された通関担当(税関)職員向けの業務処理ガイドライン - マスター・データ - 作成された民間業者向けの業務処理ガイドライン	- JICA専門家 - MCD - JICA専門家 - MCD - JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー - インタビュー調査 - 資料レビュー - 質問票 - インタビュー調査 - 資料レビュー - 質問票 - インタビュー調査
	2 これまでどの程度、通関担当職員がMACCS/MCISを適切に利用するために必要な知識・スキルを獲得したか、プロジェクト終了までに獲得するか。(成果2)	2-1 ヤンゴン地区の通関担当職員の95%がMACCS/MCIS利用に関する説明会に参加する。	- 説明会の実施実績	- JICA専門家	- 資料レビュー - 質問票 - インタビュー調査
	3 これまでどの程度、MACCS/MCISを適切に運用・維持管理するための体制が整備され、必要な人材が育成されてきたか、プロジェクト終了までに体制が整備され、人材が育成されるか。(成果3)	3-1 MACCS/MCIS利用者向けのヘルプデスクがスケジュールどおりに設置される。 3-2 システム運営や問題処理のFAQがスケジュールどおりに作成される。	- 設置されたヘルプデスクの体制 - 作成されたFAQ	- JICA専門家 - MCD - MCD - JICA専門家	- 資料レビュー - 質問票 - インタビュー調査 - 資料レビュー - 質問票 - インタビュー調査
	4 これまでどの程度、民間利用者がMACCSを適切に利用するために必要な知識・スキルを獲得したか、プロジェクト終了までに獲得するか。(成果4)	4-1 ヤンゴン地区のMACCS利用者のx%がMACCS導入に関する説明会に参加する。	- 説明会の実施実績	- JICA専門家	- 資料レビュー - 質問票 - インタビュー調査
	5 これまでどの程度、MACCS/MCISの利用に対応した必要な法規程が整備されたか、プロジェクト終了までに整備されるか。(成果5)	5-1 MACCS/MCISの利用に対応した必要な法規程が整備される。	- 制定された法律、規定	- MCD - JICA専門家	- 資料レビュー - 質問票 - インタビュー調査
	6 これまでどの程度、MACCS/MCISの適切な運用に必要な情報管理体制が整備されたか、プロジェクト終了までに整備されるか。(成果6)	6-1 情報管理マニュアルがスケジュールどおりに作成される。	- 作成された情報管理マニュアル	- MCD - JICA専門家	- 資料レビュー - 質問票 - インタビュー調査
	7 これまでどの程度、MACCS/MCISを利用した迅速かつ適切な通関のため、関税分類、関税評価、税関事後調査、税関リスクマネジメント等の税関行政の中核業務遂行のための能力が向上したか、また関税評価、事後調査、関税分類、事前指示制度の実施に必要な要領、ガイダンス、通達が整備されたか、さらにこれらの今後の見込み。(成果7)	7-1 プロジェクト終了までに、x人の税関職員がトレーニングを受ける。 7-2 スケジュールどおりに、必要で充分な要領、ガイダンス、通達を作成される。	- 研修実績 - 作成された要領、ガイダンス、通達	- JICA専門家 - MCD - JICA専門家	- 資料レビュー - 質問票 - インタビュー調査 - 資料レビュー - 質問票 - インタビュー調査

評価グリッド:ミャンマー通関電子化を通じたナショナルシングルウィンドウ構築及び税関近代化のための能力向上プロジェクト中間レビュー調査

達成度と実施プロセス

調査項目		指標(基準/評価方法)	必要な情報/データ	情報源	データ収集方法
大項目	小項目				
- プロジェクト目標の達成見込み	- プロジェクト終了までに、日本のNACCS/CIS技術を活用した税関改革および近代化のためのMACCS/MCISが円滑に運用・維持管理されるための環境が強化されるか。	1 対象税関における輸出入申告数のうちMACCSを通じた申告件数の割合が80%になる。	- 輸出入申告の状況	- 財務省の年次報告書 - MCD	- インタビュー調査
		2 税関当局に対する税関手続き処理に係るクレームが減少する。	- 税関手続き処理に関するクレーム数	- MCD	- 資料レビュー - 質問票 - インタビュー調査
		3 MACCS/MCISが適切に維持管理され、目標の稼働率99.0%が達成される。	- 稼働率のデータ	- MCD - プロジェクトの実施運営総括表	- インタビュー調査 - 資料レビュー
- 上位目標の達成見込み	- プロジェクト終了後、「適切な関税徴収を確保しつつ、ミャンマーにおける貿易円滑化が促進される」の達成見込み。	1 安定したインターネット環境の下、通関所要時間が簡易審査で3秒(申告から許可まで(ただしマニュアルによる納付を除く))、書類審査でx分(書類審査開始から書類審査終了まで)になる。	- 財務省の年次報告書 通関所要時間(TRS)のデータ(もしあれば) サンプル調査	- MCD	- 質問票調査 - インタビュー調査
		2 貿易手続きの効率化指標が改善する。	- LPI(Logistics Performance Index)のデータ	- 世界銀行発行のレポートとWebサイト	- 資料レビュー
実施プロセス					
- 活動の進捗	- 活動はこれまで計画どおりに実施されたか	- 計画と実績の比較	- 計画と実績の比較(PO) - 意見 - プロジェクト関連資料	- JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー - インタビュー調査 - 質問票
- プロジェクト実施体制・システム	- プロジェクト実施を促進するために用いられた主なツールは何か、またそのツールは効果的か	- プロジェクト実施において活用されたツール(月次会議、週会議、共有ワークショップなど)	- 実施運営総括表、プロジェクト関連文書 - 意見	- JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー - インタビュー調査 - 質問票
- モニタリング体制	- プロジェクトの進捗はどのようにモニタリングされたか	- 左記の記載と同じ	- 実施運営総括表、プロジェクト関連文書 - 意見	- JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー - インタビュー調査 - 質問票
	- プロジェクトのモニタリングシステムは適切で効果的だったか				
	- モニタリング結果はプロジェクト管理に反映されたか				
- 関係機関、関係者間のコミュニケーション	- 関係機関や関係者間のコミュニケーションはプロジェクトを管理するために確立されたか	- 左記の記載と同じ	- コミュニケーション方法や頻度	- JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー - インタビュー調査 - 質問票

評価グリッド:ミャンマー通関電子化を通じたナショナルシングルウィンドウ構築及び税関近代化のための能力向上プロジェクト中間レビュー調査

達成度と実施プロセス

調査項目		指標(基準/評価方法)	必要な情報/データ	情報源	データ収集方法
大項目	小項目				
- ミャンマー側のオーナーシップ/プロジェクトへの参加度	- JICA専門家とMCDとの協力はプロジェクト期間中促進されたか	- 関係機関間の協力レベル	- 意見	- JICA専門家 - MCD	- インタビュー調査 - 資料レビュー
	- プロジェクト関係者のプロジェクト管理への参加状況 - カウンターパートの姿勢	- プロジェクト・ダイレクターとプロジェクトマネージャー、副プロジェクトマネージャーはプロジェクト管理にどの程度関与したか - カウンターパートはプロジェクト活動にどの程度関与したか - カウンターパートはプロジェクト活動に対して自発的に関与したか	- 会議の記録 - 意見/見解	- JICA専門家 - MCD	- インタビュー調査 - 資料レビュー
- カウンターパートの配置	- カウンターパート配置状況	- カウンターパートの配置は適切だったか(量・質)	- カウンターパートリスト - 見解	- JICA専門家 - MCD	- インタビュー調査 - 資料レビュー

評価グリッド:ミャンマー通関電子化を通じたナショナルシングルウィンドウ構築及び税関近代化のための能力向上プロジェクト中間レビュー調査
5項目評価

調査項目		指標(基準/評価方法)	必要な情報/データ	情報源	データ収集方法
大項目	小項目				
妥当性					
- ミャンマーの開発政策やセクター政策との整合性	- プロジェクト期間中、法的・政策的な枠組みに変更はないか	- プロジェクト目標/上位目標は依然として法的枠組や政策との整合性を保っているか	- Framework for Economic and Social Reforms 12/14/2012	- ミャンマー政府	- 資料レビュー - インタビュー調査
- 日本の政策との整合性	- プロジェクトは依然として日本政府の国別援助プログラムとの整合性を保っているか	- ミャンマーの貿易促進、通関電子化による通関業務の効率化や税関近代化は日本の政策の重点支援分野かどうか	- 対ミャンマー援助計画	- 外務省	- 資料レビュー
- ターゲットグループ/受益者のニーズとの整合性	- プロジェクト目標は依然としてターゲットグループのニーズに合致しているか	- プロジェクト目標や上位目標は、中間レビュー調査時点でもターゲットグループにとって妥当か	- ミャンマーの経済状況や、MCD、貿易に関係する民間セクターのニーズ等	- ミャンマー政府、MCD - 民間セクターのニーズ	- 資料レビュー - インタビュー調査
- JICA専門家チームの技術的な比較優位性	- 日本による協力はミャンマーの当該セクターにおける能力開発を支援する妥当性を有しているか	- 日本の専門家チームはプロジェクト目標を達成するためのノウハウを有しているか	- ミャンマー側の関連機関や関係者の意見	- MCD	- インタビュー調査
有効性					
- プロジェクト目標の達成見込み	- プロジェクト目標はプロジェクト終了までに達成される見込みか	- PDMのプロジェクト目標の指標をベースに達成度を検証する	- PDM, PO - プロジェクト関連資料 - これまでの指標の達成度	- JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー - 質問票調査 - インタビュー調査
- アウトプットのプロジェクト目標達成への貢献	- プロジェクト目標達成のために全てのアウトプットが重要だったか	- PDMのロジックをチェックする - PDMで特定されていないその他のコンポーネントがプロジェクト目標の達成に必要なだったかをチェックする	- 意見	- JICA専門家 - MCD	- 協議 - インタビュー調査
- 促進/阻害要因	- プロジェクト目標の達成に影響を及ぼした外部条件はあるか	- MACCS/MCISの開発にあわせ必要な法規定・活動が計画通り承認される。 - MACCS/MCISが計画通りに開発・可動する。 - 活動を行うにあたって、関係機関による必要な意思決定が計画通りに行われる。 - MACCS/MCISの運用・維持管理にかかる予算と人員が十分に確保される。 - 民間利用者がMACCS/MCIS導入に反対しない。	- 意見や見解 - プロジェクトの関連資料	- JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー - インタビュー調査
	- プロジェクト目標の達成の促進/阻害要因はあるか	- プロジェクト目標の達成に影響を及ぼす/及ぼした要因があったかをチェック	- 意見や見解 - プロジェクトの関連資料	- JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー - インタビュー調査
効率性					
- アウトプットの発現状況	- 計画通りにアウトプットを産出するために十分な活動が実施されたか	- 活動の進捗とアウトプットの状況をチェックする	- プロジェクト作成資料 - 実施運営総括表 - PO(APO)	- JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー - インタビュー調査 - 質問票調査
- 進捗/スケジュール	- 活動は計画どおりに実施されたか - 計画どおりにプロジェクトが実施されなかった場合、遅延の理由は何か、また遅れを取り戻すために何らかの措置が取られたか	- 計画と実績の比較	- プロジェクト作成資料 - 実施運営総括表 - PO(APO)	- JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー - インタビュー調査

評価グリッド:ミャンマー通関電子化を通じたナショナルシングルウィンドウ構築及び税関近代化のための能力向上プロジェクト中間レビュー調査

5項目評価

調査項目	指標(基準/評価方法)	必要な情報/データ	情報源	データ収集方法	
大項目 - アウトプットへの投入の変換	小項目 - 投入のタイミング、量、質はアウトプットを産出するために適切だったか	- 計画と実績の比較	- プロジェクト作成資料 - 実施運営総括表 - 投入実績表	- JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー - インタビュー調査
- 促進/阻害要因	- プロジェクトの進捗に外部条件は影響を及ぼしたか	- カウンターパート予算と人員配置は適切に配置されたか	- 実施運営総括表	- JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー - インタビュー調査
- 他のドナーや日本が支援している他のプロジェクトとの協調	- 無償資金協力事業との連携、プロジェクトは他機関が支援しているプロジェクトと協調しているか。	- 左記と同じ	- 支援状況	- MCD	- インタビュー調査
インパクト					
- 上位目標達成の見込み	- 上位目標の「適切な関税徴収を確保しつつ、ミャンマーにおける貿易円滑化が促進される」はプロジェクト目標の達成を通じて実現される見込みか	- PDMのロジックをチェックする - 上位目標に影響を及ぼしている外部要因をチェックする	- 実施運営総括表やプロジェクト関連資料 - 意見	- JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー - 質問票調査 - インタビュー調査
- その他のインパクト	- プロジェクトの実施によって生み出される可能性のあるその他のインパクト(正・負)はあるか	- MCDにもたらされる見込みのある正負の変化はあるか	- 意見、見解	- JICA専門家 - MCD	- 資料レビュー - インタビュー調査
持続性					
(1) プロジェクト効果持続の見込み	- プロジェクトによって生み出される効果がプロジェクト終了後も持続する見込み	- プロジェクト活動が関連機関によって継続される見込みがあるか	- 関連機関の現在の能力レベル - 将来の計画や見込み	- JICA専門家 - MCD	- インタビュー調査
(2) 制度/政策面	- ミャンマーにおける貿易促進や適切な税収の確保にミャンマー政府が政策の重点を置き続けるか	- 政策として左記の点が謳われているか	- 政策・計画ペーパー - 見解	- ミャンマー政府	- インタビュー調査 - 資料レビュー
	- MACCS/MCISの実施に関する制度面の整備における課題はあるか	- 左記の記載と同じ	- 見解・意見	- JICA専門家 - MCD	- インタビュー調査
(3) 組織/財政面	- プロジェクト期間終了後もMCD(財務省)は、MACCS/MCISの稼働に必要な予算を配分するか(ベンダーとの保守契約やその他必要な契約にかかる外注費も含める)	- 左記の記載と同じ	- MCDの予算状況 - 意見	- MCD	- インタビュー調査 - 資料レビュー
	- プロジェクト終了後、MCDはプロジェクトの効果を維持するために必要な活動を遂行する十分な能力を有するか(スタッフの配置や意思決定プロセス等)	- スタッフの異動等の傾向 - トップマネジメントのリーダーシップ	- スタッフ配置のデータ - 意見	- MCD - JICA専門家	- インタビュー調査
(4) 技術面	- プロジェクトで向上したスキル/技術はカウンターパートによって受け入れられ、今後も向上されるか	- トレーニングの結実 - 教育計画や教材の改訂や更新の計画	- 意見 - 計画	- MCD	- インタビュー調査

